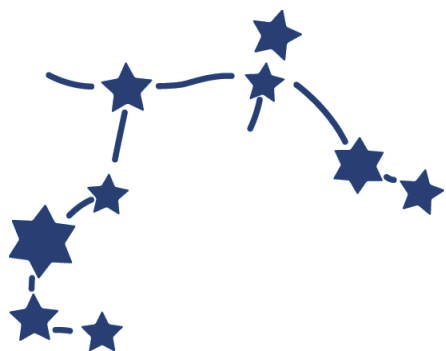




2015

大学院講義要項

マネジメント研究科
マネジメント専攻

京都産業大学大学院
GRADUATE SCHOOL KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■ BB001

科 目 名	: マネジメント特論
担 当 者	: 中井 透
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 高度なマネジメント能力の基礎を習得
授業内容・方法	: 事前に割り当てた課題の報告をもとに進める。
授 業 計 画	: 第 1 回 古典的マネジメント 第 2 回 近代的マネジメント 第 3 回 現代のマネジメント 第 4 回 歴史のパースペクティブ 第 5 回 システムのパースペクティブ 第 6 回 戦略的マネジメント能力とは 第 7 回 ナレッジ・情報マネジメント能力とは 第 8 回 協働マネジメント能力とは 第 9 回 オープン・システムとしての組織 第 10 回 戦略と組織の相関 第 11 回 社会制度としての企業・組織 第 12 回 企業の社会的責任 第 13 回 会計情報 第 14 回 現代のファイナンス 第 15 回 高度なマネジメント能力とは
評価方法・基準	: 報告の評価 60%、講義中の態度 40%
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB002

科 目 名	: 組織論特論
担 当 者	: 佐々木 利廣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: マクロ組織論についての多様な視点を理解しながら、企業組織やNPOなどの組織体のマネジメントについて考える。今年度は以下のテキストを使用するが、組織論の内容と今後の動向に関して受講生の過去の経験や知識を整理する場にした。通常の大学院生だけでなく、社会人や外国人留学生など多様なバックグラウンドをもつ院生の議論の場になればと思う。
授業内容・方法	: 今年度は以下のテキストをもとに、組織論の多様な視点について考える。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 第8章 コンティンジェンシー理論 第3回 第9章 資源依存理論 第4回 第10章 コンフリクトとパワー 第5回 第11章 取引コスト理論 第6回 第12章 組織エコロジー論 第7回 第13章 新制度派組織論 第8回 第14章 組織のネットワーク理論 第9回 第15章 組織アイデンティティ 第10回 第4章 クラスター 第11回 第7章 組織不祥事 第12回 第3章 技術と組織 第13回 第5章 多国籍企業 第14回 複眼的視点からのマクロ組織論 第15回 組織論的視点の特徴と限界
評価方法・基準	: 平常点 30%、授業時間での報告 40%、ディスカッションへの積極的参加 30%で総合的に評価する。
教 材 な ど	: 今年度は次の文献を使用する。山田耕嗣・佐藤秀典著『コア・テキストマクロ組織論』サイエンス社、2014 年
備 考	: 初回授業(4月9日木曜日)に前期報告スケジュールを決定します。履修を考えている院生はこの日に必ず参加ください。

■ BB003

科 目 名	: 組織論特論演習 I
担 当 者	: 佐々木 利廣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 組織論の過去の研究蓄積を理解しながら研究テーマに関わる先行研究のレビューを行うことが目標である。
授業内容・方法	: 基礎的研究文献のレビューと討論
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 資源依存モデルの概要と展開 第 3 回 資源依存モデルへの批判 第 4 回 組織間学習論への展開 第 5 回 ネットワーク研究への展開 第 6 回 今後の研究課題と他分野との研究交流 第 7 回 ダイナミック・ケイパビリティ論の登場と背景 第 8 回 ティースのケイパビリティ論 第 9 回 ルーティンの重要性 第 10 回 バーゲルマンの戦略進化論 第 11 回 ダイナミック・ケイパビリティ論の今後の展開 第 12 回 組織文化論と組織アイデンティティ論 第 13 回 組織アイデンティティ論の 2 つの流れ 第 14 回 研究テーマに対するマクロ組織論的視点からの接近 (1) 第 15 回 研究テーマに対するマクロ組織論的視点からの接近 (2)
評価方法・基準	: 授業での報告と討論をもとに評価
教 材 な ど	: 組織学会編『組織論レビューⅡ』をもとに、主要なトピックスを選択しながら報告と討論を繰り返す。
備 考	:

■ BB004

科 目 名	: 組織論特論演習Ⅱ
担 当 者	: 佐々木 利廣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 研究テーマに関わる先行研究のレビューを行うことで、何が問題になりどの方向に研究方向が向かっているかを確認することが目標である。
授業内容・方法	: 文献レビューをもとにした研究課題についての討論
授 業 計 画	第1回 現代組織論の動向（1）構造的視点 第2回 現代組織論の動向（2）制度的視点 第3回 現代組織論の動向（3）学習的視点 第4回 現代組織論の動向（4）社会資本的視点 第5回 研究テーマについての組織論的視点の有効性の検討（1） 第6回 研究テーマについての組織論的視点の有効性の検討（2） 第7回 研究テーマについての組織論的視点の有効性の検討（3） 第8回 研究テーマについての組織論的視点の有効性の検討（4） 第9回 研究テーマについての最新の研究動向の検討（1） 第10回 研究テーマについての最新の研究動向の検討（2） 第11回 研究テーマについての最新の研究動向の検討（3） 第12回 研究テーマについての最新の研究動向の検討（4） 第13回 各自の研究テーマについての報告（1） 第14回 各自の研究テーマについての報告（2） 第15回 各自の研究テーマについての報告（3）
評価方法・基準	: 授業での報告と討論をもとに評価
教 材 な ど	: 主要なトピックスを選択しながら各自の研究計画に沿った報告と討論を繰り返す。
備 考	:

■ BB005

科 目 名	: 組織論特論演習Ⅲ
担 当 者	: 佐々木 利廣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 修士論文の目次や各章の検討をしながら、必要な文献やデータをレビューし検討することが目的である。
授業内容・方法	: 修士論文の目次の確定と各章の課題についての討論
授 業 計 画	第1回 修士論文の目次の検討（1） 第2回 修士論文の目次の検討（2） 第3回 修士論文の目次の検討（3） 第4回 修士論文の目次の検討（4） 第5回 修士論文の目次の検討（5） 第6回 各章で必要な文献とデータ処理について検討（1） 第7回 各章で必要な文献とデータ処理について検討（2） 第8回 各章で必要な文献とデータ処理について検討（3） 第9回 各章で必要な文献とデータ処理について検討（4） 第10回 各章で必要な文献とデータ処理について検討（5） 第11回 問題意識と修士論文全体の構成について検討（1） 第12回 問題意識と修士論文全体の構成について検討（2） 第13回 問題意識と修士論文全体の構成について検討（3） 第14回 問題意識と修士論文全体の構成について検討（4） 第15回 問題意識と修士論文全体の構成について検討（5）
評価方法・基準	: 授業での報告と討論をもとに評価
教 材 な ど	: 特になし。
備 考	:

■ BB006

科 目 名	:	組織論特論演習Ⅳ
担 当 者	:	佐々木 利廣
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	修士論文の目次や各章の検討をしながら、最終的に論文完成に至るまで報告と検討を繰り返す。
授業内容・方法	:	修士論文の目次の検討と各章の記述内容についての討論
授 業 計 画	:	第1回 修士論文各章の内容についての検討（1）
	:	第2回 修士論文各章の内容についての検討（2）
	:	第3回 修士論文各章の内容についての検討（3）
	:	第4回 修士論文各章の内容についての検討（4）
	:	第5回 修士論文各章の内容についての検討（5）
	:	第6回 修士論文各章の内容についての検討（6）
	:	第7回 修士論文各章の内容についての検討（7）
	:	第8回 修士論文各章の内容についての検討（8）
	:	第9回 修士論文各章の内容についての検討（9）
	:	第10回 修士論文各章の内容についての検討（10）
	:	第11回 修士論文各章の内容についての検討（11）
	:	第12回 修士論文各章の内容についての検討（12）
	:	第13回 修士論文各章の内容についての検討（13）
	:	第14回 修士論文各章の内容についての検討（14）
	:	第15回 修士論文各章の内容についての検討（15）
評価方法・基準	:	授業での報告と討論をもとに評価
教 材 な ど	:	特になし。
備 考	:	

■ BB007

科 目 名	： 人的資源管理特論
担 当 者	： 三輪 卓己
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 1 年
開 講 期 間	： 春学期 秋学期
授 業 目 標	： 企業の経営資源はヒト・モノ・カネ・情報とされています。本講座ではその中のヒトのマネジメントについて講義します。ヒトは他の経営資源に比べ、自ら思考し、成長することもできるという特徴を持っています。そのため、そのマネジメントはヒトの意欲に配慮し、自律性を尊重して行われることが求められます。また近年、ヒトを単なる労働力ではなく、経営に必要な知識やノウハウを生み出す重要な資源として、特に重視する理論も台頭してきています。知識や情報が企業の競争力を規定する今後の社会では、ヒトのマネジメントの重要性が高まっているといえるでしょう。本講座は、企業経営全体の中で人的資源管理の意義を考察し、今後の社会に適合した人的資源管理とはどのようなものであるかを探索することをテーマにしています。 現在は日本企業の経営、人的資源管理の大きな転換期だといえます。知識・情報社会の進展により、働く人々には今までと異なる能力や行動が求められ始めました。当然ながらそれに伴う人的資源管理の見直しも必要になってきます。こうした将来に向けての大きな変化を展望し、しっかりと対峙していける心的態度や思考能力を身につけることも、この講座の目標です。受講生の皆さんと活発な議論をしていきたいと思います。
授業内容・方法	： 大きく分けて3部構成です。一部では主に日本的な人的資源管理の特性について学びます。俗に年功序列や終身雇用と呼ばれる日本的な人的資源管理ですが、その本質や経営上の意義を深く検討していきます。また、それが近年どのように変化したのか、世間で騒がれている成果主義人事管理とはどのようなものなのかについても議論します。第二部では今後より重要性が増大する人材群を個別にとりあげ、その人的資源管理のあり方を議論します。第三部では、新しい社会の人的資源管理に関わる最新のテーマとして、戦略的人的資源管理とキャリア発達の二つをとりあげ、その基礎を学びます。 なお、講義では受講生による発表や、全員での議論を重視します。受講生には自ら問題意識を育て、講義に主体的に参画することを望みます。
授 業 計 画	： 第1回 イントロダクション 人的資源管理とは何か 第2回 企業経営と人的資源管理（テキスト①） 第3回 職務設計と組織設計（テキスト①） 第4回 雇用管理（テキスト①） 第5回 人事考課制度（テキスト①） 第6回 賃金制度（テキスト①） 第7回 労使関係（テキスト①） 第8回 人的資源管理とモチベーション（テキスト①） 第9回 女性労働者（テキスト①） 第10回 高齢者（テキスト①） 第11回 研究開発技術者（テキスト①） 第12回 戦略的人的資源管理（参考書①） 第13回 戦略的人的資源管理（参考書①） 第14回 知識労働者のキャリア発達（テキスト②） 第15回 知識労働者のキャリア発達（テキスト②）
評価方法・基準	： 講義における発言、発表 50% 期末レポート 50%
教 材 な ど	： テキスト① 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著『入門人的資源管理 第2版』中央経済社、2010年。 テキスト② 三輪卓己『知識労働者のキャリア発達－キャリア志向、自律的学習、組織間移動－』中央経済社、2011年。

参考書 ①Schuler, R. S. and Jackson, S, E. (2007)
Strategic Human Resource Management, Blackwell Publishing.
その他、必要な資料や教材を都度配付、または指定します。

備 考 :

■ BB008

科 目 名	:	人的資源管理特論演習 I
担 当 者	:	三輪 卓己
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期
授 業 目 標	:	修士論文作成につながる理論の学習と問題意識の深化
授業内容・方法	:	書籍、論文等を題材として、受講生が報告を行い、教員と議論する。
授 業 計 画	:	第 1 回 雇用管理 1
		第 2 回 雇用管理 2
		第 3 回 組織と職務設計
		第 4 回 人事等級制度
		第 5 回 昇進管理
		第 6 回 評価と報酬 1
		第 7 回 評価と報酬 2
		第 8 回 評価と報酬 3
		第 9 回 人的資源管理とモチベーション 1
		第 10 回 人的資源管理とモチベーション 2
		第 11 回 キャリア開発 1
		第 12 回 キャリア開発 2
		第 13 回 キャリア開発 3
		第 14 回 国際的人的資源管理 1
		第 15 回 国際的人的資源管理 2
評価方法・基準	:	平常点
教 材 な ど	:	随時配付
備 考	:	

■ BB009

科 目 名	：	人的資源管理特論演習Ⅱ
担 当 者	：	三輪 卓己
週 時 間 数	：	2
単 位 数	：	2
配 当 年 次	：	1年
開 講 期 間	：	秋学期
授 業 目 標	：	修士論文作成にむけての問題意識の深化と研究課題の策定
授業内容・方法	：	受講生が研究したいことについての報告を行い、教員と議論する。
授 業 計 画	：	第1回 先行研究の検討1
		第2回 先行研究の検討2
		第3回 先行研究の検討3
		第4回 先行研究の検討4
		第5回 先行研究の検討5
		第6回 先行研究の検討6
		第7回 先行研究の検討7
		第8回 先行研究の検討8
		第9回 先行研究の検討9
		第10回 先行研究の検討10
		第11回 問題意識の深化1
		第12回 問題意識の深化2
		第13回 問題意識の深化3
		第14回 研究課題の策定1
		第15回 研究課題の策定2
評価方法・基準	：	平常点
教 材 な ど	：	随時配付
備 考	：	

■ BB010

科 目 名	：	人的資源管理特論演習Ⅲ
担 当 者	：	三輪 卓己
週 時 間 数	：	2
単 位 数	：	2
配 当 年 次	：	2年
開 講 期 間	：	春学期
授 業 目 標	：	修士論文の分析枠組みの策定と研究方法の検討
授業内容・方法	：	受講生が研究計画の報告を行い、教員と議論する。
授 業 計 画	：	第1回 分析枠組みの策定1
		第2回 分析枠組みの策定2
		第3回 分析枠組みの策定3
		第4回 分析枠組みの策定4
		第5回 分析枠組みの策定5
		第6回 分析枠組みの策定6
		第7回 分析枠組みの策定7
		第8回 分析枠組みの策定8
		第9回 分析枠組みの策定9
		第10回 分析枠組みの策定10
		第11回 研究方法の検討1
		第12回 研究方法の検討2
		第13回 研究方法の検討3
		第14回 研究方法の検討4
		第15回 研究方法の検討5
評価方法・基準	：	平常点
教 材 な ど	：	随時配付
備 考	：	

■ BB011

科 目 名	:	人的資源管理特論演習Ⅳ
担 当 者	:	三輪 卓己
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	修士論文の作成
授業内容・方法	:	受講生が研究の報告を行い、教員と議論する。
授 業 計 画	:	第1回 論文指導(調査や分析結果の整理)1
		第2回 論文指導(調査や分析結果の整理)2
		第3回 論文指導(調査や分析結果の整理)3
		第4回 論文指導(調査や分析結果の整理)4
		第5回 論文指導(調査や分析結果の整理)5
		第6回 論文指導(調査や分析結果の整理)6
		第7回 論文指導(調査や分析結果の整理)7
		第8回 論文指導(調査や分析結果の整理)8
		第9回 論文指導(調査や分析結果の整理)9
		第10回 論文指導(調査や分析結果の整理)10
		第11回 論文指導(結論とインプリケーション) 1
		第12回 論文指導(結論とインプリケーション) 2
		第13回 論文指導(結論とインプリケーション) 3
		第14回 論文指導(結論とインプリケーション) 4
		第15回 論文指導(結論とインプリケーション) 5
評価方法・基準	:	平常点
教 材 な ど	:	随時配付
備 考	:	

■ BB012

科 目 名	: 経営戦略論特論
担 当 者	: 箕輪 雅美
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 経営戦略の基本的な理論や概念を使用し、ケースを分析することによって、実践力を養成する。
授業内容・方法	: 現実の企業のケーススタディを各受講者が予め分析した上で、全受講者による討論を行い、最後に教員による解説を付す。
授 業 計 画	: 第1回 ケース分析の目的と方法 第2回 ケース1「小林製薬」討論 第3回 ケース1「小林製薬」解説 第4回 ケース2「ベネッセ」討論 第5回 ケース2「ベネッセ」解説 第6回 ケース3「電通」討論 第7回 ケース3「電通」解説 第8回 ケース4「ヤマト運輸」討論 第9回 ケース4「ヤマト運輸」解説 第10回 ケース5「花王」討論 第11回 ケース5「花王」解説 第12回 ケース6「アサヒビール」討論 第13回 ケース6「アサヒビール」解説 第14回 ケース7「トリンプ」討論 第15回 ケース7「トリンプ」解説
評価方法・基準	: レポート、発表、平常点を加味して評価する。
教 材 な ど	: 使用するケースの入手方法については授業時に指示する。
備 考	: 取り上げるケースは変更する場合があります。

■ BB013

科 目 名	: 経営戦略論特論演習 I
担 当 者	: 箕輪 雅美
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 修士論文作成に向けて、経営戦略に関する専門ジャーナルの論文を読みこなすための基礎をつくる。
授業内容・方法	: Strategic management journal 等に掲載された論文を2週に1本のペースで講読していく。講読する論文については最新のものをを用いるため、その都度指示をする。なお、初回の論文のみ、組織科学等の日本語のジャーナルの論文を用いる。
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 論文講読の方法 第3回 論文（日本語）講読1上 第4回 論文（日本語）講読1下 第5回 論文（英語）講読1上 第6回 論文（英語）講読1下 第7回 論文（英語）講読2上 第8回 論文（英語）講読2下 第9回 論文（英語）講読3上 第10回 論文（英語）講読3下 第11回 論文（英語）講読4上 第12回 論文（英語）講読4下 第13回 論文（英語）講読5上 第14回 論文（英語）講読5下 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業内の発表及びレポート
教 材 な ど	: 講読する論文のコピーを配付する。
備 考	:

■ BB014

科 目 名	: 経営戦略論特論演習Ⅱ
担 当 者	: 箕輪 雅美
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 修士論文作成に向けて、経営戦略に関する専門ジャーナルの論文を読みこなすための基礎をつくる。
授業内容・方法	: Strategic management journal 等に掲載された論文を2週に1本のペースで講読していく。講読する論文については最新のものをを用いるため、その都度指示をする。
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 論文講読1上 第3回 論文講読1下 第4回 論文講読2上 第5回 論文講読2下 第6回 論文講読3上 第7回 論文講読3下 第8回 論文講読4上 第9回 論文講読4下 第10回 論文講読5上 第11回 論文講読5下 第12回 論文講読6上 第13回 論文講読6下 第14回 論文講読7上 第15回 論文講読7下
評価方法・基準	: 授業内の発表及びレポート
教 材 な ど	: 講読する論文のコピーを配付する。
備 考	:

■ BB015

科 目 名	: 経営戦略論特論演習Ⅲ
担 当 者	: 箕輪 雅美
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 修士論文の作成
授業内容・方法	: 修士論文の作成を行うために、テーマの選定、論文の構成等について指導を行う。授業で扱う内容は、受講者の論文の進捗状況に合わせて柔軟に選択する。
授 業 計 画	: 第1回 テーマの選定について1 第2回 テーマの選定について2 第3回 修士論文作成指導1 第4回 修士論文作成指導2 第5回 修士論文作成指導3 第6回 修士論文作成指導4 第7回 修士論文作成指導5 第8回 修士論文作成指導6 第9回 修士論文作成指導7 第10回 修士論文作成指導8 第11回 修士論文作成指導9 第12回 修士論文作成指導10 第13回 修士論文作成指導11 第14回 中間報告用発表資料の作成指導1 第15回 中間報告用発表資料の作成指導2
評価方法・基準	: 授業内の発表等
教 材 な ど	: 随時資料等を配付する。
備 考	:

■ BB016

科 目 名	: 経営戦略論特論演習Ⅳ
担 当 者	: 箕輪 雅美
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 修士論文の作成
授業内容・方法	: 修士論文の作成を行うために、テーマの選定、論文の構成等について指導を行う。授業で扱う内容は、受講者の論文の進捗状況に合わせて柔軟に選択する。
授 業 計 画	: 第1回 修士論文作成指導 1 第2回 修士論文作成指導 2 第3回 修士論文作成指導 3 第4回 修士論文作成指導 4 第5回 修士論文作成指導 5 第6回 修士論文作成指導 6 第7回 修士論文作成指導 7 第8回 修士論文作成指導 8 第9回 修士論文作成指導 9 第10回 修士論文作成指導 10 第11回 修士論文作成指導 11 第12回 修士論文作成指導 12 第13回 修士論文作成指導 13 第14回 修士論文作成指導 14 第15回 修士論文作成指導 15
評価方法・基準	: 授業内の発表等
教 材 な ど	: 随時資料等を配付する。
備 考	:

■ BB017

科 目 名	: ベンチャービジネス特論
担 当 者	: 久保 亮一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 何らかの分析視点を選択しながら、ベンチャー企業に関する経営事象を理解・分析できるようにすること。
授業内容・方法	: 講義・ケース分析・発表
授 業 計 画	: 第1回 アントレプレナーシップとは (ビジネス機会の認識と開発)
	: 第2回 経営チームの役割と構成
	: 第3回 起業のプロセスと成長プロセス
	: 第4回 ビジネスモデルのイノベーションⅠ
	: 第5回 ビジネスモデルのイノベーションⅡ
	: 第6回 ベンチャー企業のファイナンスⅠ
	: 第7回 ベンチャー企業のファイナンスⅡ
	: 第8回 ベンチャー企業のイノベーション
	: 第9回 提携戦略、M&A 戦略
	: 第10回 企業家の人的ネットワーク (資源の獲得と機会認知)
	: 第11回 産業集積の理論 (クラスター)
	: 第12回 知的財産権
	: 第13回 既存企業内のアントレプレナーシップ
	: 第14回 学生発表
	: 第15回 学生発表
評価方法・基準	: 講義における発言点、平常点(60%)、発表(40%)を合わせて総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜配付します。
備 考	: 特になし

■ BB018

科 目 名	: ベンチャービジネス特論演習 I
担 当 者	: 久保 亮一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 研究方法、既存理論を学びながら、リサーチクエストと分析方法を確定させること。
授業内容・方法	: 講義・発表
授 業 計 画	: 本演習の主たる目的は、ベンチャー企業を分析対象にして修士論文を作成することである。修士論文を作成する際には、その前提となる知識を習得することが必要になる。そこで、本演習ではその前提知識を以下のように位置づけることにする。

①研究方法

②ベンチャー企業に関する知識（理論的なものと現実事象に関するものの両方を含む。）

③経営学に関する知識

① 質的研究であれ量的研究であれ、研究目的を設定し、仮説を構築し、それをいかに裏づけていくかという作業は、修士論文作成に必須であると担当者は考えている。さらに、質的・量的研究のどちらを選択するにしろ、インタビュー調査を行うことを義務付けることにしたい。

② ベンチャー企業を対象にした理論的な知識や現実事象に関する理解がなければ、意味のある研究目的を設定することが困難になる。この点に関しては、トピックを設けつつ、そのトピックに関する書籍や論文を可能な限り多く読むことが必要になると思われる。同時に、ベンチャー企業に関する現実事象を、雑誌記事やメディアから吸収する努力が欠かせないだろう。

③ ベンチャー企業に関する理論は発展途上の段階にある。そこで、本演習では戦略論と組織論から構成される経営学の知見を主たる分析視点として設定したい（テーマによっては社会学的な知識も必要になることがある）。よって、戦略論と組織論の基礎を習得することが、修士論文作成に必要なことになる。

なお、研究テーマは演習希望者と面談の上、演習内で共に考え決定していくことにしたい。

評価方法・基準	: 講義における発言点、平常点（50%）、研究の進捗状況および成果発表（50%）を合わせて総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜配付します。
備 考	: 特になし

■ BB019

科 目 名	: ベンチャービジネス特論演習Ⅱ
担 当 者	: 久保 亮一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 研究方法、既存理論を学びながら、リサーチクエストと分析方法を確定させること。
授業内容・方法	: 講義・発表
授 業 計 画	: 本演習の主たる目的は、ベンチャー企業を分析対象にして修士論文を作成することである。修士論文を作成する際には、その前提となる知識を習得することが必要になる。そこで、本演習ではその前提知識を以下のように位置づけることにする。

①研究方法

②ベンチャー企業に関する知識（理論的なものと現実事象に関するものの両方を含む。）

③経営学に関する知識

① 質的研究であれ量的研究であれ、研究目的を設定し、仮説を構築し、それをいかに裏づけていくかという作業は、修士論文作成に必須であると担当者は考えている。さらに、質的・量的研究のどちらを選択するにしろ、インタビュー調査を行うことを義務付けることにしたい。

② ベンチャー企業を対象にした理論的な知識や現実事象に関する理解がなければ、意味のある研究目的を設定することが困難になる。この点に関しては、トピックを設けつつ、そのトピックに関する書籍や論文を可能な限り多く読むことが必要になると思われる。同時に、ベンチャー企業に関する現実事象を、雑誌記事やメディアから吸収する努力が欠かせないだろう。

③ ベンチャー企業に関する理論は発展途上の段階にある。そこで、本演習では戦略論と組織論から構成される経営学の知見を主たる分析視点として設定したい（テーマによっては社会学的な知識も必要になることがある）。よって、戦略論と組織論の基礎を習得することが、修士論文作成に必要なことになる。

なお、研究テーマは演習希望者と面談の上、演習内で共に考え決定していくことにしたい。

評価方法・基準	: 講義における発言点、平常点(50%)、研究の進捗状況および成果発表(50%)を合わせて総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜配付します。
備 考	: 特になし

■ BB020

科 目 名	: ベンチャービジネス特論演習Ⅲ
担 当 者	: 久保 亮一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 研究方法、既存理論を学びながら、リサーチクエスションと分析方法を確定させること。
授業内容・方法	: 講義・発表
授 業 計 画	: 本演習の主たる目的は、ベンチャー企業を分析対象にして修士論文を作成することである。修士論文を作成する際には、その前提となる知識を習得することが必要になる。そこで、本演習ではその前提知識を以下のように位置づけることにする。

①研究方法

②ベンチャー企業に関する知識（理論的なものと現実事象に関するものの両方を含む。）

③経営学に関する知識

① 質的研究であれ量的研究であれ、研究目的を設定し、仮説を構築し、それをいかに裏づけていくかという作業は、修士論文作成に必須であると担当者は考えている。さらに、質的・量的研究のどちらを選択するにしろ、インタビュー調査を行うことを義務付けることにしたい。

② ベンチャー企業を対象にした理論的な知識や現実事象に関する理解がなければ、意味のある研究目的を設定することが困難になる。この点に関しては、トピックを設けつつ、そのトピックに関する書籍や論文を可能な限り多く読むことが必要になると思われる。同時に、ベンチャー企業に関する現実事象を、雑誌記事やメディアから吸収する努力が欠かせないだろう。

③ ベンチャー企業に関する理論は発展途上の段階にある。そこで、本演習では戦略論と組織論から構成される経営学の知見を主たる分析視点として設定したい（テーマによっては社会学的な知識も必要になることがある）。よって、戦略論と組織論の基礎を習得することが、修士論文作成に必要なことになる。

なお、研究テーマは演習希望者と面談の上、演習内で共に考え決定していくことにしたい。

評価方法・基準	: 講義における発言点、平常点(50%)、研究の進捗状況および成果発表(50%)を合わせて総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜配付します。
備 考	: 特になし

■ BB021

科 目 名	: ベンチャービジネス特論演習Ⅳ
担 当 者	: 久保 亮一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 研究方法、既存理論を学びながら、リサーチクエストと分析方法を確定させること。
授業内容・方法	: 講義・発表
授 業 計 画	: 本演習の主たる目的は、ベンチャー企業を分析対象にして修士論文を作成することである。修士論文を作成する際には、その前提となる知識を習得することが必要になる。そこで、本演習ではその前提知識を以下のように位置づけることにする。

①研究方法

②ベンチャー企業に関する知識（理論的なものと現実事象に関するものの両方を含む。）

③経営学に関する知識

① 質的研究であれ量的研究であれ、研究目的を設定し、仮説を構築し、それをいかに裏づけていくかという作業は、修士論文作成に必須であると担当者は考えている。さらに、質的・量的研究のどちらを選択するにしろ、インタビュー調査を行うことを義務付けることにしたい。

② ベンチャー企業を対象にした理論的な知識や現実事象に関する理解がなければ、意味のある研究目的を設定することが困難になる。この点に関しては、トピックを設けつつ、そのトピックに関する書籍や論文を可能な限り多く読むことが必要になると思われる。同時に、ベンチャー企業に関する現実事象を、雑誌記事やメディアから吸収する努力が欠かせないだろう。

③ ベンチャー企業に関する理論は発展途上の段階にある。そこで、本演習では戦略論と組織論から構成される経営学の知見を主たる分析視点として設定したい（テーマによっては社会学的な知識も必要になることがある）。よって、戦略論と組織論の基礎を習得することが、修士論文作成に必要なことになる。

なお、研究テーマは演習希望者と面談の上、演習内で共に考え決定していくことにしたい。

評価方法・基準	: 講義における発言点、平常点(50%)、研究の進捗状況および成果発表(50%)を合わせて総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜配付します。
備 考	: 特になし

■ BB022

科 目 名	: 国際経営特論
担 当 者	: 植木 真理子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 多国籍企業はいかに国際的な環境変化に適応しながら、グローバルな活動とネットワーク化を深化させているのかという点について、その実態的な側面と理論的な側面の双方の視点から学び、国際的な視野と知見を広げる。 さらに、国際経営論にかかわる企業事例や時事問題を自分なりの視点で体系的に理解し、議論する。
授業内容・方法	: 多国籍企業はグローバル大競争時代において、世界的な規模で経営資源を最適活用し、適正利潤を確保するために、海外直接投資を行い、経営のネットワーク化を展開している。その際、いかに自社の競争優位を構築するためにナレッジを国際移転し、経営の現地化と人材育成を進めていくべきかが課題となる。 授業では、多国籍企業の戦略と組織、ナレッジの国際移転、経営・技術・品質の世界標準化と日本型経営システムの変革など国際経営諸問題の理論と実際を主要企業の事例を交えて紹介する。 なお、授業はテキストの輪読に基づき、受講学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進めていく。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 多国籍企業の生成と発展 第3回 多国籍企業の行動原理と理論 (1) 第4回 多国籍企業の行動原理と理論 (2) 第5回 多国籍企業の行動原理と理論 (3) 第6回 多国籍企業の戦略と組織 第7回 本国本社の役割と海外子会社のマネジメント 第8回 グローバル I T 化時代における知識創造 マネジメントと人材育成 第9回 知の国際移転の実態と課題 第10回 国際戦略的提携と M & A 第11回 国際ロジスティックス戦略 第12回 経営・技術・品質の世界標準化と日本型経営の変革 第13回 企業事例(1) 第14回 企業事例(2) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義への参加度 50%(ディスカッションやプレゼンテーションなど)、レポート 50%などを総合的に評価する。
教 材 な ど	: 下記の文献・論文の他に、授業の進捗状況に応じて、適宜教材を紹介していく。 1) 林倬史、古井仁編『多国籍企業とグローバルビジネス』税務経理協会、2012 年。 2) 植木英雄、植木真理子、齋藤雄志、宮下清『知を創造する経営一日米主要企業の実態の解明―』文真堂、2011 年。 3) Chesbrough, H. W. <i>Open Business Models</i> , Harvard Business School Press, 2008. 4) Teece, D. A. <i>Technological Know-How, Organizational Capabilities, and Strategic Management</i> , World Scientific, 2008.
備 考	:

■ BB023

科 目 名	: 国際経営特論演習 I
担 当 者	: 植木 真理子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 国際経営論や国際経営戦略論に関わる主要な理論や既存研究を学び、各自が設定した研究テーマに基づき、研究論文の構想を練る。
授業内容・方法	: 国際経営論や国際経営戦略論に関わる主要な理論や既存研究のレビューを行い、研究テーマの策定やフレームワークの構築を図る。また、研究計画に基づき修士論文を執筆する。
授 業 計 画	第 1 回 研究テーマ、研究計画書 第 2 回 研究の方法、フレームワーク、論文のアウトライン 第 3 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (国際経営論①) 第 4 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (国際経営論②) 第 5 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (多国籍企業論①) 第 6 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (多国籍企業論②) 第 7 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (国際経営戦略論①) 第 8 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (国際経営戦略論②) 第 9 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (国際人的資源管理論①) 第 10 回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表 (国際人的資源管理論②) 第 11 回 既存研究のサーベイのまとめ① 第 12 回 既存研究のサーベイのまとめ② 第 13 回 既存研究のサーベイのまとめ③ 第 14 回 論文のアウトライン、構成の見直し 第 15 回 まとめと今後の研究計画
評価方法・基準	: 研究発表、議論内容、毎回提出する研究レポート、研究論文により総合的に評価する。
教 材 な ど	: 研究計画に沿って、授業内に適宜指示する。
備 考	:

■ BB024

科 目 名	: 国際経営特論演習Ⅱ
担 当 者	: 植木 真理子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 国際経営論や国際経営戦略論に関わる主要な理論や既存研究を学び、各自が設定した研究テーマに基づき、研究論文を執筆する。
授業内容・方法	: 国際経営論や国際経営戦略論に関わる主要な理論や既存研究のレビューを行い、研究計画に基づき修士論文を執筆する。
授 業 計 画	第1回 研究計画書の見直し 第2回 情報収集、データ収集とその分析① 第3回 情報収集、データ収集とその分析② 第4回 情報収集、データ収集とその分析③ 第5回 情報収集、データ収集とその分析結果に対する考察 第6回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表（国際経営論） 第7回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表（多国籍企業論） 第8回 研究テーマに関する既存研究の輪読および発表（国際人的資源管理論） 第9回 論文の進捗状況報告 第10回 既存研究のサーベイのまとめ① 第11回 既存研究のサーベイのまとめ② 第12回 既存研究のサーベイのまとめ③ 第13回 論文のアウトライン、構成の見直し 第14回 論文の進捗状況報告 第15回 まとめと今後の研究計画
評価方法・基準	: 研究発表、議論内容、毎回提出する研究レポート、研究論文により総合的に評価する。
教 材 な ど	: 研究計画に沿って、授業内に適宜指示する。
備 考	:

■ BB025

科 目 名	: 国際経営特論演習Ⅲ
担 当 者	: 植木 真理子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 国際経営論や国際経営戦略論に関わる主要な理論や既存研究を学び、各自が設定した研究テーマに基づき、研究論文を執筆する。
授業内容・方法	: 国際経営論や国際経営戦略論に関わる主要な理論や既存研究のレビューを行い、研究計画に基づき修士論文を執筆する。
授 業 計 画	第1回 論文のアウトライン、構成の見直し 第2回 既存研究のサーベイのまとめ① 第3回 既存研究のサーベイのまとめ② 第4回 既存研究のサーベイのまとめ③ 第5回 事例の比較研究① 第6回 事例の比較研究② 第7回 事例の比較研究③ 第8回 事例の比較研究④ 第9回 事例の比較研究⑤ 第10回 論文の進捗状況報告 第11回 中間報告会の準備① 第12回 中間報告会の準備② 第13回 中間報告会の準備③ 第14回 論文の進捗状況報告 第15回 まとめと今後の研究計画
評価方法・基準	: 研究発表、議論内容、毎回提出する研究レポート、研究論文により総合的に評価する。
教 材 な ど	: 研究計画に沿って、授業内に適宜指示する。
備 考	:

■ BB026

科 目 名	: 国際経営特論演習Ⅳ
担 当 者	: 植木 真理子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 国際経営論や国際経営戦略論に関わる主要な理論や既存研究を学び、各自が設定した研究テーマに基づき、研究論文の執筆を行う。
授業内容・方法	: 研究テーマや研究のフレームワークに基づき修士論文を執筆する。
授 業 計 画	第1回 論文のアウトライン、構成の見直し 第2回 既存研究のサーベイのまとめ① 第3回 既存研究のサーベイのまとめ② 第4回 既存研究のサーベイのまとめ③ 第5回 事例の比較研究① 第6回 事例の比較研究② 第7回 事例の比較研究③ 第8回 論文の中間報告 第9回 論文の校正① 第10回 論文の校正② 第11回 論文の校正③ 第12回 論文の校正④ 第13回 論文の校正⑤ 第14回 最終審査の準備・打ち合わせ① 第15回 最終審査の準備・打ち合わせ②
評価方法・基準	: 研究発表、議論内容、毎回提出する研究レポート、研究論文により総合的に評価する。
教 材 な ど	: 研究計画に沿って、授業内に適宜指示する。
備 考	:

■ BB027

科 目 名	: 多国籍企業特論
担 当 者	: 林 正
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 多国籍企業論の基礎的な理論の内容をよく理解し、企業の国際的な事業活動に関する研究をどのように行い、進めていくかを学ぶことを目的とします。当該分野の論文やレポートの作成における研究課題と理論的背景の設定方法について理解することを目指します。また、履修生の理解度に応じて、定量データを用いた仮説検証型の研究、少数事例を用いた仮説構築型の研究、そして文献研究などの行い方と論文の書き方も取り上げます。
授業内容・方法	: 多国籍企業論における基礎的な理論についてテキストの輪読と報告を通じて学習します。履修生による報告にもとづき、新たな研究課題の構築を目的とした議論や研究の再評価を行います。毎回の授業では、報告担当ではない履修生にも、それぞれの内容に則した課題（A4用紙2枚程のレポートと約5分間の報告）を用意します。 以下の授業計画については、履修生数や専門分野の理解度によって、内容や日程の変更がありうることに留意してください。
授 業 計 画	: 第1回 イン트로ダクション 第2回 海外直接投資の決定要因 第3回 海外直接投資の相互浸透 第4回 多国籍企業の組織構造 第5回 トランスナショナル経営 第6回 海外子会社の役割と進化 第7回 海外市場参入戦略 第8回 ものづくりの国際展開 第9回 研究開発の配置と調整 第10回 異文化マネジメント 第11回 国際パートナーシップ 第12回 グローバルなオープンイノベーション 第13回 ボーングローバル企業 第14回 多国籍企業の社会的責任 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業中の報告の成果（40%）、毎回の課題（30%）、議論への参加度（30%）などを総合的に評価します。
教 材 な ど	: 初回の授業において教科書の説明を行います。また、授業で取り上げるトピックスには、それぞれ深く関連する多くの先行研究がありますので、その都度紹介します。 【参考図書】 浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日本経済新聞社。 （ISBN 978-4532132606, 京都産業大学図書館 請求記号 335.5 ASA） 江夏健一・長谷川信次・長谷川礼編著（2008）『国際ビジネス理論』中央経済社。 （ISBN 978-4502396106, 京都産業大学図書館 請求記号 335.5 ENA 2） 磯辺剛彦・牧野成史・クリスティーンヌチャン（2010）『国境と企業 一制度とグローバル戦略の実証分析一』東洋経済新報社。（ISBN 978-4492521809）
備 考	: 多国籍企業の経営そのものを学ぶのではなく、多国籍企業論に関する基礎的な理論や研究の方法を学ぶことに重点を置くことに注意してください。

■ BB028

科 目 名	: 生産経営情報特論
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 知的生産・物的生産のマネジメントに関する知識体系および「問題解決」に関するスキルを修得すること。
授業内容・方法	: 知的生産・物的生産そしてそのマネジメントに関する知識体系、さらにこれらマネジメント活動における経営資源としての経営情報に関する知識体系をレビューすることから始める。レビューを行いながら、問題・課題点を明らかにし、その問題の原因究明を試みながら問題認識を深め、同時に思考能力の開発・向上に努める。
授 業 計 画	: 第1回 生産経営情報特論の全般概説 第2回 知的生産・物的生産とは(一般的定義) 第3回 生産経営の一般概念(広義／狭義) 第4回 経営活動を情動的観点から捉える 第5回 経営活動と経営情報の役割 概観 第6回 経営情報処理…その経営情報を処理するとはどういうことか 第7回 経営情報・情報システム…そのための仕掛けはいかにあるべきか 第8回 組織活動において問題解決・意思決定はいかになされているのか 第9回 そのための情報処理・マネジメントはどのように行われているのか 第10回 問題解決アプローチ・問題解決週報 概説 第11回 ロジカルシンキングと経営情報 第12回 ケプナー・トリゴー法 概説 第13回 状況分析、原因分析の解説とその応用 第14回 決定分析、リスク分析の解説とその応用 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 課題に関するレポートを主に、適宜平常点を加味し総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜、プリント配付
備 考	: 授業内容は、受講生の基礎知識／専門知識のレベルを勘案し調整する。

■ BB029

科 目 名	: 生産経営情報特論演習 I
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 調査研究計画を具体化する。そして調査研究テーマに関する基本的文献を講読し、関連情報を収集、知識の深化を図る。
授業内容・方法	: 受講者の関心を勘案し、各自の調査研究テーマを模索することから始め、調査研究計画を具体化する。そして調査研究テーマに関する知識の深化を図る。具体的には、1) 問題意識を深化し、研究テーマを洗い出す。2) その中での一つの（あるいはいくつかの）テーマに関連するマネジメントの実態を把握した上で、3) そのマネジメントを支援するためのコンセプト、方法論、技法、システムに関する文献（論文の他、新聞、雑誌記事、Web 等）を探索、情報収集する。4) 収集した情報は情報システム・ツール類を活用して、分析・整理・体系化する。
授 業 計 画	第 1 回 「研究」に関する基本認識、方法論などの講義 第 2 回 研究テーマはいかに設定するかについての講義 第 3 回 調査研究の進め方、情報収集（文献検索・・・）などに関する理解 第 4 回 基本文献の講読およびディスカッション 第 5 回 同上 第 6 回 研究テーマに関するプレゼンテーションおよびディスカッション 第 7 回 前半のまとめ 第 8 回 問題解決技法(KT 法)等の基本技法の活用に関するディスカッション 第 9 回 同上 第 10 回 研究テーマのプレゼンテーションおよびディスカッション 第 11 回 事例研究に関するプレゼンテーションおよびディスカッション 第 12 回 同上 第 13 回 基本文献の講読およびディスカッション 第 14 回 後半のまとめ 第 15 回 春学期全般をとおしてのディスカッション、まとめ
評価方法・基準	: 評価にあたっては研究論文を基本に考えるが、レポートおよび日常のディスカッションも考慮に加える。
教 材 な ど	: 適宜、プリント配付。教科書：特に指定しない。参考書は適宜紹介する。
備 考	:

■ BB030

科 目 名	： 生産経営情報特論演習Ⅱ
担 当 者	： 井上 一郎
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 1年
開 講 期 間	： 秋学期
授 業 目 標	： 調査研究テーマを絞り込み、調査研究の過程の中で、コンセプト、方法論、技法、システムに関する問題点を抽出し体系化する。
授業内容・方法	： 調査研究テーマについての詳細な文献サーベイとデータ収集を行う。必要に応じてフィールド調査・実践研究を行う。さらにこのサーベイ、実践研究などの過程の中で、コンセプト、方法論、技法、システムに関する問題点を抽出し体系化する。適宜、プレゼンテーション、ディスカッションを行い、研究を深めていく。適宜、研究活動に関するレポートを提出する。
授 業 計 画	： - 第1回 春学期の基本方針確認および研究計画 - 第2回 研究テーマの決定についておよび詳細な文献サーベイについて検討 - 第3回 研究テーマについての詳細な文献サーベイとデータ収集 - 第4回 同上 - 第5回 研究テーマの構想と論文構成についての報告 - 第6回 同上 - 第7回 前半のレビュー - 第8回 調査研究方針再考および研究計画の見直し - 第9回 研究テーマについてのレポート提出そしてディスカッション - 第10回 関連文献についてのプレゼンテーションおよびディスカッション - 第11回 同上 - 第12回 研究テーマに関するプレゼンテーションおよびディスカッション - 第13回 同上 - 第14回 後半のレビュー - 第15回 秋学期全般をとおしてのディスカッション、まとめ
評価方法・基準	： 評価にあたっては研究論文を基本に考えるが、レポートおよび日常のディスカッションも考慮に加える。
教 材 な ど	： 適宜、プリント配付。 教科書：特に指定しない。参考書は適宜紹介する。
備 考	：

■ BB031

科 目 名	生産経営情報特論演習Ⅲ
担 当 者	井上 一郎
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	2年
開 講 期 間	春学期
授 業 目 標	これまでの調査・研究作業のアウトプットをレポートあるいは論文の形にまとめていく。
授業内容・方法	レポート・論文の境目玉餐（主張する中心点）を何にするのか、そして、その類目玉餐を明らかにするためには、いかなる論の流れを作らなくてはならないのか、さらにそのためにはレポート・論文をどのように構成すればよいのか等、論文の作成法についても実践的に学ぶ。適宜、発表、ディスカッションを行い、レポート・論文の形でまとめあげ、発表会で発表する。再度、論文構成・調査研究報告構成を見直す。
授 業 計 画	第1回 春学期の基本方針確認および調査研究の計画再計画 第2回 ゼミメンバーの研究テーマの概要報告そしてコメント 第3回 研究テーマの多角的評価と深耕そして論文構成の検討 第4回 重要文献のプレゼンテーションおよびディスカッション 第5回 同上 第6回 研究テーマのプレゼンテーションおよびディスカッション 第7回 前半のレビュー 第8回 関連文献の渉猟、論文構成の見直し 第9回 研究テーマのオリジナリティの再検討 第10回 中間発表の基本構想およびロジックフロー検討 第11回 重要文献の発表およびディスカッション 第12回 同上 第13回 中間報告会での発表のプレゼンテーションおよびディスカッション 第14回 後半のレビュー 第15回 春学期のまとめ
評価方法・基準	評価にあたっては研究論文を基本に考えるが、レポートおよび日常のディスカッションも考慮に加える。
教 材 な ど	適宜、プリント配付。教科書：特に指定しない。参考書は適宜紹介する。
備 考	

■ BB032

科 目 名	: 生産経営情報特論演習Ⅳ
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: オリジナリティに富む修士論文（あるいは調査研究報告書）をまとめ上げる。
授業内容・方法	: 修士論文（あるいは調査研究報告書）をまとめ上げる過程で必要に応じ、文献研究・事例研究、発表、ディスカッションを重ね、質的向上を図る。
授 業 計 画	第1回 秋学期の基本方針確認および研究計画 第2回 論文（あるいは調査研究報告書）のブラッシュアップ検討、研究指導 第3回 関連研究・先行研究に関する文献購読およびディスカッション 第4回 研究の質的向上の指導、修士論文(あるいは報告書)のレベルアップ指導 第5回 同上 第6回 研究テーマについてのプレゼンテーションおよびディスカッション 第7回 研究の質的向上の指導、修士論文(あるいは報告書)のレベルアップ指導 第8回 前半のまとめ 第9回 研究の質的向上の指導、修士論文(あるいは報告書)のレベルアップ指導 第10回 修士論文のプレゼンテーションおよびディスカッション 第11回 研究の質的向上の指導、修士論文(あるいは報告書)のレベルアップ指導 第12回 同上 第13回 研究のレベルアップ指導および口頭試問に関する対応検討 第14回 後半のまとめ 第15回 秋学期全般さらに全課程のレビュー、まとめ
評価方法・基準	: 評価にあたっては研究論文を基本に考えるが、レポートおよび日常のディスカッションも考慮に加える。
教 材 な ど	: 適宜、プリント配付。 教科書：特に指定しない。参考書は適宜紹介する。
備 考	:

■ BB033

科 目 名	: 生産マネジメント特論
担 当 者	: 中野 幹久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 生産マネジメントにおける基本的な問いは、コスト、品質、納期といった指標の成果をいかにして向上させるのかである。このようなマネジメントの理論は、製造業の工場現場において発展してきたが、現代では小売業のような流通業から、より幅広いサービス業においても適用できるものである。さらに最近では、企業内の取り組みから、サプライチェーン（供給連鎖）と呼ばれる、企業間の取り組みへと発展してきている。 このような状況を踏まえて、この授業ではサプライヤー（完成品の製造業に原材料・部品を供給する企業）、完成品の製造業、流通業、物流業といった企業間の関係の中で、生産活動を中心に、さらに調達、物流、販売といった活動がどのように関わることによって、コスト、品質、納期といった指標の成果を上げることができるのか、というサプライチェーン・マネジメント（SCM）をメイン・テーマに取り上げる。
授業内容・方法	: まず、SCM の概念を理解した上で、関連する指標やマネジメントのプロセスを理解する。そして、基本的な戦略や組織の構造を学んだ上で、核心的なテーマである、完成品の製造業における企業内部部門間の統合、さらには企業間の統合をいかにして実現するのかについて理解を深める。 授業では、毎回履修者の発表をもとにした議論を行う。毎回のテーマにそって課題を出し、履修者の発表担当を決めて、当日発表してもらう。最終的に、履修者全員に事例研究のレポートを提出してもらう。
授 業 計 画	: 第1回 インTRODakション 第2回 SCM とは 第3回 サプライチェーン・プロセス 第4回 サプライチェーンのパフォーマンス（1） 第5回 サプライチェーンのパフォーマンス（2） 第6回 サプライチェーンの戦略（1） 第7回 サプライチェーンの戦略（2） 第8回 サプライチェーンの組織（1） 第9回 サプライチェーンの組織（2） 第10回 企業内部部門間の SCM（1） 第11回 企業内部部門間の SCM（2） 第12回 企業間の SCM（1） 第13回 企業間の SCM（2） 第14回 まとめ 第15回 事例研究レポートの作成について
評価方法・基準	: 発表 50%、期末レポート(3千字以上) 50%
教 材 な ど	: 基本的な理論を理解するための資料は英語で記述されている。
備 考	: 履修予定者は、最初の講義の前に、必ずメールで連絡すること。

■ BB034

科 目 名	: 生産マネジメント特論演習 I
担 当 者	: 中野 幹久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: サプライチェーン・マネジメント (SCM) に関する諸理論にもとづいて、履修者が自ら研究を進め、オリジナリティのある成果 (修士論文) を提出するための知識の習得を目標としてもらう。
授業内容・方法	: 指定した文献および履修者が自ら収集した文献にもとづいて、履修者が毎回発表資料を準備し、その内容にもとづいて、担当教員と議論する。
授 業 計 画	: 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 サプライチェーンとは (1) 第 3 回 サプライチェーンとは (2) 第 4 回 SCM とは (1) 第 5 回 SCM とは (2) 第 6 回 サプライチェーンのパフォーマンス (1) 第 7 回 サプライチェーンのパフォーマンス (2) 第 8 回 サプライチェーンのパフォーマンス (3) 第 9 回 サプライチェーンのパフォーマンス (4) 第 10 回 サプライチェーンの戦略 (1) 第 11 回 サプライチェーンの戦略 (2) 第 12 回 サプライチェーンの戦略 (3) 第 13 回 サプライチェーンの戦略 (4) 第 14 回 理論のまとめ (1) 第 15 回 理論のまとめ (2)
評価方法・基準	: 発表内容、議論の中身によって評価する。
教 材 な ど	: 適宜指定する。
備 考	:

■ BB035

科 目 名	: 生産マネジメント特論演習Ⅱ
担 当 者	: 中野 幹久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する諸理論にもとづいて、履修者が自ら研究を進め、オリジナリティのある成果（修士論文）を提出するための知識の習得を目標としてもらう。
授業内容・方法	: 指定した文献および履修者が自ら収集した文献にもとづいて、履修者が毎回発表資料を準備し、その内容にもとづいて、担当教員と議論する。
授 業 計 画	第1回 インTRODakション 第2回 サプライチェーンの組織内構造（1） 第3回 サプライチェーンの組織内構造（2） 第4回 サプライチェーンの組織内構造（3） 第5回 サプライチェーンの組織内プロセス（1） 第6回 サプライチェーンの組織内プロセス（2） 第7回 サプライチェーンの組織内プロセス（3） 第8回 サプライチェーンの組織間構造（1） 第9回 サプライチェーンの組織間構造（2） 第10回 サプライチェーンの組織間構造（3） 第11回 サプライチェーンの組織間プロセス（1） 第12回 サプライチェーンの組織間プロセス（2） 第13回 サプライチェーンの組織間プロセス（3） 第14回 理論のまとめ（1） 第15回 理論のまとめ（2）
評価方法・基準	: 発表内容、議論の中身によって評価する。
教 材 な ど	: 適宜指定する。
備 考	:

■ BB036

科 目 名	: 生産マネジメント特論演習Ⅲ
担 当 者	: 中野 幹久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する諸理論にもとづいて、履修者が自ら研究を進め、オリジナリティのある成果（修士論文）を提出することを目標としてもらう。
授業内容・方法	: 修士論文について、履修者が毎回発表資料を準備し、その内容にもとづいて、担当教員と議論する。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション 第2回 修士論文の研究指導（1） 第3回 修士論文の研究指導（2） 第4回 修士論文の研究指導（3） 第5回 修士論文の研究指導（4） 第6回 修士論文の研究指導（5） 第7回 修士論文の研究指導（6） 第8回 修士論文の研究指導（7） 第9回 修士論文の研究指導（8） 第10回 修士論文の研究指導（9） 第11回 修士論文の研究指導（10） 第12回 修士論文の研究指導（11） 第13回 修士論文の研究指導（12） 第14回 修士論文の研究指導（13） 第15回 最終成果発表
評価方法・基準	: 発表内容、議論の中身によって評価する。
教 材 な ど	: 適宜指定する。
備 考	:

■ BB037

科 目 名	: 生産マネジメント特論演習Ⅳ
担 当 者	: 中野 幹久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する諸理論にもとづいて、履修者が自ら研究を進め、オリジナリティのある成果（修士論文）を提出することを目標としてもらう。
授業内容・方法	: 修士論文について、履修者が毎回発表資料を準備し、その内容にもとづいて、担当教員と議論する。
授 業 計 画	第1回 イン트로ダクション 第2回 修士論文の研究指導（1） 第3回 修士論文の研究指導（2） 第4回 修士論文の研究指導（3） 第5回 修士論文の研究指導（4） 第6回 修士論文の研究指導（5） 第7回 修士論文の研究指導（6） 第8回 修士論文の研究指導（7） 第9回 修士論文の研究指導（8） 第10回 修士論文の研究指導（9） 第11回 修士論文の研究指導（10） 第12回 修士論文の研究指導（11） 第13回 修士論文の研究指導（12） 第14回 修士論文の研究指導（13） 第15回 最終成果発表
評価方法・基準	: 発表内容、議論の中身によって評価する。
教 材 な ど	: 適宜指定する。
備 考	:

■ BB038

科 目 名	:	情報組織特論
担 当 者	:	岡部 曜子
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期 秋学期
授 業 目 標	:	大学院レベルの組織理論を理解した上で、情報組織理論における基本的概念を習得することを目標とする。
授業内容・方法	:	基本的な文献を講読し、講義を行う。
授 業 計 画	:	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 情報と組織の理論 1 第 3 回 情報と組織の理論 2 第 4 回 情報と組織の理論 3 第 5 回 情報と組織の理論 4 第 6 回 システムズアプローチ 第 7 回 情報ネットワーク理論 第 8 回 情報の多義性、メディアリッチネス 第 9 回 取引コスト理論 第 10 回 知識創造 第 11 回 コミュニケーションのモデル 第 12 回 Davenport の研究 第 13 回 Malone の研究 第 14 回 情報組織論の研究動向 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	:	出席状況、発表、クラスにおける議論への参加度に関して評価する。
教 材 な ど	:	情報組織論に関する基本的な文献をコピーして配付する。
備 考	:	論文やテキストは基本的に原文を使用する。

■ BB039

科 目 名	: 情報組織特論演習 I
担 当 者	: 岡部 曜子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 情報組織理論の基礎理論を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 情報組織理論に関する本や論文を輪読する。受講生は担当箇所のテキストの内容について発表し、疑問点を提示して他の受講生と意見交換を行い、教員からの試問に答えることが求められる。
授 業 計 画	第 1 回 システムズアプローチ 第 2 回 システムズアプローチ 第 3 回 システムズアプローチ 第 4 回 システムズアプローチ 第 5 回 意思決定論 第 6 回 意思決定論 第 7 回 意思決定論 第 8 回 意思決定論 第 9 回 組織の情報処理モデル 第 10 回 組織の情報処理モデル 第 11 回 組織の情報処理モデル 第 12 回 組織の情報処理モデル 第 13 回 情報ネットワーク論 第 14 回 情報ネットワーク論 第 15 回 情報ネットワーク論
評価方法・基準	: 発表の内容、他の受講生との意見交換の内容、および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	: Casson, M. <i>Information and Organization</i> (マーク・カッソン『情報と組織』), H. A. Simon, <i>The Sciences of the Artificial</i> , J. R. Galbraith “ <i>Designing Organization, an Executive Guide to Strategy, Structure and Process</i> ”
備 考	

■ BB040

科 目 名	: 情報組織特論演習Ⅱ
担 当 者	: 岡部 曜子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 情報組織理論の基礎知識を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 情報組織特論演習Ⅰに引き続き、情報組織理論に関する本や論文を輪読する。受講生は担当箇所のテキストの内容について発表し、疑問点を提示して他の受講生と意見交換を行い、また、教員からの試問に答えることが求められる。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション、情報組織論の基本概念の確認 第2回 不確実性と多義性、メディアリッチネス理論 第3回 不確実性と多義性、メディアリッチネス理論 第4回 不確実性と多義性、メディアリッチネス理論 第5回 取引コスト理論 第6回 取引コスト理論 第7回 取引コスト理論 第8回 知識創造理論 第9回 知識創造理論 第10回 知識創造理論 第11回 組織のコミュニケーション理論 第12回 組織のコミュニケーション理論 第13回 組織のコミュニケーション理論 第14回 情報組織理論の新しい展開 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表の内容、他の受講生との意見交換の内容、口頭試問で評価する。
教 材 な ど	: Daft, R. L., & R. H. Lengel, “Organizational Information Requirements, Media Richness and Structural Design”, Galbraith, J. R., “Designing Organization, an Executive Guide to Strategy, Structure and Process”、Williamson, O.E. <i>Markets and Hierarchies</i> , 野中・竹内『知識創造企業』。
備 考	:

■ BB041

科 目 名	情報組織特論演習Ⅲ
担 当 者	岡部 曜子
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	2年
開 講 期 間	春学期
授 業 目 標	修士論文のテーマを決定し、論文を作成する上で必要なサーベイを行うことを目標とする。また、論文の書き方やプレゼンの方法を習得することを目指す。
授業内容・方法	研究テーマに関する文献と最新の研究論文を読み、要点を整理して発表することが求められる。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 基本文献の講読1 第3回 基本文献の講読2 第4回 基本文献の講読3 第5回 基本文献の講読4 第6回 基本文献の講読5 第7回 中間報告 第8回 中間報告 第9回 最新の研究についての調査1 第10回 最新の研究についての調査2 第11回 最新の研究についての調査3 第12回 最新の研究についての調査4 第13回 最新の研究についての調査5 第14回 論文の書き方・プレゼンの指導 第15回 最終報告
評価方法・基準	発表の内容および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	研究テーマに応じて適宜指示する。
備 考	

■ BB042

科 目 名	情報組織特論演習Ⅳ
担 当 者	岡部 曜子
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	2年
開 講 期 間	秋学期
授 業 目 標	修士論文を作成することを目標とする。
授業内容・方法	研究テーマに関する成果を論文および口頭で発表することが求められる。随時、中間報告をしてもらいながら、研究指導を行う。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 研究の方針と論文の概要についての報告1 第3回 研究の方針と論文の概要についての報告2 第4回 研究指導1 第5回 研究指導2 第6回 研究指導3 第7回 中間報告1 第8回 中間報告2 第9回 研究指導4 第10回 研究指導5 第11回 論文準備1 第12回 論文準備2 第13回 論文準備3 第14回 最終報告1 第15回 最終報告2
評価方法・基準	修士論文の内容および報告時の口頭試問で評価する。
教 材 な ど	研究テーマに応じて適宜指示する。
備 考	

■ BB043

科 目 名	: 技術マネジメント特論
担 当 者	: 具 承桓
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 本講義では、戦略論の次元で、企業の技術開発戦略と製品開発戦略、外部企業への活動と連携のあり方などを、組織論の次元で効果的な開発組織づくりと効果的なマネジメント、そして効果的なマネジメントツールとしての IT 技術の活動、知識の共有・移転問題などについて考える。本講義では、基本的な諸理論や概念を習得しつつ、多くの事例を用いながら技術経営の諸問題について検討し、実践的な思考と分析を試みる。 春学期と秋学期は異なる題材を使う。また、授業の 2～3 回分は院生諸君が選んだ論文を中心に輪読しつつ、研究方法と研究テーマの設定に関する議論を行う。
授業内容・方法	: 本講義は、企業の長期に亘って競争力を左右するイノベーション活動について考えるものである。けして、技術そのものに焦点を当てるものではない。よって、本講義では、技術や知識、製品開発をキーワードに技術の戦略的問題、効率的な組織、ビジネスの仕組み、IT の活用と組織能力などを主な議論の対象とする。 近年、技術変化のスピードが著しく速くなっており、技術やマネジメントの複雑性も増している。その中で、日本企業は優れた技術を持っているにもかかわらず、技術開発の成果から収益性を上げていないことが問題になっている。すなわち、技術開発を「技術」だけでの問題ではなく、「マネジメント」の問題として取り扱わなければならない。技術とイノベーションに対する戦略的な取り組みが必要となる。また、この問題はグローバル次元での R&D 及び製品開発の問題である。そこで本授業では、最近の新興国市場の動向や競争構図の変化をふまえながら、理論研究と事例研究を並行して行う。
授 業 計 画	: 第 1 回 戦略論の基礎(1) 第 2 回 戦略論の基礎(2) 第 3 回 技術と戦略の統合 第 4 回 技術戦略の設計と実行 第 5 回 技術戦略の実行とそのプロセス 第 6 回 イノベーションと分業：企業の境界マネジメント 第 7 回 知識マネジメント 第 8 回 イノベーションシステム論 第 9 回 日本企業の研究開発システム 第 10 回 日本企業のイノベーションと国際化 第 11 回 日本企業のイノベーション力と収益化 第 12 回 グローバル時代の技術競争戦略に関する文献講読 第 13 回 グローバル時代の市場戦略に関する文献講読 第 14 回 グローバル時代の製品戦略に関する文献講読 第 15 回 まとめ：技術マネジメント論と今後の研究課題
評価方法・基準	: 授業中の発表およびディスカッション参加度 50%、レポート 50%などを総合的に判断して評価する。
教 材 な ど	: 以下の書籍の中で重要な文献を抜群して輪読、ディスカッションする。文献と参考資料は適時に提示し、配付する。主な文献集・テキストは以下のようである。テーマによって、サブ・テキストを参照しながら進めていく場合もある。 【メイン教材】 ・ハーバードビジネスレビュー編集部『戦略論 1957－1993』、『戦略論 1994－1999』ダイヤモンド社 ・バーゲルマン・クリステンセン・ウィールラント(2007)『技術とイノベーションの戦略的マネジメント (上) (下)』翔泳社(原著; Burgelman, Robert A., Christensen, Clayton and Steven C. Wheelwright, Strategic Management of Technology and

Innovation. 2004 McGraw-Hill Irwin, New York)。

- ・後藤晃・鈴木潤監訳 『イノベーションの経営学：技術・市場・組織の統合的マネジメント』 NTT 出版, 2004 年. (原著 ; Tidd, Joe, John Bessant and Keith Pavitt(2001). Managing Innovation: Integrating Technological, Market and Organizational Change. Wiley, New York.
- ・具承桓(2008) 『製品アーキテクチャのダイナミズムーモジュール化・知識・企業間連携ー』 ミネルヴァ書房。
- ・伊丹敬之 (1980) 『経営戦略の論理』 第 3 版、日本経済新聞社。

【サブテキスト】

- ・近能善範・高井文子 (2010) 『コアテキスト イノベーション・マネジメント』 新世社。
- ・榊原清則(2005) 『イノベーションの収益化：技術経営の課題と分析』 有斐閣。
- ・浦川卓也(2010) 『イノベーションを目指す“実践” 研究開発マネジメント』 日刊工業新聞社。
- ・Chesbrough, Henry (2003) Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology. Boston, MA: Harvard Business School (大前恵一朗訳 『Open Innovation』 産業能率大学出版部)。
- ・ビジャイ・ゴビンダラジャン+クリス・トリンブル(2012) 『リバーズ・イノベーション』 ダイヤモンド社

備 考 : 配当された文献を必ず予習すること。

■ BB044

科 目 名	: 技術マネジメント特論演習 I
担 当 者	: 具 承桓
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 本授業の目標は、技術マネジメントの諸領域の中で、「技術戦略」と「製品開発プロセスのマネジメント」、「イノベーション」に関する諸概念の理解と、批判的な観点から多様な事例や現象について解説ができるようになることである。特に、新しい市場として浮上した新興国向けの製品開発と戦略展開におけるグローバルサプライヤーチェーン（GSCM）およびマネジメント課題などについて学習する。こうした授業を通じて、新しい研究テーマの発見を試みる。
授業内容・方法	: ① 戦略、組織、技術を軸に、「技術戦略」と「製品開発プロセスのマネジメント」、グローバル組織における GSCM に関する必須論文の輪読を通じて、問題意識、研究方法論、分析方法、議論の示唆と含意について議論をすると共に、研究テーマの発展可能性と他の分野との関連性などを探る。それによって、大学院諸君の研究テーマの設定や研究との関連性、新しい議論の発展可能性を模索する。 ② 大学院生諸君の研究分野から検討したい論文を取り上げてもらい、同様の軸で検討する。
授 業 計 画	: 技術経営の主要な研究分野として以下の 6 つを設定するが、受講生の希望などを受け入れ、追加することもありうる。 第 1 回 イノベーションのパターンと新しい発想：アバナシーのイノベーションの分類とパターン 第 2 回 イノベーションのパターンと新しい発想：エコシステムとプラットフォーム戦略 第 3 回 イノベーションのパターンと新しい発想：事業システム論 第 4 回 技術、戦略、組織、市場間のインタラクション（1）：戦略論の基礎概念 第 5 回 技術、戦略、組織、市場間のインタラクション（2）：技術戦略と市場 第 6 回 技術、戦略、組織、市場間のインタラクション（3）：市場と技術のダイナミズム 第 7 回 技術、戦略、組織、市場間のインタラクション（4）：組織構造 第 8 回 製品戦略と開発プロセス管理（1）：効果的な開発プロセスのマネジメント 第 9 回 製品戦略と開発プロセス管理（2）：効果的な開発プロセスのマネジメントと外部組織 第 10 回 研究開発（R&D）戦略と組織（1） 第 11 回 研究開発（R&D）戦略と組織（2） 第 12 回 グローバル企業とロジスティック（1）：多国籍企業のグローバル生産活動と SCM(生産) 第 13 回 グローバル企業とロジスティック（2）：多国籍企業のグローバル生産活動と SCM(開発と生産のリンク) 第 14 回 グローバル企業とロジスティック（3）：多国籍企業のグローバル生産活動と SCM（IT システムの役割と機能） 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 30%、議論力 30%、分析能力 20%、レポート 20%
教 材 な ど	: 以下の書籍や他の論文集から選定した論文を授業時間に配付する。場合によっては下記の書籍から選定し、進める。 ・バークelman・クリステンセン・ウィールラント（2007）『技術とイノベーションの戦略的マネジメント（上）（下）』翔泳社（原著；Burgelman, Robert A., Christensen, Clayton and Steven C. Wheelwright, Strategic Management of Technology and Innovation. 2004 McGraw-Hill Irwin, New York）。

-
- ・後藤晃・鈴木潤監訳 『イノベーションの経営学：技術・市場・組織の統合的マネジメント』 NTT 出版，2004 年。（原著；Tidd, Joe, John Bessant and Keith Pavitt(2001). Managing Innovation: Integrating Technological, Market and Organizational Change. Wiley, New York.
 - ・Chesbrough, Henry (2003) Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology. Boston, MA: Harvard Business School（大前恵一朗訳『Open Innovation』産業能率大学出版部）
 - ・円川 隆夫・安達 俊行（1997）『製品開発論』日科技連。
 - ・ピーター・ボイアー（2004）『技術価値評価—R&D が生み出す経済的価値を予測する』日本経済新聞社。
 - ・原田保＋多摩大学ルネッサンスセンター編(2005)『調達・物流統合戦略』同友館。
 - ・その他、多数の論文や文献を適時に選定し、提供する。
-

備考： 自分の研究テーマを具体化していくため、文献や議論の内容を自分の研究テーマとの関連付けや適応可能性を常に探索する姿勢を求める。

■ BB045

科 目 名	: 技術マネジメント特論演習Ⅱ
担 当 者	: 具 承桓
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 技術マネジメント論の領域における 4 つのタイプの論文について輪読しながら、学術論文としてのテーマの設定や作法、分析方法、議論の組み立て方などについて学び、自分の研究テーマの設定と進め方を確立していくことが本授業の目標である。また、文献サーベイのあり方の注意点などについて学習する。
授業内容・方法	: ①理論・サーベイ論文、②統計手法を用いる実証研究、③ケース研究による実証研究、④事実発見・理論構築型論文などの文献を設定し、輪読・発表。その後、ディスカッションを行う。それぞれ異なるタイプの方法論について学習しつつ、研究目的と方法、それにフィットする論文の書き方について学習する。
授 業 計 画	: 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 理論・サーベイ論文 第 3 回 理論・サーベイ論文 第 4 回 理論・サーベイ論文 第 5 回 統計手法を用いる実証研究方法 第 6 回 統計手法を用いる実証研究方法 第 7 回 統計手法を用いる実証研究方法 第 8 回 ケース研究による実証研究方法 第 9 回 ケース研究による実証研究方法 第 10 回 ケース研究による実証研究方法 第 11 回 ケース研究による実証研究方法 第 12 回 事実発見・理論構築型論文 第 13 回 事実発見・理論構築型論文 第 14 回 事実発見・理論構築型論文 第 15 回 まとめ（文献サーベイのレポート発表）
評価方法・基準	: 発表 35%、議論力 30%、分析能力 15%、レポート 20%
教 材 な ど	: ・伊丹敬之（2001）『創造的論文の書き方』有斐閣。 ・沼上幹（2009）『経営戦略の思考法』日本経済新聞社 ・ロバート・A. バーゲルマン（2006）『インテルの戦略－企業変貌を実現した戦略形成プロセス』ダイヤモンド社。 ・ロバート K. イン（2011）『ケーススタディの方法』第 2 版、千倉書房。 ・田尾雅夫・若林直樹（2001）『組織調査ガイドブック』有斐閣。 ・楠木健（2010）『ストリートとしての競争戦略－優れた戦略の条件』東洋経済新報社。 ・その他ハーバードビジネスレビュー（日本語版）の主要文献を取り上げる。 適時に選定し、配付する。
備 考	: 自分の研究テーマを具体化していくため、文献や議論の内容を自分の研究テーマとの関連付けや適応可能性を常に探索する姿勢を求める。

■ BB046

科 目 名	: 技術マネジメント特論演習Ⅲ
担 当 者	: 具 承桓
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 本授業では、イノベーションと市場製品競争において、企業活動のグローバル化や国際化の視点を取り入れながら、産業別特徴を考慮に入れた技術戦略、製品市場戦略について考える。国際化の発展段階と産業の特徴（加工組立、プロセスなど）や、競争次元などを考慮した視点について学習する。
授業内容・方法	: 主に、論文や書籍の輪読と発表によって行う。また、研究対象産業について2回に分けて発表してもらい、実際の修士論文作成に考慮すべき要因などについて議論する。
授 業 計 画	: - 第1回 ガイダンス - 第2回 国際経営に関する主な議論の変遷について (1) : 戦略 - 第3回 国際経営に関する主な議論の変遷について (2) : 組織Ⅰ - 第4回 国際経営に関する主な議論の変遷について (3) : 組織Ⅱ - 第5回 国際経営に関する主な議論の変遷について (4) : 生産と開発 - 第6回 新興国ビジネスとビジネス環境の変化日本企業対応戦略(1) - 第7回 新興国ビジネスとビジネス環境の変化日本企業対応戦略(2) - 第8回 国際の生産ネットワークとリンク (1) : 本社と子会社の関係 - 第9回 国際の生産ネットワークとリンク (2) : 生産、開発のインテグレーション - 第10回 国際の生産ネットワークとリンク (3) : 物流戦略 - 第11回 国際の生産ネットワークとリンク (4) : GSCM と IT - 第12回 ケース分析：加工組立産業（自動車産業と電機産業）における生産ネットワークのマネジメント - 第13回 ケース分析：サイエンス産業及びプロセス産業における開発の現地化の問題 - 第14回 産業特徴に関する発表とディスカッション - 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 40%、議論力 20%、分析能力 20%、レポート 20%
教 材 な ど	: 下記の参考文献をベースに、適時、書籍や論文などを選定し、掲示する。 浅川 和宏 (2003) 『グローバル経営入門』日本経済新聞社。 Errasti, A(2013) <i>Global Production Networks: Operations Design and Management</i>, Second Edition, CRC Press. J. Mangan, C. Lalwani, T. Butcher and R. Javadpour (2011) . <i>Global Logistics and Supply Chain Management</i>. Wiley; 2eds. 川邊 信雄 (2011) 『タイトヨタの経営史—海外子会社の自立と途上国産業の自立』有斐閣。 松島大輔 (2012) 『空洞化のウソ——日本企業の「現地化」戦略』講談社。 和田一夫 (2013) 『ものづくりを超えて』名古屋大学出版会 その他。
備 考	: 自分の研究テーマを具体的な執筆を向けて、文献を検討する。この作業を通じて自分の研究テーマとの関連付けしながら適応可能性を常に探索する姿勢を求める。

■ BB047

科 目 名	: 技術マネジメント特論演習Ⅳ
担 当 者	: 具 承桓
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 本授業の目的は主に研究テーマ、KRQ、分析方法、データなどについてその妥当性を検討しつつ、各自論文発表などを通じて論理力と議論展開力、分析力を身に着けることである。
授業内容・方法	: 各自、修士論文のテーマ、問題意識と背景、論文の構成、データセット、分析内容と分析結果、KRQ と分析結果の妥当性などについて発表を行い、議論、検討を加えながら、問題を発見し、修正するプロセスを経て学術論文として仕上げることを目指す。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 問題意識と背景、意義についての検討：テーマの新規性と面白さ、予想される結論、予想されるインプリケーションなどについて検討 第3回 関連先行研究についての検討（1） 第4回 関連先行研究についての検討（2） 第5回 先行研究からみる問題意識の面白さをどのように出すかについての検討 第6回 データの活用と分析方法：既存の活用可能なデータセットの検討、既存研究で用いるデータの検討 第7回 データの活用と分析方法：既存の活用可能なデータセットの検討、既存研究で用いるデータの検討 第8回 研究課題と分析内容（1） 第9回 研究課題と分析内容（2） 第10回 研究課題と分析内容（3） 第11回 分析結果を読み取る 第12回 分析結果を読み取る 第13回 インプリケーションを考える：アカデミックおよび実務的側面 第14回 論文の構成の見直し 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 30%、議論力 30%、分析能力 20%、問題修正能力 20%
教 材 な ど	: 特になし。
備 考	: 修士論文として仕上げることを目指す。

■ BB048

科 目 名	: 製品開発特論
担 当 者	: 井村 直恵
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 本講義では、新製品開発の鍵となる組織的／戦略的な要点について検討する。日本語／英語の主要文献を講読し、プレゼンテーション及びレジュメの作成を行う。新製品開発に関する理論は、組織論／戦略論／マーケティング論／技術管理論／生産管理論等多岐にわたるため、新製品開発を体系的に捉える為には学際的な視点を持って取り組むことが肝要である。 日本語／英語の基本文献をマスターする必要がある為、毎週の英語文献講読課題を確実にこなして行く積極的な姿勢が必要となる。
授業内容・方法	: 授業においては、1) 新製品開発の本質、2) 新製品開発とイノベーション、3) 製品戦略、4) 新製品開発のプロセスと組織デザイン、5) 企業間関係の変容 等の視点について、関連文献の輪読を行う。
授 業 計 画	: 第1回 新製品開発の本質 (1) 第2回 新製品開発の本質 (2) 第3回 新製品開発とイノベーション (1) 第4回 新製品開発とイノベーション (2) 第5回 新製品開発とイノベーション (3) 第6回 製品戦略 (1) 第7回 製品戦略 (2) 第8回 製品戦略 (3) 第9回 新製品開発のプロセスと組織デザイン (1) 第10回 新製品開発のプロセスと組織デザイン (2) 第11回 新製品開発のプロセスと組織デザイン (3) 第12回 企業間関係の変容 (1) 第13回 企業間関係の変容 (2) 第14回 企業間関係の変容 (3) 第15回 総括
評価方法・基準	: 毎週の課題とプレゼンテーション
教 材 な ど	: Journal 論文
備 考	:

■ BB049

科 目 名	: 製品開発特論演習 I
担 当 者	: 井村 直恵
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 製品開発プロセス、組織プロセスの変化、リーダーシップ等経営における関連課題との関係を考察し、自らの研究課題を発見するための論文検索、情報検索等を身につける。
授業内容・方法	: (1) 製品開発プロセスの変革が戦略、組織、マーケティング上にどのような影響があるのか、という視点から製品開発の重要性とその決定に係る要因を考察するため、英書やジャーナルを輪読し、ディスカッションする。 (2) 関心があるテーマに沿って、データベース等を活用しつつ、論文レビューの方法を習得する。
授 業 計 画	: 第1回 関連図書輪読 (1) 第2回 関連図書輪読 (2) 第3回 関連図書輪読 (3) 第4回 関連図書輪読 (4) 第5回 論文探索演習 (1) 第6回 論文探索演習 (2) 第7回 論文探索演習 (3) 第8回 ジャーナル論文輪読 (1) 第9回 ジャーナル論文輪読 (2) 第10回 ジャーナル論文輪読 (3) 第11回 ジャーナル論文輪読 (4) 第12回 ジャーナル論文輪読 (5) 第13回 レビュー論文演習 (1) 第14回 レビュー論文演習 (2) 第15回 レビュー論文演習 (3)
評価方法・基準	: 毎回提出するレジュメと発表から評価。学期の終わりには、自身が関心のあるテーマに沿ったレビューをまとめる。
教 材 な ど	: Bryce G. Hoffman (2012) " <i>American Icon: Alan Mulally and the Fight to Save Ford Motor Company</i> ", Crown Publishing Group. その他、ソフトウェアの契約料は約 10,000 円程である。大学の PC にインストールが出来ないため、演習の講義には自身のパソコンを持参すること。
備 考	:

■ BB050

科 目 名	: 製品開発特論演習Ⅱ
担 当 者	: 井村 直恵
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 自らの研究課題を発見するための情報分析法を習得し、研究テーマについて深く分析して考察する。
授業内容・方法	: 2種類のソフトウェアを用いて、2次情報を探索・分析する方法を演習する。
授 業 計 画	第1回 ネットワーク分析を用いた Web 調査演習（1） 第2回 ネットワーク分析を用いた Web 調査演習（2） 第3回 ネットワーク分析を用いた Web 調査演習（3） 第4回 ネットワーク分析を用いた Web 調査演習（4） 第5回 ネットワーク分析を用いた Web 調査演習（5） 第6回 質的研究：テキスト分析（1） 第7回 質的研究：テキスト分析（2） 第8回 質的研究：テキスト分析（3） 第9回 質的研究：テキスト分析（4） 第10回 質的研究：テキスト分析（5） 第11回 実証調査演習（1） 第12回 実証調査演習（2） 第13回 実証調査演習（3） 第14回 実証調査演習（4） 第15回 成果発表
評価方法・基準	: 自身が関心のあるテーマに沿った実証調査結果のレポート。
教 材 な ど	授業中に指示する。 ソフトウェアの契約料が約1万円程である。 大学のPCにインストールできないため、演習時には自身のPCを持参すること。
備 考	:

■ BB051

科 目 名	: 製品開発特論演習Ⅲ
担 当 者	: 井村 直恵
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 研究テーマを決定し、適切な方法論を用いて実証研究する。
授業内容・方法	: ヒアリング等も含めて事例研究の手法を習得する。 習得した方法論の中で、自分の研究関心に沿った手法を用いて修士論文の記述に着手する。
授 業 計 画	: 第1回 事例研究演習（1） 第2回 事例研究演習（2） 第3回 事例研究演習（3） 第4回 事例研究演習（4） 第5回 事例研究発表 第6回 ジャーナル論文輪読（1） 第7回 ジャーナル論文輪読（2） 第8回 ジャーナル論文輪読（3） 第9回 ジャーナル論文輪読（4） 第10回 ジャーナル論文輪読（5） 第11回 ジャーナル論文輪読（6） 第12回 データ分析（1） 第13回 データ分析（2） 第14回 データ分析（3） 第15回 研究発表
評価方法・基準	: 研究発表の成果 100%。
教 材 な ど	: 授業中に指示する。
備 考	:

■ BB052

科 目 名	: 製品開発特論演習Ⅳ
担 当 者	: 井村 直恵
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 今迄の研究成果を修士論文としてまとめる。
授業内容・方法	: 修士論文をまとめる。
授 業 計 画	: 第1回 論文演習（1）
	第2回 論文演習（2）
	第3回 論文演習（3）
	第4回 論文演習（4）
	第5回 論文演習（5）
	第6回 論文演習（6）
	第7回 論文演習（7）
	第8回 論文演習（8）
	第9回 論文演習（9）
	第10回 論文演習（10）
	第11回 論文演習（11）
	第12回 論文演習（12）
	第13回 論文演習（13）
	第14回 論文演習（14）
	第15回 研究発表
評価方法・基準	: 研究発表の成果 100%。
教 材 な ど	: 特になし。
備 考	:

■ BB053

科 目 名	: マーケティング特論
担 当 者	: 市川 貢
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 各テーマについての議論と質疑
授業内容・方法	: 授業への参加と質疑への積極的参加 (50%) + 期末レポート (50%)
授 業 計 画	: 第 1 回 新しい顧客志向とマーケティング戦略 第 2 回 戦略的視点とマーケティング 第 3 回 マーケティング・プロセス 第 4 回 標的市場と価値提案 第 5 回 マーケティング調査 第 6 回 製品・サービス・製品の市場導入から撤退まで 第 7 回 マーケティング・チャネル戦略 第 8 回 ロジスティクス戦略 第 9 回 プロモーション戦略 第 10 回 価格戦略 第 11 回 企業文化としての顧客志向 第 12 回 インターネットとダイレクト・マーケティング 第 13 回 マーケティングとコーポレート・コミュニケーション 第 14 回 グローバル・マーケティング 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 授業への参加 (50%) + 期末レポート (50%)
教 材 な ど	: 『改訂 3 版 グロービス MBA マーケティング』
備 考	:

■ BB054

科 目 名	: マーケティング特論演習 I
担 当 者	: 市川 貢
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 基本文献講読による予備知識の確認
授業内容・方法	: 2 冊の基本文献の報告と質疑
授 業 計 画	: 第 1 回 文献 1『マーケティングの基礎的研究』の講読
	第 2 回 第 1 章
	第 3 回 第 2 章
	第 4 回 第 3 章
	第 5 回 第 4 章
	第 6 回 第 5 章
	第 7 回 第 6 章
	第 8 回 文献 2『MBA マーケティング』の講読
	第 9 回 第 1 章
	第 10 回 第 2 章
	第 11 回 第 3 章
	第 12 回 第 4 章
	第 13 回 第 5 章
	第 14 回 第 6 章
	第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 授業への参加 (50%) + 期末レポート (50%)
教 材 な ど	: 『IT 革命で変わる新しいマーケティング』、『MBA マーケティング』
備 考	:

■ BB055

科 目 名	:	マーケティング特論演習Ⅱ
担 当 者	:	市川 貢
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	各テーマについての議論と質疑
授業内容・方法	:	報告と質疑
授 業 計 画	:	第1回 特論演習Ⅱのガイダンス
		第2回 報告1
		第3回 報告2
		第4回 報告3
		第5回 報告4
		第6回 報告5
		第7回 報告6
		第8回 報告7
		第9回 報告8
		第10回 報告9
		第11回 報告10
		第12回 報告11
		第13回 報告12
		第14回 報告13
		第15回 まとめ
評価方法・基準	:	授業への参加(50%)＋期末レポート(50%)
教 材 な ど	:	『コトラーのマーケティング・マネジメント』
備 考	:	

■ BB056

科 目 名	:	マーケティング特論演習Ⅲ
担 当 者	:	市川 貢
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	春学期
授 業 目 標	:	修士論文作成の準備
授業内容・方法	:	報告と質疑
授 業 計 画	:	第1回 第1章の報告と検討1
		第2回 第1章の報告と検討2
		第3回 第1章の報告と検討3
		第4回 第2章の報告と検討1
		第5回 第2章の報告と検討2
		第6回 第2章の報告と検討3
		第7回 第3章の報告と検討1
		第8回 第3章の報告と検討2
		第9回 第3章の報告と検討3
		第10回 第4章の報告と検討1
		第11回 第4章の報告と検討2
		第12回 第4章の報告と検討3
		第13回 中間報告の準備1
		第14回 中間報告の準備2
		第15回 中間報告の準備3
評価方法・基準	:	授業への参加(50%)＋期末レポート(50%)
教 材 な ど	:	テーマと関連した文献を選択する。
備 考	:	

■ BB057

科 目 名	:	マーケティング特論演習Ⅳ
担 当 者	:	市川 貢
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	修士論文の完成
授業内容・方法	:	報告と質疑
授 業 計 画	:	第1回 論文のテーマと問題意識の検討
		第2回 研究目的と研究方法の検討
		第3回 第1章の検討1
		第4回 第1章の検討2
		第5回 第2章の検討1
		第6回 第2章の検討2
		第7回 第3章の検討1
		第8回 第3章の検討2
		第9回 第4章の検討1
		第10回 第4章の検討2
		第11回 第5章の検討1
		第12回 第5章の検討2
		第13回 最終章の検討
		第14回 論文の概要の検討
		第15回 最終報告に向けて
評価方法・基準	:	授業への参加(50%)＋期末レポート(50%)
教 材 な ど	:	特になし。
備 考	:	

■ BB058

科 目 名	: マーケティング戦略史特論
担 当 者	: 吉田 裕之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 企業のマーケティング行動を、historical approach により、外部環境との動態的関連性を理解することを授業目的とする。したがって、上述の動態的関連性の理解が到達目標となる。
授業内容・方法	: 第2次大戦以後の innovation の態様と企業のマーケティング行動との関連性を、製品差別化の概念を視点に、講義の前半部分では講義形式で予備的知識を滋養し、後半部分では配付した資料（T. レビットの論文を中心に）を基に、受講生諸君からのプレゼンテーションによって、授業を進める。
授 業 計 画	: 第1回 イントロダクション 第2回 イノベーションと製品差別化① （計画的陳腐化の概念を中心に） 第3回 イノベーションと製品差別化② （製品のシステム化・多機能化・高付加価値化概念を中心に） 第4回 イノベーションと製品差別化③ （製品の代替性と競争優位性を中心に） 第5回 製品差別化領域の拡大① （開発・生産様式の変化と製品差別化） 第6回 製品差別化領域の拡大② （ブランド概念の変化/サプライ・チェーン） 第7回 製品差別化領域の拡大③ （企業の社会的責任と社会的貢献を視点として） 第8回 プレゼンテーション① T. レビット「マーケティング近視眼」 第9回 プレゼンテーション② T. レビット「サービス・マニファクチャリング」 第10回 プレゼンテーション③ T. レビット「無形性のマーケティング」 第11回 プレゼンテーション④ T. レビット「模倣戦略の優位性」 第12回 プレゼンテーション予備日 （予定通りであれば、プレゼンテーションの講評） 第13回 製品差別化概念の整理① （Panasonic に見られる製品差別化の事例研究） 第14回 製品差別化戦略の整理② （飲料水製造業者間に見られる製品差別化と競争優位性の事例研究） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 1. 講義形式による授業時の発言：40% 2. プレゼンテーションによる発表内容：40% 3. 事例研究における意見等の発言：20%
教 材 な ど	: 資料等は適宜指示する。
備 考	: 特になし

■ BB059

科 目 名	： マーケティング戦略史特論演習 I
担 当 者	： 吉田 裕之
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 1 年
開 講 期 間	： 春学期
授 業 目 標	： マーケティング研究にかかわる基本的知識の習得
授業内容・方法	： 教科書にしたがい、発表および口頭試問・議論を行う。
授 業 計 画	： 第 1 回 第 1 章/マーケティング研究の伝統的パラダイム 第 2 回 第 2 章/ものに価値は内在するか 第 3 回 第 3 章/「現代マーケティング」は、歴史的必然か 第 4 回 第 4 章/環境分析の限界 第 5 回 第 5 章/偶有的世界のマネジメント 第 6 回 第 6 章/プロセスとしての競争 第 7 回 第 7 章/戦略の仮構される審級 第 8 回 第 8 章/流通革命論の系譜 第 9 回 第 9 章/小売業態概念のフロンティア 第 10 回 第 10 章/商品の存在根拠再考 第 11 回 第 1 回口頭試問と議論（第 1・2 章に関して） 第 12 回 第 2 回口頭試問と議論（第 3・4 章に関して） 第 13 回 第 3 回口頭試問と議論（第 5・6 章に関して） 第 14 回 第 4 回口頭試問と議論（第 7・8 章に関して） 第 15 回 第 5 回口頭試問と議論（第 9・10 章に関して）
評価方法・基準	： 発表内容、口頭試問で評価する
教 材 な ど	： 石井淳蔵『マーケティング思考の可能性』岩波書店、2012 年
備 考	：

■ BB060

科 目 名	： マーケティング戦略史特論演習Ⅱ
担 当 者	： 吉田 裕之
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 1年
開 講 期 間	： 秋学期
授 業 目 標	： 修士論文のテーマに関する文献研究
授業内容・方法	： 修士論文のテーマに関する先行研究をサーベイし、発表する。
授 業 計 画	： 第1回 修士論文の構成の検討1
	第2回 修士論文の構成の検討2
	第3回 修士論文の構成の検討3
	第4回 先行研究の概要の発表とその検討1
	第5回 先行研究の概要の発表とその検討2
	第6回 先行研究の概要の発表とその検討3
	第7回 先行研究の概要の発表とその検討4
	第8回 先行研究の概要の発表とその検討5
	第9回 先行研究の概要の発表とその検討6
	第10回 先行研究の概要の発表とその検討7
	第11回 先行研究の概要の発表とその検討8
	第12回 先行研究の概要の発表とその検討9
	第13回 先行研究の概要の発表とその検討10
	第14回 修士論文の構成の再検討1
	第15回 修士論文の構成の再検討2
評価方法・基準	： 発表の内容および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	： 適宜指示する。
備 考	： 履修する段階で、修士論文の構成を終えているものとする。

■ BB061

科 目 名	: マーケティング戦略史特論演習Ⅲ
担 当 者	: 吉田 裕之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 修士論文中間発表に向けた必要文献の研究
授業内容・方法	: 修士論文の完成に向けた必要文献の講読と要点の整理を発表形式でおこなう。
授 業 計 画	第1回 修士論文の構成の再検討1 第2回 修士論文の構成の再検討2 第3回 研究指導1 第4回 研究指導2 第5回 研究指導3 第6回 研究指導4 第7回 研究指導5 第8回 中間発表の準備1 第9回 中間発表の準備2 第10回 中間発表の準備3 第11回 中間発表の準備4 第12回 中間発表の準備5 第13回 中間発表に向けた発表演習1 第14回 中間発表に向けた発表演習2 第15回 中間発表に向けた発表演習3
評価方法・基準	: 発表内容と口頭試問で評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB062

科 目 名	:	マーケティング戦略史特論演習Ⅳ
担 当 者	:	吉田 裕之
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	中間発表の成果を踏まえた上での修士論文の完成
授業内容・方法	:	修士論文におけるオリジナリティの具現化
授 業 計 画	:	第1回 中間発表の成果の検討1
		第2回 中間発表の成果の検討2
		第3回 研究指導1
		第4回 研究指導2
		第5回 研究指導3
		第6回 研究指導4
		第7回 研究指導5
		第8回 中間報告と議論
		第9回 論文準備1
		第10回 論文準備2
		第11回 論文準備3
		第12回 論文準備4
		第13回 最終報告1
		第14回 最終報告2
		第15回 最終報告3
評価方法・基準	:	論文のオリジナリティと発表内容
教 材 な ど	:	適宜指示する。
備 考	:	

■ BB063

科 目 名	: マーケティング・リサーチ特論
担 当 者	: 福 富 言
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 理論や先行研究からの演繹、あるいは現象や事例からの帰納に基づいて研究課題の設定ができ、実証研究を計画・遂行できるような能力を養成すること。
授業内容・方法	: 企業のマーケティング行動や消費者行動に関する調査について、参考文献や各種調査資料を用いた課題を提示する。要旨の作成と報告、リフレクションの検討（自分の調査にどのように生かすか）あるいは批判的な検討（自分ならどのように改善するか）を繰り返してもらう。
授 業 計 画	: 第1回 研究計画についてのプレゼンテーション（個々の関心や事前知識の把握） 第2回 研究課題設定に関する参考文献を用いた報告（1） 第3回 同（2） 第4回 リフレクションのプレゼンテーション 第5回 調査計画書作成（調査仮説や実証研究の方法）に関する参考文献を用いた報告（1） 第6回 同（2） 第7回 リフレクションのプレゼンテーション 第8回 実証研究の実例について学術論文を用いた報告（1） 第9回 同（2） 第10回 リフレクションのプレゼンテーション 第11回 サンプリングに関する参考文献を用いた報告（1） 第12回 同（2） 第13回 リフレクションのプレゼンテーション 第14回 研究計画についてのプレゼンテーション（講義内容を反映させて） 第15回 期末レポートの体裁および調査報告書のマナーについて
評価方法・基準	: 講義への参加(出席、資料やリフレクションについてのレジュメ報告とプレゼンテーション(個人単位・毎回))70%程度、期末レポート 30%程度
教 材 な ど	: 受講生の関心や事前知識に応じて調整する余地があるが、これまでの実例として以下を参考書等・指定図書として紹介する。 田村正紀、2006、『リサーチ・デザイン』、白桃書房 森岡清志（編）、2007、『ガイドブック社会調査』、第2版、日本評論社 佐藤郁哉、2008、『質的データ分析法』、新曜社 Kohli, A. K. and B. J. Jaworski, 1990, 'Market Orientation: The Construct, Research Propositions, and Managerial Implications,' in <i>Journal of Marketing</i> . Vol. 54, No. 2, pp. 1-18.
備 考	:

■ BB064

科 目 名	: マーケティング・リサーチ特論演習 I
担 当 者	: 福 富 言
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 自他の研究内容や計画について緻密で論理的な検討ができるようになること
授業内容・方法	: マーケティングに関する著名な先行研究を講読し、建設的・批判的検討のトレーニングをおこなう。また、定期的にリフレクション（先行研究から学んだことに基づいて自身の研究計画を充実化）の発表機会を設ける。受講生の関心分野にあわせて、概ね1つのテーマにつき2、3篇の論文を選択し、リフレクションの課題とする。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス（受講生の関心分野、これまでの研究歴、依拠する理論について確認） 第2回 先行研究の講読（第1のテーマ：実証研究の全体像を把握する） 第3回 先行研究の講読（第1のテーマ：学会賞受賞論文） 第4回 先行研究の講読（第1のテーマ：例えば、日米経営比較、多角化戦略、マーケティング力） 第5回 第1のテーマに基づいたリフレクション 第6回 先行研究の講読（第2のテーマ：仮説の構築と尺度） 第7回 先行研究の講読（第2のテーマ：問題設定、調査仮説・作業仮説） 第8回 先行研究の講読（第2のテーマ：顧客志向、適応型販売、チーム・セリング） 第9回 第2のテーマに基づいたリフレクション 第10回 先行研究の講読（第3のテーマ：先行研究の体系的なレビュー） 第11回 先行研究の講読（第3のテーマ：メタ・アナリシス） 第12回 先行研究の講読（第3のテーマ：例えば、市場志向、アニュアル・レビュー） 第13回 第3のテーマに基づいたリフレクション 第14回 3つのテーマに基づいた研究計画書の作成・発表 第15回 総括（実証研究により期待される成果について検討）
評価方法・基準	: レジューメ 100%。講読文献の理解度や修士論文執筆に向けた研究計画、リフレクションの質を評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB065

科 目 名	: マーケティング・リサーチ特論演習Ⅱ
担 当 者	: 福 富 言
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 自他の研究内容や計画について緻密で論理的な検討ができるようになること
授業内容・方法	: マーケティングに関する著名な先行研究を講読し、建設的・批判的検討のトレーニングをおこなう。また、定期的にリフレクション（先行研究から学んだことに基づいて自身の研究計画を充実化）の発表機会を設ける。受講生の関心分野にあわせて、概ね1つのテーマにつき2、3篇の論文を選択し、リフレクションの課題とする。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス（特論演習Ⅰにおける課題達成度の評価、講読文献のリスティング） 第2回 先行研究の講読（第4のテーマ：実証研究・推論） 第3回 先行研究の講読（第4のテーマ：比較研究） 第4回 先行研究の講読（第4のテーマ：例えば、標準化、組織コミットメント） 第5回 第4のテーマに基づいたリフレクション 第6回 先行研究の講読（第5のテーマ：実証研究・推論～ステップアップ） 第7回 先行研究の講読（第5のテーマ：モデル） 第8回 先行研究の講読（第5のテーマ：例えば、バラエティ・シーキング、スイッチング） 第9回 第2のテーマに基づいたリフレクション 第10回 先行研究の講読（第6のテーマ：含意） 第11回 先行研究の講読（第6のテーマ：理論的・実践的インプリケーションの検討） 第12回 先行研究の講読（第6のテーマ：例えば、アイデンティフィケーション） 第13回 第6のテーマに基づいたリフレクション 第14回 3つのテーマに基づいた研究計画書の作成・発表 第15回 総括（修士論文の執筆のために残された課題に基づいた追加的課題：例えば、定性的研究成果の批判的検討）
評価方法・基準	: レジюме 100%。講読文献の理解度や修士論文執筆に向けた研究計画、リフレクションの質を評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB066

科 目 名	: マーケティング・リサーチ特論演習Ⅲ
担 当 者	: 福 富 言
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 実証研究の成果を修士論文としてまとめ上げること
授業内容・方法	: 受講生の関心に基づいた実証研究を適宜サポートし、修士論文の完成度を高める。修士論文のための問題設定や関連資料の収集状況に応じて内容は受講生にあわせるが、便宜上、修士論文執筆のために必要な課題の前半を記載する。
授 業 計 画	第1回 現在までの準備状況の確認。文献サーベイの補完について計画 第2回 文献サーベイに基づく問題の設定1 第3回 文献サーベイに基づく問題の設定2 第4回 先行研究の体系的なレビュー1 第5回 先行研究の体系的なレビュー2 第6回 問題設定、調査仮説の構築、作業仮説の作成1 第7回 問題設定、調査仮説の構築、作業仮説の作成2 第8回 修士論文のテーマに関する二次データの整理1 第9回 修士論文のテーマに関する二次データの整理2 第10回 探索的調査実習 第11回 探索的調査結果のまとめ 第12回 問題の再設定、調査仮説の構築、作業仮説の作成 第13回 修士論文のテーマに関する二次データの整理3 第14回 サンプルングやデータの取り扱いに関する講義、データ分析の実習1 第15回 サンプルングやデータの取り扱いに関する講義、データ分析の実習2
評価方法・基準	: レジユメ 100%。修士論文の進捗と口頭発表の質を評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB067

科 目 名	: マーケティング・リサーチ特論演習Ⅳ
担 当 者	: 福 富 言
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 実証研究の成果を修士論文としてまとめ上げること
授業内容・方法	: 受講生の関心に基づいた実証研究を適宜サポートし、修士論文の完成度を高める。修士論文執筆のために必要な課題の後半を本特論演習のシラバスとして記載する。
授 業 計 画	第1回 調査票ないし質問票の制作1 第2回 調査票ないし質問票の制作2 第3回 実証研究1 第4回 実証研究2 第5回 実証研究3（調査票・質問票の回収に時間がかかる場合はデータ分析の実習を追加。あるいは修士論文の前半部分の進捗状況を適宜確認・評価） 第6回 研究成果のいったんのまとめ 第7回 暫定的な結論とインプリケーションの検討 第8回 追加調査の検討 第9回 追加調査の実施 第10回 論文指導（問題設定） 第11回 論文指導（仮説と尺度） 第12回 論文指導（サンプリング） 第13回 論文指導（モデル） 第14回 論文指導（定性的・定量的分析） 第15回 論文指導（理論的・実践的示唆）
評価方法・基準	: 修士論文 100%。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB068

科 目 名	: N P Oマネジメント特論
担 当 者	: 大木 裕子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 非営利組織のマネジメントについて理解する。
授業内容・方法	: 原書講読、ケースを使用したディスカッション
授 業 計 画	: 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 原書講読① 第 3 回 原書講読② 第 4 回 原書講読③ 第 5 回 原書講読④ 第 6 回 原書講読⑤ 第 7 回 原書講読⑥ 第 8 回 原書講読⑦ 第 9 回 原書講読⑧ 第 10 回 ケース① 第 11 回 ケース② 第 12 回 ケース③ 第 13 回 ケース④ 第 14 回 ケース⑤ 第 15 回 総括
評価方法・基準	: 平常点及び課題レポート
教 材 な ど	: 授業で指示する。
備 考	:

■ BB069

科 目 名	: N P Oマネジメント特論演習 I
担 当 者	: 大木 裕子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 研究テーマを選定する。
授業内容・方法	: 原書講読、研究発表
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 原書講読① 第 3 回 原書講読② 第 4 回 原書講読③ 第 5 回 原書講読④ 第 6 回 原書講読⑤ 第 7 回 原書講読⑥ 第 8 回 原書講読⑦ 第 9 回 原書講読⑧ 第 10 回 学生による研究発表① 第 11 回 学生による研究発表② 第 12 回 学生による研究発表③ 第 13 回 学生による研究発表④ 第 14 回 学生による研究発表⑤ 第 15 回 総括
評価方法・基準	: 平常点及び研究発表
教 材 な ど	: 授業で指示する。
備 考	:

■ BB070

科 目 名	: N P Oマネジメント特論演習Ⅱ
担 当 者	: 大木 裕子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 研究テーマを掘り下げる。
授業内容・方法	: 原書講読、研究発表
授 業 計 画	: 第1回 インTRODakション
	: 第2回 原書講読①
	: 第3回 原書講読②
	: 第4回 原書講読③
	: 第5回 原書講読④
	: 第6回 原書講読⑤
	: 第7回 原書講読⑥
	: 第8回 原書講読⑦
	: 第9回 原書講読⑧
	: 第10回 学生による研究発表①
	: 第11回 学生による研究発表②
	: 第12回 学生による研究発表③
	: 第13回 学生による研究発表④
	: 第14回 学生による研究発表⑤
	: 第15回 総括
評価方法・基準	: 平常点及び研究発表
教 材 な ど	: 授業で指示する。
備 考	:

■ BB071

科 目 名	: N P Oマネジメント特論演習Ⅲ
担 当 者	: 大木 裕子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 論文の作成を開始する。
授業内容・方法	: 論文講読、研究発表
授 業 計 画	第1回 インTRODakション 第2回 学生による研究発表 第3回 論文講読① 第4回 論文講読② 第5回 論文講読③ 第6回 論文講読④ 第7回 学生による研究発表 第8回 目次案の作成 第9回 目次案についてのディスカッション 第10回 論文講読⑤ 第11回 論文講読⑥ 第12回 論文講読⑦ 第13回 論文講読⑧ 第14回 学生による研究発表 第15回 総括
評価方法・基準	: 平常点及び研究発表
教 材 な ど	: 授業で指示する。
備 考	:

■ BB072

科 目 名	:	NPOマネジメント特論演習Ⅳ
担 当 者	:	大木 裕子
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	修士論文作成のための研究を進める。
授業内容・方法	:	論文講読、研究発表、論文指導
授 業 計 画	:	第1回 学生による研究発表
		第2回 目次についてのディスカッション
		第3回 学生による研究発表
		第4回 論文講読①
		第5回 論文講読②
		第6回 学生による研究発表
		第7回 論文講読③
		第8回 論文講読④
		第9回 学生による研究発表
		第10回 論文講読⑤
		第11回 論文講読⑥
		第12回 学生による研究発表
		第13回 論文執筆指導①
		第14回 論文執筆指導②
		第15回 論文執筆指導③
評価方法・基準	:	修士論文
教 材 な ど	:	授業で指示する。
備 考	:	

■ BB073

科 目 名	: 環境マネジメント特論
担 当 者	: 在間 敬子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 環境経営の理論とケースを理解すること。
授業内容・方法	: 英語の基本論文を輪読する。発表者だけでなく全員、毎回、英語論文を読み、議論に参加することが求められます。
授 業 計 画	: 第1回 S.L. Hart, “Beyond Greening: Strategies for a Sustainable World” 第2回 J. Elkington, “The Triple Bottom Line: Sustainability’s Accountants” 第3回 M.E. Porter & C. Linde, “Toward a New Conception of the Environment-Competitiveness Relationship” 第4回 M.E. Porter & M.K. Kramer “Strategy & Society: The Link between Competitive Advantage and Corporate Social Responsibility” 第5回 P. Hawken, et al., “The Next Industrial Revolution” 第6回 F. Reinhardt, “Environmental Product Differentiation: Implications for Corporate Strategy” 第7回 J.A. Ottman, et al., “Avoiding Green Marketing Myopia: Ways to Improve Consumer Appeal for Environmentally Preferable Products” 第8回 D.A. Randinelli, et al., “How Corporations and Environmental Groups Collaborate” 第9回 C.K. Prahalad & S.L. Hart, “The Fortune at the Bottom of the Pyramid “ 第10回 B. Nattrass, et al., “A New Framework for Management” 第11回 A.W. Hoffman, “Strategy Originates within the Organization” 第12回 Supply Chain Strategy and Sustainability: The Migros Palm Oil Case 第13回 Environment Product Differentiation by the Hyward Lumber Company 第14回 Transforming the Global Fishing Industry: The Marine Stewardship Council at Full Sail 第15回 Procter & Gamble Inc: Disposable and Reusable Diapers - A Life-Cycle Analysis
評価方法・基準	: 発表内容と授業での議論
教 材 な ど	: Michael V. Russo (ed.) (2008) Environmental Management: Readings and Cases, 2 nd ed., Sage Publication Inc. Neil Gunningham (ed.) (2009) Corporate Environmental Responsibility, Ashgate Publishing Company
備 考	:

■ BB074

科 目 名	: 環境マネジメント特論演習 I
担 当 者	: 在間 敬子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 環境経営・ビジネスや環境政策に関する研究テーマを立てて、リサーチクエスチョンを抽出し、基本文献の収集と内容整理を行う。
授業内容・方法	: 受講生の発表と議論
授 業 計 画	第 1 回 研究テーマ設定に関するワークショップ 第 2 回 研究テーマ設定に関するワークショップ・研究テーマの確定 第 3 回 リサーチクエスチョンの抽出に関するワークショップ 第 4 回 リサーチクエスチョンの抽出に関するワークショップ・内容の仮決定 第 5 回 研究方法の概要に関する学習と現時点での選択 第 6 回 文献検索の仕方に関する学習と文献収集 第 7 回 研究テーマに関する基本文献の収集 第 8 回 収集した文献の整理と文献の読み方に関する学習 第 9 回 基本文献の内容整理と発表 1 第 10 回 基本文献の内容整理と発表 2 第 11 回 基本文献の内容整理と発表 3 第 12 回 基本文献の内容整理と発表 4 第 13 回 基本文献の内容整理と発表 5 第 14 回 基本文献で理解した内容とリサーチクエスチョンの関連性の整理 第 15 回 夏休みの研究調査課題
評価方法・基準	: 発表や議論の内容
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB075

科 目 名	: 環境マネジメント特論演習Ⅱ
担 当 者	: 在間 敬子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅰでたてた、環境経営・ビジネスや環境政策に関する研究テーマに関して、既存研究論文の内容理解、研究方法の学習、研究小項目の抽出、調査研究準備を行う。
授業内容・方法	: 受講生の発表と議論
授 業 計 画	第1回 夏休みに行った課題に関する報告および今期の目標設定 第2回 既存研究論文の内容整理と発表1 第3回 既存研究論文の内容整理と発表2 第4回 既存研究論文の内容整理と発表3 第5回 既存研究論文の内容整理と発表4 第6回 既存研究論文の内容整理と発表5 第7回 既存研究とリサーチクエスションの関連、オリジナリティの確認 第8回 リサーチクエスションの確定と研究方法の検討 質的調査、統計的手法、人工社会シミュレーションによる手法など 第9回 研究方法に関する文献の内容整理と発表1 第10回 研究方法に関する文献の内容整理と発表2 第11回 研究方法に関する文献の内容整理と発表3 第12回 研究方法に関する文献の内容整理と発表4 第13回 研究方法に関する文献の内容整理と発表5 第14回 研究小項目の抽出と調査研究の準備 企業調査の場合はビジネスマナー・ビジネス文書作成の学習も含める 第15回 春休みの研究項目の検討
評価方法・基準	: 発表や議論の内容
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB076

科 目 名	: 環境マネジメント特論演習Ⅲ
担 当 者	: 在間 敬子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅰで設定した環境経営・ビジネスや環境政策に関する研究テーマに関して、Ⅱで選択した研究方法に従い、研究調査を行い、結果をまとめ、考察する。さらに、研究調査すべき項目を抽出し、次の研究調査の準備を行う。
授業内容・方法	: 受講生の研究調査実施に関する発表・議論
授 業 計 画	第1回 春休みに行った課題に関する報告および今期の目標設定 第2回 研究調査の準備1（研究方法により異なる。統計的手法ではデータ収集、アンケートではアンケート票作成、企業調査ではインタビュー項目作成やアポイントメント、シミュレーションではモデル設計など） 第3回 研究調査の準備2 第4回 研究調査の準備3 第5回 研究調査の実施1（研究方法により異なる。統計的手法ではデータ解析、アンケートではアンケートの実施・回収・整理、企業調査ではインタビュー実施・内容整理、シミュレーションではプログラミング） 第6回 研究調査の実施2 第7回 研究調査の実施3 第8回 研究調査の実施4 第9回 これまでの研究実施結果とリサーチクエスチョンとの関連の整理、さらに研究調査事項の再検討 第10回 研究調査の実施5 第11回 研究調査の実施6 第12回 研究調査の実施7 第13回 研究調査の実施8 第14回 これまでの研究実施結果とリサーチクエスチョンとの関連の整理 研究テーマに関して明らかにしたこと・さらに調査研究すべき項目の整理 第15回 中間報告発表の準備、夏休みの研究課題の検討
評価方法・基準	: 発表や議論、調査実施とまとめの内容
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	: 各回では、上記の内容と並行して、Ⅰ・Ⅱに引き続き、基本文献や関連する既存研究論文の内容に関する発表も行う。

■ BB077

科 目 名	: 環境マネジメント特論演習Ⅳ
担 当 者	: 在間 敬子
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅰで設定した環境経営・ビジネスや環境政策に関する研究テーマに関して、Ⅱで選択した研究方法に従い、Ⅲでは研究調査を行い、結果を整理した。今期は、必要な追加調査・文献調査を行い、それらの内容を含めて、修士論文として完成させる。
授業内容・方法	: 受講生の研究報告、論文執筆
授 業 計 画	第1回 夏休みに行った課題に関する報告 中間報告(9月上旬)の質疑応答を踏まえたリサーチクエスト・研究調査小項目の再検討、追加事項の確認し、研究調査が必要な場合は準備を行う。 第2回 追加研究調査の実施1 第3回 追加研究調査の実施2 第4回 これまでの研究実施結果を総括し、研究テーマ、リサーチクエスト、研究小項目との関連で、全体を整理する。 第5回 修士論文の書き方に関する学習 第6回 執筆した章に関する論文指導1 第7回 執筆した章に関する論文指導2 第8回 執筆した章に関する論文指導3 第9回 執筆した章に関する論文指導4 第10回 論文の全体の内容と構成の再検討。各章の内容整理と加筆修正 第11回 修正した章に関する論文指導と全体のまとめ 第12回 修士論文の内容の完成と加筆修正事項のチェック 第13回 修士論文の形式を整えるなど最終確認、および、提出に関する注意 第14回 研究発表の準備と論文要約の作成 第15回 研究発表と審査を受けるに際しての準備
評価方法・基準	: 研究調査や論文作成の内容
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	: 第1～5回では、上記の内容と並行して、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに引き続き、必要に応じて関連文献の内容に関する発表も行う。

■ BB078

科 目 名	: 雇用関係論特論
担 当 者	: 篠原 健一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 雇用関係の国際比較
授業内容・方法	: 講義、履修者による報告、ディスカッション
授 業 計 画	: 第1回 I.R.の考え方1 第2回 I.R.の考え方2 第3回 I.R.の考え方3 第4回 テキスト①前半 第5回 テキスト①前半 第6回 テキスト①後半 第7回 テキスト①後半 第8回 テキスト②前半 第9回 テキスト②前半 第10回 テキスト②後半 第11回 テキスト②後半 第12回 参考書を用いた議論1 第13回 参考書を用いた議論2 第14回 参考書を用いた議論3 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 報告内容、講義発言、事前・事後学習の勉強量により、各1/3ずつ評価ポイントとする。
教 材 な ど	: ① 篠原健一『アメリカ自動車産業』(2014、中公新書)、②『転換期のアメリカ労使関係』(2003、ミネルヴァ書房)、③石田光男・篠原健一編著『GMの経験：日本への教訓』(2010、中央経済社)
備 考	: 参考書：都度指示する。

■ BB079

科 目 名	: 雇用関係論特論演習 I
担 当 者	: 篠原 健一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 雇用関係、労使関係の基本的考え方の理解と国際比較
授業内容・方法	: 演習スタイルによりテキスト等を題材に報告、議論を行う。
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 I. R. の考え方① 第 3 回 I. R. の考え方② 第 4 回 I. R. の考え方③ 第 5 回 テキスト①の輪読とディスカッション 第 6 回 テキスト①の輪読とディスカッション 第 7 回 テキスト①の輪読とディスカッション 第 8 回 テキスト②の輪読とディスカッション 第 9 回 テキスト②の輪読とディスカッション 第 10 回 テキスト②の輪読とディスカッション 第 11 回 参考書を用いたディスカッション 第 12 回 参考書を用いたディスカッション 第 13 回 参考書を用いたディスカッション 第 14 回 研究計画の発表とディスカッション 第 15 回 まとめ・総括
評価方法・基準	: 平常点 (80% : 文献を正確に読めているか) 、レポート (20%)
教 材 な ど	: ① 篠原健一『アメリカ自動車産業』(2014、中公新書)、②『転換期のアメリカ労使関係』(2003、ミネルヴァ書房)、③石田光男・篠原健一編著『GM の経験 : 日本への教訓』(2010、中央経済社)
備 考	: 参考書、資料を都度指示する。

■ BB080

科 目 名	: 雇用関係論特論演習Ⅱ
担 当 者	: 篠原 健一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 雇用関係、労使関係の基本的考え方の理解と国際比較
授業内容・方法	: 演習スタイルによりテキスト等を題材に報告、議論を行う。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション
	第2回 I.R.の考え方①
	第3回 I.R.の考え方②
	第4回 I.R.の考え方③
	第5回 研究計画の発表とディスカッション
	第6回 テキストの輪読とディスカッション
	第7回 テキストの輪読とディスカッション
	第8回 テキストの輪読とディスカッション
	第9回 テキストの輪読とディスカッション
	第10回 テキストの輪読とディスカッション
	第11回 参考書を用いたディスカッション
	第12回 参考書を用いたディスカッション
	第13回 参考書を用いたディスカッション
	第14回 研究計画の発表
	第15回 まとめ・総括
評価方法・基準	: 平常点（80%：文献を正確に読めているか）、レポート（20%）
教 材 な ど	: 受講者と相談して決定する。
備 考	: 参考書、資料を都度指示する。

■ BB081

科 目 名	: 雇用関係論特論演習Ⅲ
担 当 者	: 篠原 健一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 雇用関係、労使関係の基本的考え方の理解と国際比較
授業内容・方法	: 演習スタイルによりテキスト等を題材に報告、議論を行う。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション
	: 第2回 I.R.の考え方①
	: 第3回 I.R.の考え方②
	: 第4回 I.R.の考え方③
	: 第5回 テキストの輪読とディスカッション
	: 第6回 テキストの輪読とディスカッション
	: 第7回 テキストの輪読とディスカッション
	: 第8回 テキストの輪読とディスカッション
	: 第9回 テキストの輪読とディスカッション
	: 第10回 参考書を用いたディスカッション
	: 第11回 参考書を用いたディスカッション
	: 第12回 研究計画の発表とディスカッション
	: 第13回 研究計画の発表とディスカッション
	: 第14回 研究計画の発表とディスカッション
	: 第15回 まとめ・総括
評価方法・基準	: 平常点（80%：文献を正確に読めているか）、レポート（20%）
教 材 な ど	: 受講者と相談して決定する。
備 考	: 参考書、資料を都度指示する。

■ BB082

科 目 名	: 雇用関係論特論演習Ⅳ
担 当 者	: 篠原 健一
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 雇用関係、労使関係の基本的考え方の理解と国際比較
授業内容・方法	: 演習スタイルによりテキスト等を題材に報告、議論を行う。
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 I. R. の考え方① 第3回 I. R. の考え方② 第4回 研究計画の発表とディスカッション 第5回 テキストの輪読とディスカッション 第6回 テキストの輪読とディスカッション 第7回 テキストの輪読とディスカッション 第8回 テキストの輪読とディスカッション 第9回 テキストの輪読とディスカッション 第10回 参考書を用いたディスカッション 第11回 参考書を用いたディスカッション 第12回 修士論文作成に向けた勉強の進捗管理、質疑、報告 第13回 修士論文作成に向けた勉強の進捗管理、質疑、報告 第14回 修士論文作成に向けた勉強の進捗管理、質疑、報告 第15回 まとめ・総括
評価方法・基準	: 平常点（80%：文献を正確に読めているか）、レポート（20%）
教 材 な ど	: 受講者と相談して決定する。
備 考	: 参考書、資料を都度指示する。

■ BB083

科 目 名	: ソーシャル・イノベーション特論
担 当 者	: 大室 悦賀
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 本講義では、社会的課題をビジネスの手法で解決する新しい商品やサービス、それを提供する新しい仕組みをソーシャル・イノベーションと定義し、その事業形態であるソーシャル・ビジネスを学習する。本講義では社会的課題を解決することを目的としたソーシャル・ベンチャーはもちろんのこと、一般企業のソーシャル・ビジネスも検討対象とする。ソーシャル・ビジネスはいまだ未熟な学問領域であり、多様な領域からのアプローチが現存している。ゆえに、多様な領域の知識を必要とする応用領域となる。本講義は多様な領域の基礎学力を前提として議論を進めることとなるので、授業に参加しながら基本的な領域の学習も並行して必要となる場合があるので、それらを積極的にこなしていく姿勢が求められる。また、英語論文も加えていくので、その課題をこなしていくことも必要となる。 最終的にはソーシャル・イノベーションを主体としたソーシャル・ビジネスの理解、その原理、成功要因、発展可能性を理解することを目的として進める。
授業内容・方法	: 本授業は基本的に教科書を用いるが、随時英語の論文も加えながら議論を進める。授業内容は講義と討論をベースに、ケーススタディを組み込みながら進める。合わせて、各自文献に対する疑問点等を A4 一枚程度にまとめ提出してもらう。
授 業 計 画	: 第1回 インTRODクシヨン 第2回 ソーシャル・ビジネス登場の背景 第3回 ソーシャル・ビジネスとは何か 第4回 ソーシャル・ビジネスの基本原理 第5回 ソーシャル・ビジネスの成功ポイント 第6回 ソーシャル・アントレプレナーの役割 第7回 ソーシャル・イノベーションの原理 第8回 多様な主体のコラボレーション 第9回 ステイクホルダーの参集戦略 第10回 マルチ・ステイクホルダー・パースペクティブ 第11回 一般企業にとってのソーシャル・ビジネス 第12回 地域にとってのソーシャル・ビジネス 第13回 行政にとってのソーシャル・ビジネス 第14回 ソーシャルマネジメントの可能性 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 毎週の課題と議論への参加状況を加味し総合的に評価する。
教 材 な ど	: 谷本他著『ソーシャル・イノベーション』NTT 出版 2013 大室悦賀・大阪 NP0 センター編著『ソーシャル・ビジネスー地域の課題をビジネスで解決するー』中央経済社 2011
備 考	:

■ BB084

科 目 名	: ソーシャル・イノベーション特論演習 I
担 当 者	: 大室 悦賀
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 研究手法、基礎的文献の理解
授業内容・方法	: この分野に関する、もっとも基本文献と最新の研究論文を読み、その要点を整理し発表することが求められる。
授 業 計 画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 研究手法 1 第 3 回 研修手法 2 第 4 回 研修手法 3 第 5 回 企業社会論 1 第 6 回 企業社会論 2 第 7 回 企業社会論 3 第 8 回 企業社会論 4 第 9 回 企業社会論 5 第 10 回 企業社会論 6 第 11 回 企業とステークホルダー1 第 12 回 企業とステークホルダー2 第 13 回 企業とステークホルダー3 第 14 回 企業とステークホルダー4 第 15 回 企業とステークホルダー5
評価方法・基準	: 毎週の課題と議論への参加状況を加味し総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB085

科 目 名	: ソーシャル・イノベーション特論演習Ⅱ
担 当 者	: 大室 悦賀
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 基礎的文献の理解
授業内容・方法	: 本科目テーマに関する、基本文献と最新の研究論文を読み、その要点を整理し発表することが求められる。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 イノベーション論1 第3回 イノベーション論2 第4回 イノベーション論3 第5回 イノベーション論4 第6回 イノベーション論5 第7回 イノベーション論6 第8回 ソーシャルイノベーション論1 第9回 ソーシャルイノベーション論2 第10回 ソーシャルイノベーション論3 第11回 ソーシャルイノベーション論4 第12回 ソーシャルイノベーション論5 第13回 ソーシャルイノベーション論6 第14回 ソーシャルイノベーション論7 第15回 ソーシャルイノベーション論8
評価方法・基準	: 毎週の課題と議論への参加状況を加味し総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB086

科 目 名	: ソーシャル・イノベーション特論演習Ⅲ
担 当 者	: 大室 悦賀
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: テーマ決定、文献サーベイ
授業内容・方法	: 受講者の研究テーマに関する、基本文献と最新の研究論文を読み、その要点を整理し発表することが求められる。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 基本文献の講読1 第3回 基本文献の講読2 第4回 基本文献の講読3 第5回 基本文献の講読4 第6回 基本文献の講読5 第7回 基本文献の講読6 第8回 中間報告 第9回 最新論文の研究1 第10回 最新論文の研究2 第11回 最新論文の研究3 第12回 最新論文の研究4 第13回 最新論文の研究5 第14回 最新論文の研究6 第15回 最終報告
評価方法・基準	: 毎週の課題と議論への参加状況を加味し総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB087

科 目 名	: ソーシャル・イノベーション特論演習Ⅳ
担 当 者	: 大室 悦賀
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 修士論文の作成
授業内容・方法	: 受講者の研究テーマに関するオリジナルな研究成果を発表することが求められる。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 基本方針に関する報告1 第3回 基本方針に関する報告2 第4回 研究指導1 第5回 研究指導2 第6回 研究指導3 第7回 中間報告1 第8回 中間報告2 第9回 研究指導4 第10回 研究指導5 第11回 研究指導6 第12回 論文準備1 第13回 論文準備2 第14回 最終報告1 第15回 最終報告2
評価方法・基準	: 毎週の課題と議論への参加状況を加味し総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB088

科 目 名	： ソーシャル・ネットワーク特論			
担 当 者	： 金光 淳			
週 時 間 数	： 2			
単 位 数	： 2			
配 当 年 次	： 1 年			
開 講 期 間	： 春学期 秋学期			
授 業 目 標	： 近年社会ネットワークやソーシャル・キャピタルに着目した経営学分野の研究が進み、関連する論文が爆発的に増加している。この特論ではビジネスにおける組織研究、マーケティング・リサーチにおいて社会ネットワーク・アプローチを身につけ、簡単な社会ネットワーク分析の方法を習得することを目標とする。授業では統計言語 R の社会ネットワーク分析ソフト（sna, igraph）での演習も行う。関連する領域については備考を参照せよ。			
授業内容・方法	： 発表、講義、演習の柔軟な組み合わせで行う。受講者のレベル、研究内容、要求を十分考慮する。\$ の回では事前の論文読解が必要でレジュメを作成すること。&は講義中心で行う。%は演習中心で行う。			
授 業 計 画	第 1 回	経営組織とソーシャル・ネットワーク		&
	第 2 回	基礎理論：グラノベッターの弱い絆の強さ（勁草書房）		\$
	第 3 回	基礎理論：バートの構造的空隙論（勁草書房）		\$
	第 4 回	「経営学とソーシャル・キャピタル」（ミネルヴァ書房）		\$
	第 5 回	社会ネットワーク分析の基礎 1（有斐閣）		&
	第 6 回	社会ネットワーク分析の基礎 2（有斐閣）		&
	第 7 回	R での社会ネットワーク分析 1 組織分析 1		%
	第 8 回	R での社会ネットワーク分析 2 組織分析 2		%
	第 9 回	『一橋ビジネスレビュー』「ネットワーク特集号」論文 1		\$
	第 10 回	『一橋ビジネスレビュー』「ネットワーク特集号」論文 2		\$
	第 11 回	社会ネットワークとイノベーションの普及		&
	第 12 回	マーケティング・リサーチと社会ネットワーク分析		\$
	第 13 回	R での社会ネットワーク分析 3：マーケットリサーチ		%
	第 14 回	R での社会ネットワーク分析 4：マーケットリサーチ		%
	第 15 回	自分の研究にどのように活かすかを発表する。		
評価方法・基準	発表（レジュメのパワポを作って要約、図表で整理）		40%	
	最終レポート A4(理論とデータ分析) 10 枚		60%	
教 材 な ど	： 野沢慎司監訳『リーディング ネットワーク論』（勁草書房、2006）； 若林直樹著『ネットワーク組織』（有斐閣、2009）；鈴木努著『ネットワーク分析（R で学ぶデータサイエンス 8）』（共立出版、2009）『一橋ビジネスレビュー 2009 年秋号』「ネットワーク特集号」東洋経済新報社（購入しなくても貸与可能である）			
備 考	： 関連領域： ネットワーク組織論 組織分析 マーケットリサーチ 経営情報 ソーシャル・ネットワーク 企業グループ 企業不祥事研究 ブランド論 イノベーション普及論 ビックデータ分析 数理社会学 都市ブランド研究 京都ブランド研究			

■ BB089

科 目 名	: ソーシャル・ネットワーク特論演習 I
担 当 者	: 金光 淳
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 社会ネットワークに注目した経営学研究の考え方を身につける
授業内容・方法	: 組織と社会ネットワーク分析に関する書籍の読解 パワポによるレジュメの発表
授 業 計 画	第 1 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 1 章 第 2 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 2 章 第 3 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 3 章 第 4 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 4 章 第 5 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 5 章 第 6 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 6 章 第 7 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 7 章 第 8 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 8 章 第 9 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 9 章 第 10 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 10 章 第 11 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』第 11 章 第 12 回 『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』終章 第 13 回 『一橋ビジネスレビュー 2009 年秋号』「ネットワーク特集号」 第 14 回 「経営学とソーシャル・キャピタル」(ミネルヴァ書房) 1 第 15 回 「経営学とソーシャル・キャピタル」(ミネルヴァ書房) 2
評価方法・基準	発表 (レジュメのパワポを作って要約、図表で整理) 40% 最終レポート A4 10 枚 60%
教 材 な ど	中野勉著『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミズム』(有斐閣、2011) 『一橋ビジネスレビュー 2009 年秋号』(2009、東洋経済新報社) 稲葉陽二ら編著『ソーシャル・キャピタルのフロンティア』(ミネルヴァ書房、2011)
備 考	:

■ BB090

科 目 名	: ソーシャル・ネットワーク特論演習Ⅱ
担 当 者	: 金光 淳
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 社会ネットワークに注目した経営学研究の考え方を身につける
授業内容・方法	: 経営学における社会ネットワーク分析のRによる演習と講義
授 業 計 画	第1回 基礎概念 数学的基礎 第2回 データの収集 第3回 リサーチデザイン 第4回 社会ネットワーク分で使われる多変量解析 第5回 可視化 第6回 仮設の検定 第7回 ホールネットワークの特徴づけ 第8回 中心性 第9回 サブグループ 第10回 同値性 第11回 2モードネットワーク分析1: 数学的基礎と社会学的理論 第12回 2モードネットワーク分析2: 消費者とブランド 第13回 2モードネットワーク分析3: 企業と取締役 第14回 巨大ネットワーク 第15回 エゴ・ネットワーク
評価方法・基準	発表（レジュメのパワポを作って要約、図表で整理）、最終レポート 発表（レジュメのパワポを作って要約、図表で整理）40%
教 材 な ど	金光 淳『社会ネットワーク分析の基礎』（勁草書房、2003） 鈴木努著『ネットワーク分析（Rで学ぶデータサイエンス 8）』（共立出版、2009） Borgatti ,Everett and Johnson, <i>Analysing Social Networks</i> . (Sage, 2013)
備 考	: 十分な事前・事後学習を必要とする 統計言語Rを使用する

■ BB091

科 目 名	： ソーシャル・ネットワーク特論演習Ⅲ
担 当 者	： 金光 淳
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 2年
開 講 期 間	： 本年度休講
授 業 目 標	： 社会ネットワークに注目した経営学研究を身につける
授業内容・方法	： 社会ネットワーク分析に関する重要英語文献（紐帯の強弱と経営、イノベーション）の読解し、討論します。
授 業 計 画	第1回 The Strength of Weak Ties. by M.S. Granovetter （日本訳あり） 第2回 The Strength of Strong Ties: Social Networks and Intergroup Conflict in Organizations. by E. Reed Nelson : 弱い絆の強さ理論 第3回 強い絆の強さと弱さの比較 第4回 The Search-Transfer Problem: The Role of Weak Ties in Sharing Knowledge Across Organization Subunits. by M. T. Hansen 第5回 知識移転における社会ネットワーク 第6回 Bridging Ties: A Source of Firm Heterogeneity in Competitive Capabilities. by B. McEvily and A. Zaheer 第7回 ブリッジと企業 第8回 Collaboration Networks, Structural Holes, and Innovation: A Longitudinal Study. by G. Ahuja 第9回 コラボレーションと構造的空隙 第10回 Network Memory: The Influence of Past and Current Networks on Performance. by G. Soda, A. Usai and A. Zaheer 第11回 過去のネットワーク 第12回 Can you have your Cake and Eat it too? Structural Holes' Influence on Status Accumulation and Market Performance in Collaborative Networks. by A. Shipilov and S. Li 第13回 構造的空隙とパフォーマンス 第14回 Second-hand Brokerage: Evidence on the Importance of Local Structure for Managers, Bankers and Analysts. by R. Burt 第15回 構造的空隙論の発展
評価方法・基準	発表（レジメのパワポを作って要約、図表で整理） 40% 最終レポート A4 10枚 60%
教 材 な ど	Martin Kilduff and Andrew V. Shipilov eds. Organizational Networks. Four-Volume Set (Sage, 2011)（高額な本なので適宜コピーして配布） 野沢慎司監訳『リーディング ネットワーク論』（勁草書房、2006）
備 考	： 十分な事前・事後学習を必要とする

■ BB092

科 目 名	: ソーシャル・ネットワーク特論演習Ⅳ
担 当 者	: 金光 淳
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 社会ネットワークに注目した経営学研究を身につける
授業内容・方法	: 社会ネットワーク分析に関する重要英語文献（スモールワールドと普及）の読解・輪読、講義一つの論文を前半、後半の2回に分けて読む。
授 業 計 画	第1回 An Experimental Study of the Small World Problem. by J. Travers and S. Milgram （日本訳あり） 第2回 The Diffusion of an Innovation Among Physicians. by J. Coleman, E. Katz and H. Menzel 第3回 イノベーションの普及理論と社会ネットワーク 第4回 Informal Networks and Organizational Crises: An Experimental Simulation. by D. Krackhardt and R. Stern 第5回 組織のインフォーマル・ネットワーク 第6回 Agents without Principles? The Spread of the Takeover Defense through the Intercorporate Network. by G.F. Davis 第7回 普及と企業ネットワーク 第8回 Networks, Dynamics and the Small-World Phenomenon. by D.J. Watts 第9回 スモールワールド理論 第10回 The Small World of Germany and the Durability of National Networks. by B. Kogut and G. Walker 第11回 企業間のスモールワールドネットワークの実態 第12回 Where do Small Worlds Come From? by J. A. C. Baum, A.V. Shipilov and T. Rowley 第13回 企業間スモールワールドネットワークの効用 第14回 Collaboration and Creativity: The Small World Problem. by B. Uzzi and J. Spiro 第15回 創造性と社会ネットワーク
評価方法・基準	発表（レジメのパワポを作って要約、図表で整理） 40% 最終レポートA4 10枚 60%
教 材 な ど	Martin Kilduff and Andrew V. Shipilov eds. Organizational Networks. Four-Volume Set (Sage, 2011) （高額な本なので適宜コピーして配布） 野沢慎司監訳『リーディング ネットワーク論』（勁草書房、2006）
備 考	: 十分な事前・事後学習を必要とする

■ BB093

科 目 名	: メディカル・ヒストリー特論
担 当 者	: 山下 麻衣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 医学史全般に関する必要な基礎的知識を習得すること。
授業内容・方法	: 疾病および医療従事者を中心に据えた近代の歴史を、英語を中心とした必読文献を読む事をおして学ぶ。対象国は日本にとどまらない。
授 業 計 画	: 第 1 回 疾病に関連した歴史研究 1 (コレラ) 第 2 回 疾病に関連した歴史研究 2 (コレラ) 第 3 回 疾病に関連した歴史研究 3 (結核) 第 4 回 疾病に関連した歴史研究 4 (結核) 第 5 回 疾病に関連した歴史研究 5 (エイズ) 第 6 回 サマリー (大学院生による個別報告) 第 7 回 医療従事者に関連した歴史研究 1 (医師) 第 8 回 医療従事者に関連した歴史研究 2 (医師) 第 9 回 医療従事者に関連した歴史研究 3 (看護師) 第 10 回 医療従事者に関連した歴史研究 4 (看護師) 第 11 回 医療従事者に関連した歴史研究 5 (資格の無い者) 第 12 回 サマリー (大学院生による個別報告) 第 13 回 医療政策に関連した歴史研究 1 (日本) 第 14 回 医療政策に関連した歴史研究 2 (ヨーロッパ、アメリカ) 第 15 回 医療政策に関連した歴史研究 3 (アジア)
評価方法・基準	: 平常点 : 30%、レポートの提出 : 10%、レポートおよびディスカッションの内容 : 60%
教 材 な ど	: 教科書 : 鈴木晃仁・鈴木実佳『Medicine-医学を変えた 70 の発見』(医学書院、2012 年)。 参考書等 : Medical History Review, Nursing History Review の論文を適宜講読する。
備 考	:

■ BB094

科 目 名	: メディカル・ヒストリー特論演習 I
担 当 者	: 山下 麻衣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 健康管理史が意味するところの医療史領域の一構成要素たる看護史を扱う。
授業内容・方法	: 看護史に関する必読文献の輪読を通じて、問題意識、方法論を議論する。そのうえで新しい研究テーマを設定し、研究との関連性を議論し深めていく。
授 業 計 画	第 1 回 看護史の世界 1 : 看護史は何を学ぶ学問か。 第 2 回 看護史の世界 2 : 看護史にはどのような先行研究があるのか (日本) 第 3 回 看護史の世界 3 : 看護史にはどのような先行研究があるのか (イギリス、アメリカ) 第 4 回 Nurses and Servants(看護と家事を担う者) : テキスト第 1 章 第 5 回 The Revolution in Nursing(看護の改革) : テキスト第 2 章 第 6 回 The New Model Nurse(「新しい」看護師) : テキスト第 3 章 第 7 回 Making the Myths(「伝説 (神話) 」をつくる) : テキスト第 4 章 第 8 回 The Search for Unity(労働組合を中心に) : テキスト第 5 章 第 9 回 The Nationalization of Nursing(国家と看護) : テキスト第 6 章 第 10 回 Mental Disorder and Mental Handicap(精神障害と看護) : テキスト第 7 章 第 11 回 同上 第 12 回 Midwifery(出産の場における看護の役割) : テキスト第 8 章 第 13 回 District Nursing and Health Visiting(看護と公衆衛生) : テキスト第 9 章 第 14 回 Professional Autonomy and Economic Constraints(経済と看護) : テキスト第 10 章 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 : 30%、議論の姿勢 : 40%、分析能力 : 25%、出席 : 5%
教 材 な ど	: Robert Dingwall, Anne Marie Rafferty, and Charles Webster (1988), An Introduction to the Social History of Nursing London: Routledge, 他。看護史の代表的教科書であるため、出席者は購入。
備 考	:

■ BB095

科 目 名	: メディカル・ヒストリー特論演習Ⅱ
担 当 者	: 山下 麻衣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 看護史領域および関連のある歴史領域における論文を輪読し、修士論文の設定、分析方法、議論の組み立て方を学ぶ。そのうえで、修士論文のテーマの設定、進め方を確立していくことが本授業の目標である。
授業内容・方法	: ①論文の書き方に関する教材を読む。②理論およびサーベイ論文を読む。③自身のテーマ設定に即した先行研究を集め、口頭発表し、議論する。
授 業 計 画	第1回 学術論文はどのようにして書くのか1（テキスト①より） 第2回 学術論文はどのようにして書くのか2（テキスト②より） 第3回 看護史の先行研究をさらに学ぶ1（Nursing History Review より配付） 第4回 看護史の先行研究をさらに学ぶ2（Nursing History Review より配付） 第5回 看護史の先行研究をさらに学ぶ3（Nursing History Review より配付） 第6回 看護史の実証研究を学ぶ1（テキスト②より「職業としての看護」） 第7回 看護史の実証研究を学ぶ2（テキスト②より「家事労働としての看護」） 第8回 看護史の実証研究を学ぶ3（テキスト②より「低賃金労働としての看護」） 第9回 看護史の実証研究を学ぶ4（テキスト②より「教育と看護」） 第10回 イメージとしての看護1（海外の出版物等により看護の歴史を知る） 第11回 イメージとしての看護2（海外の出版物等により看護の歴史を知る） 第12回 イメージとしての看護3（日本の病院史および学校史等により看護の歴史を知る） 第13回 修士論文作成にあたっての文献サーベイの報告 第14回 同上 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表：30%、議論の姿勢：40%、分析能力：25%、出席：5%
教 材 な ど	①石黒圭（2012）『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社 ②Sue Hawkins(2010),Nursing and Women's Labour in the Nineteenth Century: Routledge.
備 考	:

■ BB096

科 目 名	: メディカル・ヒストリー特論演習Ⅲ
担 当 者	: 山下 麻衣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 看護史や関連のある歴史に関する諸理論に基づいて、履修者が自ら研究を進め、修士論文を提出することを目標とする。
授業内容・方法	: 修士論文の完成に向け、履修者が毎回発表資料を準備し、その内容に基づき、担当教員と議論する。
授 業 計 画	第1回 春学期における授業の進め方に関する基本方針の確認 第2回 修士論文の研究テーマに関する概要の報告とディスカッション 第3回 修士論文構成に関する報告と検討 第4回 先行研究のプレゼンテーションおよびディスカッション1 第5回 先行研究のプレゼンテーションおよびディスカッション2 第6回 研究テーマのプレゼンテーションとディスカッション 第7回 第1回から第6回までのディスカッションの再検討 第8回 第7回議論に基づいた先行研究の検討と構成の再検討 第9回 先行研究に基づいた研究のオリジナリティの再検討 第10回 中間発表の基本構想の報告と確認 第11回 修士論文作成にあたっての重要文献の選定とディスカッション1 第12回 修士論文作成にあたっての重要文献の選定とディスカッション2 第13回 中間報告会での発表のプレゼンテーションの予行演習と指導 第14回 第13回議論をふまえた中間報告会での発表のプレゼンテーション 第15回 春学期のまとめ
評価方法・基準	: 発表：40%、分析能力：40%、議論の姿勢：15%、出席：5%
教 材 な ど	: それぞれのテーマに応じて適宜論文類を配付する。
備 考	:

■ BB097

科 目 名	: メディカル・ヒストリー特論演習Ⅳ
担 当 者	: 山下 麻衣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 看護史や関連のある歴史に関する諸理論に基づいて、履修者自らが研究を進め、オリジナリティのある修士論文を提出することが目標である。
授業内容・方法	: 修士論文の完成に向け、履修者が発表資料を準備し、その内容に基づいて、担当教員と議論する。
授 業 計 画	第1回 秋学期における授業の進め方に関する基本方針の確認 第2回 修士論文のさらなる進化の検討と指導 第3回 先行研究の再検討とディスカッション 第4回 構成を含めた修士論文のレベルアップに向けた取り組み1 第5回 構成を含めた修士論文のレベルアップに向けた取り組み2 第6回 修士論文の内容のプレゼンテーションおよび指導 第7回 修士論文の質向上に向けた先行研究の再検討を中心とした指導 第8回 前半のレビューと内容確認 第9回 修士論文の質向上に向けた先行研究の再検討を含めた指導 第10回 修士論文の内容のプレゼンテーションおよび指導 第11回 修士論文の質向上に向けた先行研究の再検討を含めた指導 第12回 修士論文の内容のプレゼンテーションおよび指導 第13回 修士論文の口頭試問の対応検討 第14回 修士論文報告会の予行演習 第15回 全体のレビュー
評価方法・基準	: 修士論文の完成度。
教 材 な ど	: 修士論文完成に向けて有用な書籍および論文を適宜指示する。
備 考	:

■ BB098

科 目 名	: 臨床心理学特論
担 当 者	: 河原 省吾
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: メンタルヘルスへの理解と対応に必要な臨床心理学の知識を身につける。
授業内容・方法	: 受講者には毎回、予定している内容から調べてきて発表することを課す。
授 業 計 画	: 第 1 回 臨床心理学の歴史 第 2 回 心の働きとその理解 第 3 回 発達障害 第 4 回 心の問題 第 5 回 心理査定（アセスメント） 第 6 回 心理臨床援助法 1 第 7 回 心理臨床援助法 2 第 8 回 心理臨床援助法 3 第 9 回 家族における心理臨床 第 10 回 学校領域における臨床 第 11 回 コミュニティ心理臨床と福祉心理臨床 第 12 回 医療領域の臨床 第 13 回 産業領域の臨床 第 14 回 非行領域における心理臨床 第 15 回 心理臨床の訓練と倫理
評価方法・基準	: 毎回の発表 40%、講義における発言 40%、レポート 20%
教 材 な ど	: 参考書：高塚雄介・石井雄吉・野口節子編著『臨床心理学—やさしく学ぶ—』（医学出版社）
備 考	:

■ BB099

科 目 名	: 臨床心理学特論演習 I
担 当 者	: 河原 省吾
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 先行研究を調べる方法を習得する。臨床心理学研究の方法を学ぶ。
授業内容・方法	: 受講生の研究計画を検討し、先行研究を読み込むことによって臨床心理学研究の方法と体系を学ぶ。
授 業 計 画	第 1 回 受講者の基礎知識とフィールドの確認、研究ノートについて 第 2 回 研究計画検討 (1) 第 3 回 先行研究の調べ方 第 4 回 先行研究を読み込む (1) 第 5 回 先行研究を読み込む (2) 第 6 回 先行研究を読み込む (3) 第 7 回 先行研究を読み込む (4) 第 8 回 先行研究を読み込む (5) 第 9 回 研究計画検討 (2) 第 10 回 先行研究を読み込む (6) 第 11 回 先行研究を読み込む (7) 第 12 回 先行研究を読み込む (8) 第 13 回 先行研究を読み込む (9) 第 14 回 先行研究を読み込む (10) 第 15 回 ふりかえり、夏季課題について
評価方法・基準	: 授業内の発表 40%、授業における発言 40%、研究ノート 20%
教 材 な ど	: そのつど指示する。
備 考	臨床心理学特論演習 I 履修までに次の 5 点を学習していることが望まれる。 ・心理学 (実験心理学、臨床心理学、社会心理学) の基礎 ・統計学の基礎 ・心理アセスメントの方法 ・心理臨床援助法 ・事例研究法 何らかの実践フィールドを持ち、継続して関わっていること (有償・無償を問わない) が望まれる。(例: 教育、保育、医療、福祉)

■ BB100

科 目 名	: 臨床心理学特論演習Ⅱ
担 当 者	: 河原 省吾
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 先行研究レビューをおこない、臨床心理学研究の視点を定める。
授業内容・方法	: 研究計画を見直し、先行研究レビューをおこなう。
授 業 計 画	第 1 回 夏季課題報告 第 2 回 研究計画検討（1） 第 3 回 先行研究レビューの方法 第 4 回 先行研究レビュー（1） 第 5 回 先行研究レビュー（2） 第 6 回 先行研究レビュー（3） 第 7 回 先行研究レビュー（4） 第 8 回 先行研究レビュー（5） 第 9 回 研究計画検討（2） 第 10 回 先行研究レビュー（6） 第 11 回 先行研究レビュー（7） 第 12 回 先行研究レビュー（8） 第 13 回 先行研究レビュー（9） 第 14 回 先行研究レビュー（10） 第 15 回 ふりかえり、春季課題について
評価方法・基準	: 授業内の発表 40%、授業における発言 40%、研究ノート 20%
教 材 な ど	: そのつど指示する。
備 考	:

■ BB101

科 目 名	: 臨床心理学特論演習Ⅲ
担 当 者	: 河原 省吾
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 研究目的を明確にし、検証方法・分析方法を定める。
授業内容・方法	: 研究の目的設定、仮説構築、検証方法策定をおこない、検証作業をふまえて結果の整理・分析を進める。
授 業 計 画	第1回 春季課題報告 第2回 論文構想（1）目的 第3回 論文構想（2）仮説 第4回 論文構想（3）方法 第5回 論文構想（4）調査計画① 第6回 論文構想（5）調査計画② 第7回 論文構想（6）調査計画③ 第8回 論文構想（7）結果整理① 第9回 論文構想（8）結果整理② 第10回 論文構想（9）結果整理③ 第11回 論文構想（10）結果分析① 第12回 論文構想（11）結果分析② 第13回 論文構想（12）結果分析③ 第14回 中間報告に向けて（1） 第15回 中間報告に向けて（2）
評価方法・基準	: 授業内の発表 40%、授業における発言 40%、研究ノート 20%
教 材 な ど	: そのつど指示する。
備 考	:

■ BB102

科 目 名	: 臨床心理学特論演習Ⅳ
担 当 者	: 河原 省吾
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 考察を深め、論文を完成する。
授業内容・方法	: 仮説検証結果をふまえて考察を深め、論文を完成する。
授 業 計 画	第1回 中間報告のふりかえり・検討（1） 第2回 中間報告のふりかえり・検討（2） 第3回 論文作成（1）構成 第4回 論文作成（2）論旨 第5回 論文作成（3）パラグラフ 第6回 論文作成（4）図表 第7回 論文作成（5）表現 第8回 論文作成（6）考察① 第9回 論文作成（7）考察② 第10回 論文作成（8）考察③ 第11回 論文作成（9）考察④ 第12回 論文作成（10）考察⑤ 第13回 論文作成（11）仕上げ① 第14回 論文作成（12）仕上げ② 第15回 論文作成（13）仕上げ③
評価方法・基準	: 授業内の発表 40%、授業における発言 40%、研究ノート 20%
教 材 な ど	: そのつど指示する。
備 考	:

■ BB103

科 目 名	: 社会調査特論
担 当 者	: 李 為
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 社会にかかわる探究の基本は解釈であって、実験による解析が困難な社会を、いかに的確に解析するか、その解析の確からしさはどのように認められうるか、といった社会科学方法論を考えなければならない。しかも認識の客観性をめざすという科学的態度が常に求められている。本特論の到達目標は方法論としての社会調査を習得する。 社会調査とは人間が自ら創り上げた社会的世界について何か新しく発見しようとする探究のためにある。しかし、社会調査という営みは調査報告書や研究論文を刊行するまでの手順からなっているだけでなく、量的調査と質的調査、統計的研究と事例研究などの具体的な方法が含まれている。本特論は社会調査のプロセスと理論の基本的といっても習得すべき社会調査の知を社会科学の研究のなかに位置づける内容から構成されている。
授業内容・方法	: 講義方式と受講生による報告の併用
授 業 計 画	: 第1回 社会調査のための基礎 第2回 量的調査と質的調査の意義 第3回 調査と研究の進め方 第4回 社会調査の企画 第5回 調査票の作成 第6回 調査票の構成のしかた 第7回 サンプリングの方法 第8回 調査の実施と調査データ 第9回 調査データの分布と統計量 第10回 統計検定の考え方 第11回 平均の検定と差の検定 第12回 クロス表分析と相関係数 第13回 回帰分析 第14回 確率の基礎 第15回 質的な研究
評価方法・基準	: 授業での担当箇所の発表(50%)、出席および授業における参加の積極性(15%)、定期試験レポート(35%)により総合評価する。
教 材 な ど	: 1. 盛山和夫 (2004)『社会調査法入門』有斐閣ブックス 2. 安田三郎 (1970)『社会調査の計画と解析』東京大学出版社
備 考	: 事前に教材を熟読すること。

■ BB104

科 目 名	: 社会調査特論演習 I
担 当 者	: 李 為
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 研究テーマ、研究方法、分析方法を確定することで、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 授業内容：社会科学という分野の研究をするためには社会に関する調査を行う必要がある。社会調査によるデータ収集と資料収集は、研究対象である現実社会がどのようなになっているのかを知るための最も有効な手段の一つである。そのため、本演習では、方法論としての社会調査について理解することで、研究への道筋を示す。具体的な授業計画は演習 I から演習IVまでの2年間に亘って四つのステップがある。 授業方法：講義と受講生による研究報告
授 業 計 画	: 第1回 大学院の研究とは何か 第2回 問うことと問題意識 第3回 方法論への知的創造 第4回 問題意識の仮説化 第5回 理論と経験をつなぐ 第6回 記述と説明の違い 第7回 科学的説明を目指して 第8回 数量的研究の方法論 第9回 質的研究の方法論 第10回 人類学に学ぶ視点 第11回 歴史学に学ぶ視点 第12回 社会的判断の法則 第13回 現代の批判理論 第14回 時空分析法 第15回 研究テーマの明確化と研究計画の確定
評価方法・基準	: 出席および研究計画の進捗状況(50%)、研究報告(50%)により総合評価する。
教 材 な ど	: 授業中に指示する。
備 考	:

■ BB105

科 目 名	: 社会調査特論演習Ⅱ
担 当 者	: 李 為
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 研究テーマ、研究方法、分析方法を確定することで、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 授業内容：社会科学という分野の研究をするためには社会に関する調査を行う必要がある。社会調査によるデータ収集と資料収集は、研究対象である現実社会がどのようなになっているのかを知るための最も有効な手段の一つである。そのため、本演習では、方法論としての社会調査について理解することで、研究への道筋を示す。具体的な授業計画は演習Ⅰから演習Ⅳまでの2年間に亘って四つのステップがある。 授業方法：講義と受講生による研究報告
授 業 計 画	: 第1回 先行研究のレビューとは何か 第2回 どのようにテキスト批評を行うのか 第3回 学ぶことから問うことへ 第4回 問うことから答えることへ 第5回 社会調査の基本 第6回 全体像をどうつかむのか—E. デュルケームの研究 第7回 事例をどう扱うのか—M. ウェーバーの研究 第8回 計量分析の視点 第9回 事例研究の視点 第10回 知的複眼思考法を目指して 第11回 概念化と概念定義 第12回 指標と分類法 第13回 標本の論理 第14回 実地調査と観察の方法 第15回 因果関係の本質
評価方法・基準	: 出席および研究計画の進捗状況(50%)、研究報告(50%)により総合評価する。
教 材 な ど	: 授業中に指示する。
備 考	:

■ BB106

科 目 名	: 社会調査特論演習Ⅲ
担 当 者	: 李 為
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 研究テーマ、研究方法、分析方法を確定することで、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 授業内容：社会科学という分野の研究をするためには社会に関する調査を行う必要がある。社会調査によるデータ収集と資料収集は、研究対象である現実社会がどのようなものかを知るための最も有効な手段の一つである。そのため、本演習では、方法論としての社会調査について理解することで、研究への道筋を示す。具体的な授業計画は演習Ⅰから演習Ⅳまでの2年間に亘って四つのステップがある。 授業方法：講義と受講生による研究報告
授 業 計 画	: 第1回 事実確認のためのデータ収集 第2回 調査と研究のためのルール 第3回 データ分析とは何か 第4回 量的データの扱い方 第5回 質的データの扱い方 第6回 組織化されていない方法論 第7回 現実をどう理解するか 第8回 社会認識と創造力 第9回 概念の修正と創出 第10回 理論と経験の反復 第11回 あらゆる側面をつかむ 第12回 記述と説明の違い 第13回 原因と結果の論理 第14回 科学的説明を目指して 第15回 修士論文の中間報告
評価方法・基準	: 出席および研究計画の進捗状況(50%)、研究報告(50%)により総合評価する。
教 材 な ど	: 授業中に指示する。
備 考	:

■ BB107

科 目 名	: 社会調査特論演習Ⅳ
担 当 者	: 李 為
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 研究テーマ、研究方法、分析方法を確定することで、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 授業内容：社会科学という分野の研究をするためには社会に関する調査を行う必要がある。社会調査によるデータ収集と資料収集は、研究対象である現実社会がどのようなになっているのかを知るための最も有効な手段の一つである。そのため、本演習では、方法論としての社会調査について理解することで、研究への道筋を示す。具体的な授業計画は演習Ⅰから演習Ⅳまでの2年間に亘って四つのステップがある。 授業方法：講義と受講生による研究報告
授 業 計 画	: 第1回 論文とは何か 第2回 論文とレポートの違い 第3回 論文と調査報告書の違い 第4回 論文を書くための作法 第5回 論文の要件と構成 第6回 本文の組み立て方 第7回 注・引用・文献表のつけ方 第8回 研究報告（1） 第9回 研究報告（2） 第10回 研究報告（3） 第11回 研究報告に対する批評（その1） 第12回 研究報告（4） 第13回 研究報告（5） 第14回 研究報告に対する批評（その2） 第15回 修士論文の完成と提出
評価方法・基準	: 出席および研究計画の進捗状況(50%)、研究報告(50%)により総合評価する。
教 材 な ど	: 授業中に指示する。
備 考	:

■ BB108

科 目 名	: コーポレート・コミュニケーション特論
担 当 者	: 伊吹 勇亮
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 本講では、コーポレート・コミュニケーション（以下CC）に関する代表的な教科書を用い、コーポレート・コミュニケーションの概要を学ぶ。近年の組織経営においてコミュニケーションの重要性は高まるばかりであるが、体系的にコーポレート・コミュニケーション業務が実施されているとはまだ言えない組織も多い。本講を通じ、コーポレート・コミュニケーションの全体像を体系的に学んでもらいたい。
授業内容・方法	: 担当者による解説のあと、受講生を交えディスカッションを行う。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 CCとはなにか 第3回 CCの歴史 第4回 CCの組織 第5回 CCにかかわる実務家とプロフェッショナルリズム 第6回 メディア特性とメディア・リレーションズ 第7回 ステークホルダー・マネジメント 第8回 インターナル・コミュニケーション 第9回 レピュテーション・マネジメント 第10回 イシュー・マネジメント 第11回 CCのマネジメント・プロセス①Plan 第12回 CCのマネジメント・プロセス②Do 第13回 CCのマネジメント・プロセス③See 第14回 CCとソーシャル・メディア 第15回 本講のまとめ
評価方法・基準	: 発表：30%、ディスカッションへの貢献度：40%、レポート試験：30%
教 材 な ど	: S. M. カトリップ他（日本広報学会監修）『体系パブリック・リレーションズ』ピアソン・エデュケーション，2008年。 その他、トピックに合わせ適宜学術論文や資料を配付する。
備 考	: 受講生の興味関心に合わせ、上記の計画は変更を行うこともある。

■ BB109

科 目 名	: コーポレート・コミュニケーション特論演習 I
担 当 者	: 伊吹 勇亮
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 特論演習 I～IVを通し、経営学全般およびコーポレート・コミュニケーションに関連する知識を蓄積し、論理的に思考し表現する能力を涵養することを通じ、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 研究遂行にあたり必要な文献のレビュー報告と各人の研究の進捗報告をベースに、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 研究方法論輪読 ①研究とは何か 第 3 回 研究テーマ報告と議論 ①研究課題について（前半） 第 4 回 研究方法論輪読 ②文献研究の必要性 第 5 回 研究テーマ報告と議論 ②研究課題について（後半） 第 6 回 文献探索実習 ①図書館／アナログ 第 7 回 文献探索実習 ②図書館／デジタル 第 8 回 研究方法論輪読 ③文献研究と課題設定 第 9 回 研究テーマ報告と議論 ③文献リスト報告 第 10 回 研究方法論輪読 ④仮説の設定 第 11 回 研究テーマ報告と議論 ④文献研究（前半） 第 12 回 研究方法論輪読 ⑤仮説の検証 第 13 回 研究テーマ報告と議論 ⑤文献研究（後半） 第 14 回 夏季休暇中の研究計画報告と議論 ①（前半） 第 15 回 夏季休暇中の研究計画報告と議論 ②（後半）
評価方法・基準	: 発表：60%、ディスカッションへの貢献度：40%
教 材 な ど	: 受講生の関心や進度にあわせ、適宜、指示する。
備 考	:

■ BB110

科 目 名	: コーポレート・コミュニケーション特論演習Ⅱ
担 当 者	: 伊吹 勇亮
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅰ～Ⅳを通し、経営学全般およびコーポレート・コミュニケーションに関連する知識を蓄積し、論理的に思考し表現する能力を涵養することを通じ、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 研究遂行にあたり必要な文献のレビュー報告と各人の研究の進捗報告をベースに、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 夏季休暇中の研究の成果報告と議論 ①文献研究（前半） 第3回 夏季休暇中の研究の成果報告と議論 ②文献研究（後半） 第4回 夏季休暇中の研究の成果報告と議論 ③フィールド調査（前半） 第5回 夏季休暇中の研究の成果報告と議論 ④フィールド調査（後半） 第6回 研究テーマ報告と議論 ①文献研究（前半） 第7回 研究テーマ報告と議論 ②文献研究（後半） 第8回 研究テーマ報告と議論 ③フィールド調査（前半） 第9回 研究テーマ報告と議論 ④フィールド調査（後半） 第10回 研究テーマ報告と議論 ⑤文献研究（前半） 第11回 研究テーマ報告と議論 ⑥文献研究（後半） 第12回 研究テーマ報告と議論 ⑦2年目の研究計画策定（前半） 第13回 研究テーマ報告と議論 ⑧2年目の研究計画策定（後半） 第14回 春季休暇中の研究計画報告と議論 ①（前半） 第15回 春季休暇中の研究計画報告と議論 ②（後半）
評価方法・基準	: 発表：60%、ディスカッションへの貢献度：40%
教 材 な ど	: 受講生の関心や進度にあわせ、適宜、指示する。
備 考	:

■ BB111

科 目 名	: コーポレート・コミュニケーション特論演習Ⅲ
担 当 者	: 伊吹 勇亮
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅰ～Ⅳを通し、経営学全般およびコーポレート・コミュニケーションに関連する知識を蓄積し、論理的に思考し表現する能力を涵養することを通じ、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 研究遂行にあたり必要な文献のレビュー報告と各人の研究の進捗報告をベースに、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 春季休暇中の研究の成果報告と議論 ①フィールド調査（前半） 第3回 春季休暇中の研究の成果報告と議論 ②フィールド調査（後半） 第4回 春季休暇中の研究の成果報告と議論 ③文献研究（前半） 第5回 春季休暇中の研究の成果報告と議論 ④文献研究（後半） 第6回 研究テーマ報告と議論 ①フィールド調査（前半） 第7回 研究テーマ報告と議論 ②フィールド調査（後半） 第8回 研究テーマ報告と議論 ③文献研究（前半） 第9回 研究テーマ報告と議論 ④文献研究（後半） 第10回 研究テーマ報告と議論 ⑤フィールド調査（前半） 第11回 研究テーマ報告と議論 ⑥フィールド調査（後半） 第12回 プレゼンテーション講義 ①文章表現について 第13回 プレゼンテーション講義 ②スライドを用いた報告について 第14回 夏季休暇中の研究計画報告と議論 ①（前半） 第15回 夏季休暇中の研究計画報告と議論 ②（後半）
評価方法・基準	: 発表：60%、ディスカッションへの貢献度：40%
教 材 な ど	: 受講生の関心や進度にあわせ、適宜、指示する。
備 考	:

■ BB112

科 目 名	： コーポレート・コミュニケーション特論演習Ⅳ
担 当 者	： 伊吹 勇亮
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 2年
開 講 期 間	： 秋学期
授 業 目 標	： 特論演習Ⅰ～Ⅳを通し、経営学全般およびコーポレート・コミュニケーションに関連する知識を蓄積し、論理的に思考し表現する能力を涵養することを通じ、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	： 研究遂行にあたり必要な文献のレビュー報告と各人の研究の進捗報告をベースに、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	： - 第1回 オリエンテーション - 第2回 研究テーマ報告と議論 ①中間報告での指摘事項への対応（前半） - 第3回 研究テーマ報告と議論 ②中間報告での指摘事項への対応（後半） - 第4回 研究テーマ報告と議論 ③執筆進捗（前半） - 第5回 研究テーマ報告と議論 ④執筆進捗（後半） - 第6回 研究テーマ報告と議論 ⑤追加的フィールド調査（前半） - 第7回 研究テーマ報告と議論 ⑥追加的フィールド調査（後半） - 第8回 研究テーマ報告と議論 ⑦執筆進捗（前半） - 第9回 研究テーマ報告と議論 ⑧執筆進捗（後半） - 第10回 研究テーマ報告と議論 ⑨執筆進捗（前半） - 第11回 研究テーマ報告と議論 ⑩執筆進捗（後半） - 第12回 研究テーマ報告と議論 ⑪執筆進捗（前半） - 第13回 研究テーマ報告と議論 ⑫執筆進捗（後半） - 第14回 研究テーマ報告と議論 ⑬口頭試問準備 - 第15回 修士課程全体の振り返り
評価方法・基準	： 発表：60%、ディスカッションへの貢献度：40%
教 材 な ど	： 受講生の関心や進度にあわせ、適宜、指示する。
備 考	：

■ BB113

科 目 名	: 会計特論
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 会計学を中心となる財務会計の領域における体系的な知識の習得を第一の目標とする。 また、関連する学術論文も取り上げ議論することにより、大学院生として必要な論理的な思考を養う。
授業内容・方法	: 教科書をもとに教員が講義を行い、それに対する質疑応答を中心に進める。
授 業 計 画	: 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 財務会計の機能と制度 第 3 回 利益計算の仕組み 第 4 回 会計理論と会計基準 第 5 回 利益計算と資産評価の基本原則 第 6 回 現金預金と有価証券 第 7 回 売上高と売上債権 第 8 回 棚卸資産と売上原価 第 9 回 有形固定資産と減価償却 第 10 回 無形固定資産と繰延資産 第 11 回 負債 第 12 回 株主資本と純資産 第 13 回 財務諸表の作成と公開 第 14 回 連結財務諸表 第 15 回 外貨建取引等の換算
評価方法・基準	: 課題レポート 60%、授業内における質疑応答 40%
教 材 な ど	: 教科書：桜井久勝『財務会計講義』（第 15 版）中央経済社、2014 年。
備 考	:

■ BB114

科 目 名	: 会計特論演習 I
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 会計特論で修得した知識をもとにして、簿記・財務会計領域における修士論文の作成指導を目標とする。本演習では、簿記の研究課題や財務会計の内、特に制度会計と呼ばれる領域について、その生成過程、社会経済的（歴史的）意義について議論を行い、受講生の簿記論および財務会計に対する理解と洞察を深めるよう努めたい。
授業内容・方法	: 以下のテーマに関する簿記・財務会計領域の学術論文を輪読し、発表を行ってもらいながら、受講者の簿記・財務会計に対する理解を深めつつ、修士論文の論題を決定する。
授 業 計 画	: - 第1回 イン트로ダクション - 第2回 複式簿記の発生と伝播 - 第3回 株式会社の発生と簿記・会計（オランダ） - 第4回 株式会社の発生と簿記・会計（イギリス） - 第5回 産業革命と簿記・会計の革新（イギリス） - 第6回 ビッグビジネスの誕生と会計学（アメリカ） - 第7回 現代会計学の誕生 - 第8回 投資者志向の会計 - 第9回 わが国における西洋式簿記の伝播 - 第10回 わが国における制度会計の黎明期 - 第11回 企業会計原則の誕生 - 第12回 商法と企業会計原則 - 第13回 会計ビッグバン - 第14回 IFRS と会計 - 第15回 総括討論
評価方法・基準	: 演習内での発表内容に 50%、レポート 50%
教 材 な ど	: 教科書：なし。コピーを配付します。また参考資料は適宜指示します。 参考書：千葉準一・中野常男責任編集『会計と会計学の歴史』（体系現代会計学第8巻）、中央経済社、2012 年。
備 考	:

■ BB115

科 目 名	: 会計特論演習Ⅱ
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 会計特論で修得した知識をもとにして、簿記・財務会計領域における修士論文の作成指導を目標とする。本演習では、簿記の研究課題や財務会計の内、特に制度会計と呼ばれる領域について、その生成過程、社会経済的（歴史的）意義について議論を行い、受講生の簿記論および財務会計に対する理解と洞察を深めるよう努めたい。
授業内容・方法	: 修士論文作成に必要な文献およびデータ等、資料の収集を指導し、適宜、進行状況を報告してもらう。
授 業 計 画	: - 第1回 イントロダクション：修士論文の作成手順の説明 - 第2回 論題の設定とその適切性チェック① - 第3回 論題の設定とその適切性チェック② - 第4回 先行研究のレビュー① - 第5回 先行研究のレビュー② - 第6回 先行研究のレビュー③ - 第7回 先行研究のレビュー④ - 第8回 先行研究のレビュー⑤ - 第9回 コントリビューションの確認① - 第10回 コントリビューションの確認② - 第11回 コントリビューションの確認③ - 第12回 コントリビューションの確認④ - 第13回 論文構成① - 第14回 論文構成② - 第15回 総括討議
評価方法・基準	: 演習内での発表内容に 60%、レポート 40%
教 材 な ど	: 教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第7版）、中央経済社、2014年。
備 考	:

■ BB116

科 目 名	: 会計特論演習Ⅲ
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 会計特論で修得した知識をもとにして、簿記・財務会計領域における修士論文の作成指導を目標とする。本演習では、簿記の研究課題や財務会計の内、特に制度会計と呼ばれる領域について、その生成過程、社会経済的（歴史的）意義について議論を行い、受講生の簿記論および財務会計に対する理解と洞察を深めるよう努めたい。
授業内容・方法	: 修士論文の論題および構成を確定。執筆を開始し、各章ごとの発表を行ってもらおう。また、9月に行われる中間報告会の準備も行う。
授 業 計 画	第1回 イン트로ダクション 第2回 序論の検討①：問題意識、課題の設定の適切性 第3回 序論の検討②：問題意識、課題の設定の適切性 第4回 序論の検討③：論文構成の適切性の再チェック 第5回 序論の検討④：論文構成の適切性の再チェック 第6回 本論の検討①：先行研究のレビュー 第7回 本論の検討②：先行研究のレビュー 第8回 本論の検討③：目的の明示とその適否 第9回 本論の検討④：目的の明示とその適否 第10回 本論の検討⑤：主張とその論理化 第11回 本論の検討⑥：主張とその論理化 第12回 中間報告会準備① 第13回 中間報告会準備② 第14回 中間報告会用プレゼン練習① 第15回 中間報告会用プレゼン練習②
評価方法・基準	: 演習内での発表内容に50%、中間報告会の内容50%
教 材 な ど	: 教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第7版）、中央経済社、2014年。
備 考	:

■ BB117

科 目 名	: 会計特論演習Ⅳ
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 会計特論で修得した知識をもとにして、簿記・財務会計領域における修士論文の作成指導を目標とする。本演習では、簿記の研究課題や財務会計の内、特に制度会計と呼ばれる領域について、その生成過程、社会経済的（歴史的）意義について議論を行い、受講生の簿記論および財務会計に対する理解と洞察を深めるよう努めたい。
授業内容・方法	: Ⅲに引き続き、修士論文の執筆を指導する。各章ごとの発表を行ってもらい、修士論文の完成を目指す。
授 業 計 画	: 第1回 イン트로ダクション 第2回 中間報告会指摘事項の確認① 第3回 中間報告会指摘事項の確認② 第4回 本論検討① 第5回 本論検討② 第6回 本論検討③ 第7回 本論検討④ 第8回 本論検討⑤ 第9回 本論検討⑥ 第10回 本論検討⑦ 第11回 本論検討⑧ 第12回 結論検討①：結論の正当性 第13回 結論検討②：残された課題 第14回 結論検討③：今後の展望 第15回 総括討議
評価方法・基準	: 修士論文の内容による。
教 材 な ど	: 教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第7版）、中央経済社、2014年。
備 考	:

■ BB118

科 目 名	: 財務会計特論
担 当 者	: 行待 三輪
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 財務会計について会計理論と会計処理の両面から総合的かつ体系的な理解を目標とする。また実在の企業ケースを見ながら新しい会計基準がどのように企業財務や企業行動に反映されるかも確認する。
授業内容・方法	: テキストの熟読理解および実在の企業ケースを検討しながらの討論
授 業 計 画	: 第1回 現代の企業会計 第2回 企業会計の本質とフレームワーク 第3回 会計制度の論理と体系 第4回 企業のディスクロージャー 第5回 損益計算書のパラダイム 第6回 経営パフォーマンスの測定と表示 第7回 貸借対照表のパラダイム 第8回 資産の会計 第9回 持分の会計 第10回 金融商品の会計 第11回 従業員給付の会計 第12回 連結グループの会計 第13回 企業結合・事業分離等の会計 第14回 グローバリゼーションの会計 第15回 戦略的企業評価に向けて
評価方法・基準	: 出席 30%、講義における発言等の授業態度 30%、レポート 40%を合わせて総合的に評価
教 材 な ど	: 教科書：伊藤邦雄著 「ゼミナール現代会計入門」 日本経済新聞出版社 (特論開始時点の最新版を指定します。) 参考書：永野則雄著 「ケースで学ぶ財務会計—新聞記事のケースを通して財務会計の基礎を学ぶ」 (第6版) 白桃書房
備 考	: 日経新聞等の経済・企業に関するニュースにも関心を持ち、講義内容と実務の関連に問題意識を持ってほしい。テキストの内容は少し難しいかもしれませんが、会計制度が実際の企業活動や財務内容にどのように反映されていくのか企業ケースを検討することで、机上の理論だけではなく「生きた会計」を学んでほしいと思います。

■ BB119

科 目 名	: 財務会計特論演習 I
担 当 者	: 行待 三輪
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 修士論文を書くための基礎的知識を身に着けると同時に、修士論文のテーマとして取り上げるべき興味深いテーマを各自で複数でもよいので探し出してもらうことを目標とします。
授業内容・方法	: 演習形式で授業を行います。財務会計に関する基礎的な文献および雑誌論文を輪読する形で発表を行ってもらい、各自で修士論文のテーマの絞り込みを行います。
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 会計情報の役割 第3回 会計制度と社会 第4回 会計の仕組み 第5回 貸借対照表 第6回 在庫の会計 第7回 生産設備の会計 第8回 金融資産の会計 第9回 負債と資本の会計 第10回 損益計算書 第11回 営業活動の会計 第12回 儲かる仕組みの分析 第13回 利益構造の分析 第14回 経営管理と会計 第15回 各自の論文テーマに関連する論文記事の輪読
評価方法・基準	: 演習内での出席状況、報告内容、発言、修士論文につながるテーマ内容をもとに総合的な評価を行います。
教 材 な ど	: 演習内で各自相談の上決定します。初回のオリエンテーションで決定。
備 考	: 研究は積極的かつ自発的に行うものです。新聞や雑誌等で絶えず最新の情報を入手することと、活発な議論ができる人を求めます。

■ BB120

科 目 名	: 財務会計特論演習Ⅱ
担 当 者	: 行待 三輪
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 財務会計特論Ⅰで学習した知識に基づいて財務会計分野についてもう少し深い知識習得を行うと同時に、修士論文のテーマについて最終的に1つに絞り込んでもらうことを目標とします。
授業内容・方法	: 演習形式で授業を行います。財務会計に関する文献および雑誌論文を輪読する形で発表を行うと同時に、修士論文のテーマの絞り込みを行います。
授 業 計 画	: - 第1回 財務会計の意義 - 第2回 財務会計の基礎的前提と概念フレームワーク - 第3回 財務会計の処理プロセスとそのメカニズム - 第4回 財務会計のフレームワーク - 第5回 財務会計の基礎理論 - 第6回 会計基準と企業会計原則 - 第7回 財務状況の計算と貸借対照表 - 第8回 資産の意義と評価 - 第9回 現金・預金の会計と報告 - 第10回 金銭債権の会計と報告 - 第11回 有価証券の会計と報告 - 第12回 棚卸資産の会計と報告 - 第13回 有形資産の会計と報告 - 第14回 無形資産の会計と報告 - 第15回 繰延資産の会計と報告
評価方法・基準	: 演習内での出席状況、報告内容、発言、修士論文の内容をもとに総合的な評価を行います。
教 材 な ど	: 演習内で各自相談の上決定します。
備 考	: 研究は積極的かつ自発的に行うものですので、新聞や雑誌等で絶えず最新の情報を入手すること、そして活発な議論を期待しています。

■ BB121

科 目 名	： 財務会計特論演習Ⅲ
担 当 者	： 行待 三輪
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 2年
開 講 期 間	： 春学期
授 業 目 標	： 財務会計特論演習Ⅱで決定した修士論文のテーマに基づき、論文の作成指導を行います。演習終了時点で、修士論文の具体的内容について絞り込みができるところまでを目標とします。
授業内容・方法	： 演習形式で授業を行います。個人の論文の進捗度に応じて論文の執筆・発表を行ってもらいます。
授 業 計 画	： - 第1回 現代の企業会計 - 第2回 企業会計の本質とフレームワーク - 第3回 会計制度の論理と体系 - 第4回 企業のディスクロージャー - 第5回 損益計算書のパラダイム - 第6回 経営パフォーマンスの測定と表示 - 第7回 貸借対照表のパラダイム - 第8回 資産の会計 - 第9回 持分の会計 - 第10回 金融商品の会計 - 第11回 従業員給付の会計 - 第12回 連結グループの会計 - 第13回 企業結合・事業分離等の会計 - 第14回 グローバリゼーションの会計 - 第15回 戦略的企業評価に向けて
評価方法・基準	： 演習内での出席状況、報告内容、発言、修士論文の内容をもとに総合的な評価を行います。
教 材 な ど	： 各自の論文テーマに応じて指定します。
備 考	： 研究は積極的かつ自発的に行うものですので、各自の努力が必要となります。こちらでテーマにあわせた形の指導は行いますが、積極的な議論を求めます。

■ BB122

科 目 名	:	財務会計特論演習Ⅳ
担 当 者	:	行待 三輪
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	各自の修士論文のテーマに応じて、最終的に論文を完成させるところまでを目標とします。
授業内容・方法	:	演習形式で授業を行います。個人の進捗度に応じて論文の執筆・発表を行ってもらいます。
授 業 計 画	:	第1回 財務会計の機能と制度 第2回 利益計算の仕組み 第3回 会計理論と会計基準 第4回 利益測定と資産評価の基礎概念 第5回 現金預金と有価証券 第6回 売上高と売上債権 第7回 棚卸資産と売上原価 第8回 有形固定資産と減価償却 第9回 無形固定資産と繰延資産 第10回 負債 第11回 株主資本と純資産 第12回 財務諸表の作成と公開 第13回 連結財務諸表 第14回 外貨建取引等の換算 第15回 完成論文の発表および確認
評価方法・基準	:	演習内での出席状況、報告内容、発言、修士論文の内容をもとに総合的な評価を行います。
教 材 な ど	:	各自の修士論文のテーマに合わせて指定します。
備 考	:	研究は積極的かつ自発的に行うものです。積極的な参加と活発な議論を求めます。

■ BB123

科 目 名	: 管理会計特論
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 新しい製造環境のもとでの利益管理、コスト・マネジメントについて検討する。
授業内容・方法	: わが国のリーディング産業ともいべき自動車工業の主要企業を中心にして、グループ ないし全社的な戦略的意思決定・方針に基づく利益管理、新製品開発に関連する原価企 画、および製造現場でのコスト・コントロールである原価維持・原価改善について考察 していく。
授 業 計 画	: 第1回 財務会計目的の原価計算 1 第2回 財務会計目的の原価計算 2 第3回 トヨタ自動車の予算管理 第4回 トヨタ自動車の原価改善 第5回 労務費・材料費の改善 第6回 トヨタ自動車の原価管理 第7回 トヨタ自動車の原価企画 第8回 原価企画のプロセス 第9回 設備投資の経済性計算 第10回 工場プロフィットセンター化 第11回 自動車の費目別原価構成と原価分類 第12回 自動車企業の原価計算の方法 第13回 自動車企業の責任会計制度 第14回 小レポートの報告・質疑応答 第15回 小レポートの報告・質疑応答
評価方法・基準	: 講義への参加度合い 30%、講義における発言・理解度 40%、小レポート(各自・課題につ いてまとめたもの)の報告・質疑応答 30%
教 材 な ど	: 教材を配付する。
備 考	:

■ BB124

科 目 名	: 管理会計特論演習 I
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 管理会計の諸問題についての基礎知識を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 大学院レベルの管理会計についての諸論文を輪読する。受講者は論文の内容について発表する。そして内容について討議する。
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 新製品開発と原価企画 1 第 3 回 新製品開発と原価企画 2 第 4 回 新製品開発と原価企画 3 第 5 回 新製品開発と原価企画 4 第 6 回 組織成員の業績管理と会計 1 第 7 回 組織成員の業績管理と会計 2 第 8 回 組織成員の業績管理と会計 3 第 9 回 組織成員の業績管理と会計 4 第 10 回 価格決定と会計 1 第 11 回 価格決定と会計 2 第 12 回 価格決定と会計 3 第 13 回 事業部制・カンパニー制と会計 1 第 14 回 事業部制・カンパニー制と会計 2 第 15 回 事業部制・カンパニー制と会計 3
評価方法・基準	: 平常点 50%、発表内容 50%
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB125

科 目 名	: 管理会計特論演習Ⅱ
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 管理会計の諸問題についての基礎知識を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 大学院レベルの管理会計についての諸論文を輪読する。受講者は論文の内容について発表する。そして内容について討議する。
授 業 計 画	第1回 イン트로ダクション 第2回 原価低減1 第3回 原価低減2 第4回 原価低減3 第5回 セグメント管理会計1 第6回 セグメント管理会計2 第7回 グループ経営と会計1 第8回 グループ経営と会計2 第9回 グループ経営と会計3 第10回 ライフサイクル・コストニング1 第11回 ライフサイクル・コストニング2 第12回 ライフサイクル・コストニング3 第13回 ABC(Activity-Based Costing) 1 第14回 ABC(Activity-Based Costing) 2 第15回 ABC(Activity-Based Costing) 3
評価方法・基準	: 平常点 50%、発表内容 50%
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB126

科 目 名	: 管理会計特論演習Ⅲ
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 受講生は管理会計に関する研究領域のなかから研究テーマを決定し、修士論文の作成をめざして研究する。
授業内容・方法	: 受講生は、管理会計における諸問題のなかから研究課題を選択し、研究テーマに沿った詳細な文献サーベイとデータ収集を行い、その要点を整理してプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して学内報告会への準備を行う。レポートを作成し提出する。
授 業 計 画	: - 第1回 イントロダクション - 第2回 課題文献の講読1 - 第3回 課題文献の講読2 - 第4回 課題文献の講読3 - 第5回 課題文献の講読4 - 第6回 課題文献の講読5 - 第7回 課題文献の講読6 - 第8回 中間報告 - 第9回 最新の課題文献の研究1 - 第10回 最新の課題文献の研究2 - 第11回 最新の課題文献の研究3 - 第12回 最新の課題文献の研究4 - 第13回 最新の課題文献の研究5 - 第14回 最新の課題文献の研究6 - 第15回 最終報告
評価方法・基準	: 発言・理解度・考察力 40%、レポート 60%
教 材 な ど	: 適宜指示する。
備 考	:

■ BB127

科 目 名	: 管理会計特論演習Ⅳ
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 受講生が選択した管理会計における研究テーマに沿って修士論文を作成する。
授業内容・方法	: 研究テーマについての詳細な報告とオリジナルな修士論文の発表が求められる。
授 業 計 画	: 第1回 イン트로ダクション
	: 第2回 研究課題の報告1
	: 第3回 研究課題の報告2
	: 第4回 研究課題の報告3
	: 第5回 研究指導と報告1
	: 第6回 研究指導と報告2
	: 第7回 研究指導と報告3
	: 第8回 中間報告1
	: 第9回 中間報告2
	: 第10回 論文準備1
	: 第11回 論文準備2
	: 第12回 論文準備3
	: 第13回 最終報告1
	: 第14回 最終報告2
	: 第15回 最終報告3
評価方法・基準	: 提出された論文の内容と報告・口頭試問により評価する。
教 材 な ど	: 研究の進捗状況に応じて指示する。
備 考	:

■ BB128

科 目 名	: 原価管理特論
担 当 者	: 近藤 隆史
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 経済学・心理学をベースにしながら、近年の原価管理を含む管理会計手法の知識の体系的な獲得を主な目標とする。
授業内容・方法	: 受講生には毎回のテーマについてレジュメを作成し、報告してもらい、それに基づいてディスカッション、質疑応答によって講義を進める。また、教科書の他にも、必要に応じて、参考図書を指示し、学術的なペーパー（英語、日本語両方）も取り上げながら、原価管理の研究動向についても考察する。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス：出席により評価 第2回 組織の経済学の基礎：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第3回 組織デザインと管理会計システムⅠ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第4回 組織デザインと管理会計システムⅡ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第5回 インセンティブ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第6回 報酬システムと動機付け：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第7回 組織の進化論的アプローチと管理会計システム（ルーチン）：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第8回 組織心理学の基礎：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第9回 ワーク・モチベーションと管理会計システム：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第10回 ワーク・モチベーションと管理会計システムⅡ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第11回 集団・チームワークと管理会計システムⅠ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第12回 集団・チームワークと管理会計システムⅡ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第13回 リーダーシップと管理会計システムⅠ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第14回 リーダーシップと管理会計システムⅡ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第15回 講義のまとめ：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価
評価方法・基準	: 出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価する。
教 材 な ど	教科書：浅田孝幸ほか『管理会計・入門』第3版(有斐閣アルマ, 2011)。 参考書：スィッツェ ダウマ, ヘイン スクルーダー『組織の経済学入門』第3版（文眞堂、2007） 山口裕幸ほか『産業・組織心理学』（有斐閣アルマ, 2006）。
備 考	:

■ BB129

科 目 名	: 原価管理特論演習 I
担 当 者	: 近藤 隆史
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 原価管理の研究領域に関する基本的な知識を蓄積する。
授業内容・方法	: 原価管理または管理会計の領域に関する概念、理論、トピックスに関して、大学院レベルのテキストを輪読する。
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション：出席により評価 第 2 回 原価管理/管理会計のフレームワーク：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 3 回 管理会計の歴史：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 4 回 原価計算制度と原価情報：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 5 回 ABC/ABM と原価情報：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 6 回 総合的会計情報システムにおける管理会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 7 回 全社戦略のための管理会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 8 回 事業戦略のための管理会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 9 回 製品開発のための管理会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 10 回 短期利益計画：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 11 回 予算管理：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 12 回 生産管理会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 13 回 事業部制会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 14 回 研究・開発活動のための管理会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第 15 回 マーケティングのための管理会計：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価
評価方法・基準	: 出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価する。
教 材 な ど	: 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子（2011）『管理会計・入門第 3 版』有斐閣アルマ。
備 考	:

■ BB130

科 目 名	: 原価管理特論演習Ⅱ
担 当 者	: 近藤 隆史
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 原価管理の研究領域に関する最近の動向、理論や分析結果に関するトピックスについて、代表的な学術論文を通じて知識を深めていく。
授業内容・方法	: 原価管理特論演習Ⅰに引き続き、原価管理または管理会計の領域に関する理論的・実証的な学術論文（英語論文を含む）を精読し、報告・ディスカッションを行う。
授 業 計 画	第1回 インTRODakション：出席により評価 第2回 原価管理/管理会計の基礎：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第3回 マネジメント・コントロール研究1：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第4回 マネジメント・コントロール研究2：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第5回 マネジメント・コントロール研究3：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第6回 戦略・組織・管理会計の相互関係1：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第7回 戦略・組織・管理会計の相互関係2：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第8回 戦略・組織・管理会計の相互関係3：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第9回 原価管理手法1：標準原価計算：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第10回 原価管理手法2：原価企画：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第11回 原価管理手法3：活動基準原価計算：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第12回 原価管理手法4：制約理論：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第13回 原価管理手法5：ミニプロフィットセンター：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第14回 原価管理手法6：BSC：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第15回 原価管理手法7：品質原価計算：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価
評価方法・基準	: 出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価する。
教 材 な ど	: 進捗に応じて適宜指定する。
備 考	:

■ BB131

科 目 名	: 原価管理特論演習Ⅲ
担 当 者	: 近藤 隆史
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 原価管理の研究領域に関する修士論文テーマを決定し、論文を作成する上で必要な文献サーベイが行えることを目標とする。
授業内容・方法	: 原価管理または管理会計の領域の論文（英語論文を含む）を輪読し、各論文に関する目的、内容、結果/結論、研究上の位置づけについて総合的に理解した上でのレジュメの作成と報告が求められる。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション：出席により評価 第2回 原価管理/管理会計に関する基礎的文献のレビュー1：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第3回 原価管理/管理会計に関する基礎的文献のレビュー2：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第4回 原価管理/管理会計に関する基礎的文献のレビュー3：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第5回 原価管理/管理会計に関する基礎的文献のレビュー4：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第6回 原価管理/管理会計に関する基礎的文献のレビュー5：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第7回 中間報告：報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第8回 原価管理/管理会計に関する研究論文のレビュー1：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第9回 原価管理/管理会計に関する研究論文のレビュー2：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第10回 原価管理/管理会計に関する研究論文のレビュー3：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第11回 原価管理/管理会計に関する研究論文のレビュー4：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第12回 原価管理/管理会計に関する研究論文のレビュー5：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第13回 原価管理/管理会計に関する研究論文のレビュー6：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第14回 原価管理/管理会計に関する研究論文のレビュー7：レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第15回 最終報告：報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価
評価方法・基準	: 出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価する。
教 材 な ど	: 進捗に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB132

科 目 名	: 原価管理特論演習Ⅳ
担 当 者	: 近藤 隆史
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 原価管理の研究領域の修士論文を作成することを目的とする。
授業内容・方法	: 原価管理（または管理会計）に関する研究テーマに関する研究成果を修士論文としてとりまとめ、発表することが求められる。
授 業 計 画	第1回 インTRODクシヨン：出席により評価 第2回 研究課題に関する報告1：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第3回 研究課題に関する報告2：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第4回 研究指導1：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第5回 研究指導2：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第6回 研究指導3：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第7回 中間報告1：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第8回 中間報告2：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第9回 研究指導4：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第10回 研究指導5：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第11回 論文作成準備1：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第12回 論文作成準備2：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第13回 論文作成準備3：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第14回 最終報告1：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価 第15回 最終報告2：出席、レジュメの作成、報告、ディスカッションへのコミットによって総合的に評価
評価方法・基準	: 出席、提出された論文の内容およびプレゼンテーション、口頭試問により総合的に評価する。
教 材 な ど	: 進捗に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB133

科 目 名	: 国際会計特論
担 当 者	: 吉川 了平
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 国際会計基準(IFRS)の概要把握とその基本的性格の考察
授業内容・方法	: 演習形式でおこないます。
授 業 計 画	: 第 1 回 IFRS 総論 第 2 回 財務諸表の表示 第 3 回 会計方針と連結 第 4 回 外貨建取引と貸付金・債権 第 5 回 棚卸資産と有価証券 第 6 回 有形固定資産 第 7 回 無形資産 第 8 回 リース、資産の減損 第 9 回 金融商品 第 10 回 税効果会計と従業員給付 第 11 回 引当金、偶発債務、偶発資産 第 12 回 収益 第 13 回 企業統合 第 14 回 後発事象 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点 40%、報告 30%およびレポート 30%を総合的に評価します。
教 材 な ど	: 教科書：橋本尚、山田善隆『IFRS 会計学基本テキスト』（第3版）中央経済社、2012 年 を利用予定です。改訂版が出れば、改訂版を利用します。 また、IFRS の講義と並行して、大津広一『英語の決算書を読むスキル』ダイヤ モンド社、2012 年の学習を進めたいと考えています。
備 考	: わが国企業会計原則をはじめとする日本基準や会計実務、税務実務との相違点に着目し つつ、IFRS の全体像やその基本的性格を自分なりに掌握できるよう研究会を進めていき ましょう。あわせて、英語の決算書を読むスキルを身につけていきましょう。

■BB134

科 目 名	: 税務会計特論
担 当 者	: 中田 謙司
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 税務会計・税法理論の理解と応用
授業内容・方法	: 税務会計の計算、理論を書籍や論文を通じて学習する。外国語文献も使用する。
授 業 計 画	: 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 法人税とは 第 3 回 法人税の計算過程 第 4 回 益金 第 5 回 損金 第 6 回 所得税とは 第 7 回 所得税の計算過程 第 8 回 各種所得の種類 第 9 回 所得控除、税額控除 第 10 回 確定申告 第 11 回 消費税とは 第 12 回 相続税とは 第 13 回 財政学と税務会計 第 14 回 法律学と税務会計 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 50 点、提出物 50 点
教 材 な ど	: その都度指示する。租税法規集、通達集は常時使用。
備 考	: 外国語文献も積極的に使用。

■ BB135

科 目 名	: 会計監査特論
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 多岐に渡る監査の領域の中から、本講義では会計監査、特に企業が作成した財務諸表を監査の対象とする、財務諸表監査について講義を行う。財務諸表監査の概要を理解することが本授業のテーマである。
授業内容・方法	: 基本的なテキストを利用して、監査の目的、監査主体、監査の対象、監査の基準などについて理論と実務に配慮しつつ幅広く講義することにより、学生諸君が財務諸表監査を理解する手助けとしたい。
授 業 計 画	: 第 1 回 はじめに、財務諸表と会計士監査 第 2 回 監査基準 第 3 回 会計監査人(1) 第 4 回 会計監査人(2) 第 5 回 リスク・アプローチ監査(1) 第 6 回 リスク・アプローチ監査(2) 第 7 回 監査要点と監査証拠 第 8 回 監査手続と試査、監査調書 第 9 回 監査報告書 第 10 回 継続企業の前提に関する監査 第 11 回 追記情報 第 12 回 連結財務諸表監査 第 13 回 中間監査 第 14 回 会社法監査 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 授業態度(出席含)30%、題材への批判的考察力 30%、分析能力 20%、説得力 20%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	: なし

■ BB136

科 目 名	: 会計監査特論演習 I
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 修士論文で取り扱う研究テーマを決定し、論文の内容・構成について検討する。
授業内容・方法	: 研究テーマを決定するために講読する文献の指示を行い、その内容について学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深める。
授 業 計 画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 基本文献の講読 1 第 3 回 基本文献の講読 2 第 4 回 基本文献の講読 3 第 5 回 基本文献の講読 4 第 6 回 基本文献の講読 5 第 7 回 参考文献の講読 1 第 8 回 参考文献の講読 2 第 9 回 参考文献の講読 3 第 10 回 参考文献の講読 4 第 11 回 参考文献の講読 5 第 12 回 参考文献の講読 6 第 13 回 参考文献の講読 7 第 14 回 参考文献の講読 8 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	1. 授業時における発言・発表内容 : 50% 2. 修士論文作成準備進捗状況 : 50%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	:

■ BB137

科 目 名	: 会計監査特論演習Ⅱ
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 修士論文で取り扱う研究テーマについて先行研究を丹念にサーベイし、修士論文のオリジナリティに配慮し、研究発表の準備を行う。
授業内容・方法	: サーベイすべき先行研究文献を指示し、学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深める。
授 業 計 画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 先行研究文献の講読 1 第 3 回 先行研究文献の講読 2 第 4 回 先行研究文献の講読 3 第 5 回 先行研究文献の講読 4 第 6 回 先行研究文献の講読 5 第 7 回 先行研究文献の講読 6 第 8 回 先行研究文献の講読 7 第 9 回 先行研究文献の講読 8 第 10 回 先行研究文献の講読 9 第 11 回 先行研究文献の講読 1 0 第 12 回 先行研究文献の講読 1 1 第 13 回 先行研究文献の講読 1 2 第 14 回 先行研究文献の講読 1 3 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	1. 授業時における発言・発表内容：50% 2. 修士論文作成準備進捗状況：50%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	:

■ BB138

科 目 名	: 会計監査特論演習Ⅲ
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 修士論文の先行研究を丹念にサーベイし、修士論文のオリジナリティに配慮し、中間報告に向けた研究発表の準備を行う。
授業内容・方法	: 会計監査特論演習Ⅱに引き続き、サーベイすべき先行研究を指示し、その内容について学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深める。その後は、9月に予定される中間報告に向けて報告書の準備、作成を指導する。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 先行研究文献の講読1 第3回 先行研究文献の講読2 第4回 先行研究文献の講読3 第5回 先行研究文献の講読4 第6回 先行研究文献の講読5 第7回 中間まとめ・中間報告概要の策定 第8回 中間報告準備1 第9回 中間報告準備2 第10回 中間報告準備3 第11回 中間報告準備4 第12回 中間報告準備5 第13回 中間報告作成1 第14回 中間報告作成2 第15回 中間報告作成3
評価方法・基準	1. 授業時における発言・発表内容：50% 2. 提出した中間報告資料：50%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	:

■ BB139

科 目 名	: 会計監査特論演習Ⅳ
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 中間報告での指導を参考にして、修士論文作成に取り組み完成させる。
授業内容・方法	: これまでの修士論文執筆に関する指導及び中間報告において指摘された事柄への対応を中心に、学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深め、修士論文執筆を進める。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 中間報告の確認・方針決定 第3回 研究指導1 第4回 研究指導2 第5回 研究指導3 第6回 研究指導4 第7回 修士論文作成1 第8回 修士論文作成2 第9回 修士論文作成3 第10回 修士論文作成4 第11回 修士論文作成5 第12回 最終報告1 第13回 最終報告2 第14回 最終報告3 第15回 まとめ
評価方法・基準	1. 授業時における発言・発表内容：50% 2. 提出した修士論文：50%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	:

■ BB140

科 目 名	財務管理特論
担 当 者	中井 透
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	1 年
開 講 期 間	春学期 秋学期
授 業 目 標	中小企業経営及びM&A戦略について、経営財務論の視点からの評価、分析ができるようになることを到達目標に置いている。
授業内容・方法	中小企業経営及びM&A戦略における企業評価と株式価値の関係を主な研究対象とする。具体的には、アメリカ中小企業のスタートアップ及びM&Aについて、Journal of Finance, Journal of Small Business Management などの雑誌から受講者各人が適当な論文を複数選び出し、その内容の要約と自身の意見を発表してもらう。発表者以外の受講者も当該論文は事前入手が求められるので、発表をもとにクラス全員でディスカッションを行う。財務管理について、学部レベルでの知識は最低限備えておくこと。
授 業 計 画	第1回 大学院でファイナンスを学ぶことについての問題意識の明確化 第2回 中小企業経営におけるファイナンスの役割 第3回 資金調達 第4回 キャッシュフロー管理 第5回 運転資本管理 第6回 財務諸表分析 第7回 利益計画 第8回 投資評価 第9回 最適資本構成 第10回 英文ジャーナルの輪読と相互討議 1 第11回 英文ジャーナルの輪読と相互討議 2 第12回 英文ジャーナルの輪読と相互討議 3 第13回 英文ジャーナルの輪読と相互討議 4 第14回 英文ジャーナルの輪読と相互討議 5 第15回 英文ジャーナルの輪読と相互討議 6
評価方法・基準	発表者は英語論文の理解度と発表内容の独自性に対して、その他の受講者は当該論文の事前予習とディスカッションへの参加・貢献度に対して、それぞれ平常点として評価する。課題の不履行、無断遅刻・欠席者は、以降の参加を認めない。
教 材 な ど	教科書：中井透『物語でわかるベンチャーファイナンス入門』中央経済社、2013 年。 資料：受講者各自で入手した英文ジャーナル。
備 考	

■ BB141

科 目 名	: 財務管理特論演習 I
担 当 者	: 中井 透
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: コーポレート・ファイナンス及びアントレプレナー・ファイナンスの基礎知識を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 大学院レベルの英文テキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表資料をもとに報告し、指導教員と相互討議することで授業を進めていく。
授 業 計 画	第 1 回 ファイナンスを研究対象とすることについての問題意識の明確化 1 第 2 回 ファイナンスを研究対象とすることについての問題意識の明確化 2 第 3 回 起業家とビジネスプラン 1 第 4 回 起業家とビジネスプラン 2 第 5 回 ベンチャー戦略とファイナンス 1 第 6 回 ベンチャー戦略とファイナンス 2 第 7 回 事業計画シミュレーションにおけるファイナンスの役割 1 第 8 回 事業計画シミュレーションにおけるファイナンスの役割 2 第 9 回 財務計画とキャッシュフロー 1 第 10 回 財務計画とキャッシュフロー 2 第 11 回 財務計画と運転資本 1 第 12 回 財務計画と運転資本 2 第 13 回 資金調達 1 第 14 回 資金調達 2 第 15 回 資金調達 3
評価方法・基準	: 発表資料及び報告内容 40%、相互討議及び質疑応答の評価 60%。出席は当然なので評価の対象としない。
教 材 な ど	教科書: Smith & Smith, <i>Entrepreneurial Finance</i> , Wiley, 2000. 教科書: 中井透『物語でわかるベンチャーファイナンス入門』中央経済社、2013 年。 教科書: 中井透『経営財務計算論』中央経済社、1996 年。 参考書: Gauhan, <i>Mergers, Acquisitions and Corporate Restructuring, 4th ed.</i> , Wiley, 2007.
備 考	:

■ BB142

科 目 名	: 財務管理特論演習Ⅱ
担 当 者	: 中井 透
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: コーポレート・ファイナンス及びアントレプレナー・ファイナンスの基礎知識を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 財務管理特論演習Ⅰに引き続き、大学院レベルの英文テキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表資料をもとに報告し、指導教員と相互討議することで授業を進めていく。
授 業 計 画	第1回 企業価値評価の理論1 第2回 企業価値評価の理論2 第3回 企業価値評価の理論3 第4回 企業価値評価の理論4 第5回 投資決定の理論1 第6回 投資決定の理論2 第7回 投資決定の理論3 第8回 投資決定の理論4 第9回 株式市場とIPO1 第10回 株式市場とIPO2 第11回 株式市場とIPO3 第12回 M&Aとバイアウト1 第13回 M&Aとバイアウト2 第14回 M&Aとバイアウト3 第15回 M&Aとバイアウト4
評価方法・基準	: 発表資料及び報告内容 40%、相互討議及び質疑応答の評価 60%。出席は当然なので評価の対象としない。
教 材 な ど	教科書: Smith & Smith, <i>Entrepreneurial Finance</i> , Wiley, 2000. 教科書: 中井透『物語でわかるベンチャーファイナンス入門』中央経済社、2013 年。 教科書: 中井透『経営財務計算論』中央経済社、1996 年。 参考書: Gauhan, <i>Mergers, Acquisitions and Corporate Restructuring, 4th ed.</i> , Wiley, 2007.
備 考	:

■ BB143

科 目 名	: 財務管理特論演習Ⅲ
担 当 者	: 中井 透
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 基本的な問題意識がどこにあるのかについて徹底的に議論することでリサーチクエスチョンを明確化し、修士論文の研究テーマと方法論を決定する。先行研究のレビューとその整理を行う。最終的に修士論文のプロポーザル草稿を完成させる。
授業内容・方法	: 修士論文テーマに関する先行研究をレビューしてその内容を発表するとともに、各自の研究計画に沿って節目で研究成果の進捗状況を報告する。
授 業 計 画	: 第1回 リサーチクエスチョンの明確化1 第2回 リサーチクエスチョンの明確化2 第3回 リサーチクエスチョンの明確化3 第4回 わが国研究者の先行研究レビュー1 第5回 わが国研究者の先行研究レビュー2 第6回 わが国研究者の先行研究レビュー3 第7回 研究成果の進捗状況報告1 第8回 英文ジャーナルでの先行研究レビュー1 第9回 英文ジャーナルでの先行研究レビュー2 第10回 英文ジャーナルでの先行研究レビュー3 第11回 研究成果の進捗状況報告2 第12回 英文ジャーナルでの先行研究レビュー4 第13回 英文ジャーナルでの先行研究レビュー5 第14回 英文ジャーナルでの先行研究レビュー6 第15回 修士論文プロポーザルの提出と口頭試問
評価方法・基準	: 発表資料及び報告内容 40%、相互討議及び質疑応答の評価 60%。出席は当然なので評価の対象としない。
教 材 な ど	: 研究テーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB144

科 目 名	: 財務管理特論演習Ⅳ
担 当 者	: 中井 透
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 修士論文を完成させることを目標とする。
授業内容・方法	: 夏季休暇中に修正を施してきたプロポーザルを対象として研究指導を行い、独自性の高い修士論文の完成に向けて助言を行う。
授 業 計 画	第1回 修正済プロポーザルの検討1 第2回 修正済プロポーザルの検討2 第3回 研究指導1 第4回 研究指導2 第5回 研究指導3 第6回 研究指導4 第7回 中間報告1 第8回 研究指導5 第9回 研究指導6 第10回 研究指導7 第11回 中間報告2 第12回 最終完成に向けた準備1 第13回 最終完成に向けた準備2 第14回 最終完成に向けた準備3 第15回 最終試験及び口頭試問
評価方法・基準	: 修士論文の内容、最終試験及び口頭試問を総合的に評価する。出席は当然なので評価の対象としない。
教 材 な ど	: 研究テーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB145

科 目 名	財務分析特論
担 当 者	石光 裕
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	1 年
開 講 期 間	春学期 秋学期
授 業 目 標	本講義では、企業価値評価のなかでもとくに財務数値を利用した方法について検討する。実際のデータを用いた分析を行うことによって、受講者には財務情報の入手から分析に至るまでの一連の手続きを習得してもらうことを目的としている。
授業内容・方法	受講者には毎週テキストの概要と自身で決定した担当企業について報告を行ってもらい、それに基づいてディスカッションを行う。本講義では以下の 3 つの段階にしたがって講義を行い、最後に受講者による企業分析をプレゼンテーションしてもらう。 ①財務諸表の仕組み 分析に用いる財務諸表がどのように作成されているかを理解する。 ②財務指標 ROE に代表されるような財務指標の算定方法およびその解釈について理解することを目的としている。 ③証券投資への応用 財務分析の利用方法の 1 つとして証券投資への応用を検討する。ここでは財務諸表分析の知識だけではなくコーポレート・ファイナンスについての基礎的な理解も必要となる。
授 業 計 画	第 1 回 財務諸表の役割と仕組み 第 2 回 財務諸表の入手方法 第 3 回 貸借対照表 第 4 回 損益計算書 第 5 回 キャッシュ・フロー計算書 第 6 回 会計方針の注記 第 7 回 収益性の分析（1） 第 8 回 収益性の分析（2） 第 9 回 生産性の分析 第 10 回 安全性の分析 第 11 回 不確実性によるリスクの分析 第 12 回 成長性の分析 第 13 回 利益業績と株価 第 14 回 企業分析レポート報告（1） 第 15 回 企業分析レポート報告（2）
評価方法・基準	毎週の報告・議論への参加状況(40%)、レポートの提出(60%)によって評価します。
教 材 な ど	教科書 桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。入手可能な最新版 参考書 Penman、S.H. 著、杉本徳栄・梶浦昭友・井上達夫訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005 年。 伊藤邦雄『ゼミナール企業価値評価』日本経済新聞社、2007 年。 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社、2005 年。 砂川伸幸・杉浦秀徳・川北英隆『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞社、2008 年。
備 考	日商簿記 2 級程度の理解を前提としていますので、各自準備をしておいてください。

■ BB146

科 目 名	財務分析特論演習 I
担 当 者	石光 裕
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	1 年
開 講 期 間	春学期
授 業 目 標	本演習では、論文テーマ設定の準備として、財務会計の分野でどのような研究成果が蓄積されているのかを概観する。
授業内容・方法	これまでの研究成果を網羅的に取り上げた著書を輪読することによって講義を進める。受講生には、担当箇所についての報告資料を作成してもらい、当日は資料をもとに討論を行う。
授 業 計 画	第 1 回 分析のフレームワーク 第 2 回 情報の非対称性と財務会計 第 3 回 情報提供機能（理論①） 第 4 回 情報提供機能（理論②） 第 5 回 情報提供機能（実証①） 第 6 回 情報提供機能（実証②） 第 7 回 情報提供機能（実証③） 第 8 回 契約支援機能（理論①） 第 9 回 契約支援機能（理論②） 第 10 回 契約支援機能（実証①） 第 11 回 契約支援機能（実証②） 第 12 回 契約支援機能（実証③） 第 13 回 情報提供機能と会計手続き選択 第 14 回 契約支援機能と会計手続き選択① 第 15 回 契約支援機能と会計手続き選択②
評価方法・基準	毎週の報告・議論への参加状況によって評価します。
教 材 な ど	教科書 須田一幸『財務会計の機能』白桃書房、2000 年。
備 考	基礎的な簿記、会計の知識を前提としていますので、各自準備をしておいてください。

■ BB147

科 目 名	: 財務分析特論演習Ⅱ
担 当 者	: 石光 裕
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 本演習では、論文テーマ設定の準備として、企業価値評価の分野でどのような研究成果が蓄積されているのかを概観する。
授業内容・方法	: これまでの研究成果を網羅的に取り上げた著書、論文を輪読することによって講義を進める。受講生には、担当箇所についての報告資料を作成してもらい、当日は資料をもとに討論を行う。
授 業 計 画	第 1 回 市場の効率性と会計情報① 第 2 回 市場の効率性と会計情報② 第 3 回 市場の効率性と会計情報③ 第 4 回 市場の効率性と会計情報④ 第 5 回 会計情報を利用した企業価値評価モデル① 第 6 回 会計情報を利用した企業価値評価モデル② 第 7 回 会計情報を利用した企業価値評価モデル③ 第 8 回 会計情報を利用した企業価値評価モデル④ 第 9 回 会計情報を利用した企業価値評価モデル⑤ 第 10 回 企業価値評価に用いる変数の分析① 第 11 回 企業価値評価に用いる変数の分析② 第 12 回 企業価値評価に用いる変数の分析③ 第 13 回 企業価値評価に用いる変数の分析④ 第 14 回 企業価値評価に用いる変数の分析⑤ 第 15 回 企業価値評価に用いる変数の分析⑥
評価方法・基準	: 毎週の報告・議論への参加状況によって評価します。
教 材 な ど	: 教科書 桜井久勝『企業価値評価の実証分析—モデルと会計情報の有用性検証』中央経済社、2010 年。
備 考	: 基礎的な簿記、会計の知識を前提としていますので、各自準備をしておいてください。

■ BB148

科 目 名	: 財務分析特論演習Ⅲ
担 当 者	: 石光 裕
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 本演習では、修士論文の執筆に向けて、テーマ設定および文献収集について指導を行う。
授業内容・方法	: 演習Ⅰ、Ⅱにおいて概観した先行研究をもとに、修士論文のテーマの検討を行う。具体的には設定されたテーマにもとづき文献収集を行い、報告を行なってもらう。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 基本文献の検討① 第3回 基本文献の検討② 第4回 基本文献の検討③ 第5回 基本文献の検討④ 第6回 基本文献の検討⑤ 第7回 テーマの検討① 第8回 テーマの検討② 第9回 テーマの検討③ 第10回 近年の文献の検討① 第11回 近年の文献の検討② 第12回 近年の文献の検討③ 第13回 近年の文献の検討④ 第14回 テーマの検討④ 第15回 テーマの検討⑤
評価方法・基準	: 毎週の報告・議論への参加状況によって評価します。
教 材 な ど	: 教科書 桜井久勝『企業価値評価の実証分析—モデルと会計情報の有用性検証』中央経済社、2010年。
備 考	: 基礎的な簿記、会計の知識を前提としていますので、各自準備をしておいてください。

■ BB149

科 目 名	: 財務分析特論演習Ⅳ
担 当 者	: 石光 裕
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 本演習では、修士論文の執筆について指導を行う。
授業内容・方法	: 演習Ⅲにおいて決定したテーマにもとづき、研究をすすめてもらう。報告とその検討によって修士論文の内容をブラッシュアップしていく。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 論文の基本方針の検討① 第3回 論文の基本方針の検討② 第4回 論文の基本方針の検討③ 第5回 研究指導① 第6回 研究指導② 第7回 研究指導③ 第8回 中間報告① 第9回 中間報告② 第10回 研究指導④ 第11回 研究指導⑤ 第12回 研究指導⑥ 第13回 最終報告① 第14回 最終報告② 第15回 最終報告③
評価方法・基準	: 毎週の報告・議論への参加状況によって評価します。
教 材 な ど	: 教科書 桜井久勝『企業価値評価の実証分析—モデルと会計情報の有用性検証』中央経済社、2010年。
備 考	: 基礎的な簿記、会計の知識を前提としていますので、各自準備をしておいてください。

■ BB150

科 目 名	: 金融工学特論
担 当 者	: 岩城 秀樹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 具体的な目標は、Harrison and Pliska 流の無裁定価格評価法によるブラック・ショールズ式の導出を理解すること。
授業内容・方法	: デリバティブ（金融派生証券）の価格評価法について講義するとともに必要とされる周辺の数学について解説する。
授 業 計 画	: 第1回 デリバティブとは 第2回 無裁定価格評価法 第3回 1 期間 2 項モデル 第4回 リスク中立化法 第5回 多期間 2 項モデル 第6回 確率と確率過程 第7回 確率積分 第8回 確率微分方程式 第9回 ブラック・ショールズ・モデル 第10回 ブラック・ショールズ式 第11回 アメリカン・オプション 第12回 先渡しと先物 第13回 リスク・ヘッジ 第14回 スポット・レートとフォワード・レート 第15回 金利派生資産
評価方法・基準	: 出席と授業態度:40%、期末レポート:60%
教 材 な ど	: 岩城秀樹『デリバティブー理論と応用ー』 朝倉書店 1998 年
備 考	:

■ BB151

科 目 名	: 金融工学特論演習 I
担 当 者	: 岩城 秀樹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 金融工学の基礎知識を習得すること。
授業内容・方法	: 大学院レベルの金融工学のテキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表し、教員の試問に答えることが求められる。
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 無裁定価格評価法 1 第 3 回 無裁定価格評価法 2 第 4 回 1 期間 2 項モデル 1 第 5 回 1 期間 2 項モデル 2 第 6 回 リスク中立化法 1 第 7 回 リスク中立化法 2 第 8 回 多期間 2 項モデル 1 第 9 回 多期間 2 項モデル 2 第 10 回 確率と確率過程 1 第 11 回 確率と確率過程 2 第 12 回 確率積分 1 第 13 回 確率積分 2 第 14 回 確率微分方程式 1 第 15 回 確率微分方程式 2
評価方法・基準	: 発表の内容および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	岩城秀樹『デリバティブー理論と応用ー』 朝倉書店 1998 年 岩城秀樹『確率解析とファイナンス』 共立出版 2008 年
備 考	:

■ BB152

科 目 名	: 金融工学特論演習Ⅱ
担 当 者	: 岩城 秀樹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 金融工学の基礎知識を習得すること。
授業内容・方法	: 金融工学特論演習Ⅰに引き続き大学院レベルの金融工学のテキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表し、教員の試問に答えることが求められる。
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 ブラック・ショールズ・モデル 1 第 3 回 ブラック・ショールズ・モデル 2 第 4 回 ブラック・ショールズ式 1 第 5 回 ブラック・ショールズ式 2 第 6 回 アメリカン・オプション 1 第 7 回 アメリカン・オプション 2 第 8 回 先渡しと先物 1 第 9 回 先渡しと先物 2 第 10 回 リスク・ヘッジ 1 第 11 回 リスク・ヘッジ 2 第 12 回 スポット・レートとフォワード・レート 1 第 13 回 スポット・レートとフォワード・レート 2 第 14 回 金利派生資産 1 第 15 回 金利派生資産 2
評価方法・基準	: 発表の内容および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	岩城秀樹『デリバティブー理論と応用ー』 朝倉書店 1998 年 岩城秀樹『確率解析とファイナンス』 共立出版 2008 年
備 考	:

■ BB153

科 目 名	: 金融工学特論演習Ⅲ
担 当 者	: 岩城 秀樹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 金融工学の修士論文テーマを決定し、論文を作成する上で必要な文献のサーベイを行なうことを目標とする。
授業内容・方法	: 受講者の研究テーマに関する、基本文献と最新の研究論文を読み、その要点を理解し、発表することが求められる。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 基本文献の講読1 第3回 基本文献の講読2 第4回 基本文献の講読3 第5回 基本文献の講読4 第6回 基本文献の講読5 第7回 基本文献の講読6 第8回 中間報告 第9回 最新論文の研究1 第10回 最新論文の研究2 第11回 最新論文の研究3 第12回 最新論文の研究4 第13回 最新論文の研究5 第14回 最新論文の研究6 第15回 最終報告
評価方法・基準	: 発表の内容および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	: 受講者の研究テーマおよび進展状況に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB154

科 目 名	金融工学特論演習Ⅳ
担 当 者	岩城 秀樹
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	2年
開 講 期 間	秋学期
授 業 目 標	金融工学の修士論文を作成することを目標とする。
授業内容・方法	金融工学の修士論文を作成することを目標とする。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス
	第2回 基本方針に関する報告1
	第3回 基本方針に関する報告2
	第4回 研究指導1
	第5回 研究指導2
	第6回 研究指導3
	第7回 中間報告1
	第8回 中間報告2
	第9回 研究指導4
	第10回 研究指導5
	第11回 研究指導6
	第12回 論文準備1
	第13回 論文準備2
	第14回 最終報告1
	第15回 最終報告2
評価方法・基準	提出された論文の内容および報告（プレゼンテーション）時の口頭試問により評価する。
教 材 な ど	受講者の研究の進捗状況に応じて適宜指示する。
備 考	

■ BB155

科 目 名	: 保険論特論
担 当 者	: 諏澤 吉彦
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 企業や公的機関をはじめとする組織は、さまざまなリスクにさらされている。これらの組織は、リスクに挑戦しつつも、それを適切に管理することをおして、自らの価値を高めるものである。そして、これらのリスクに対処するための手段が、保険を含むリスクマネジメントである。この講義では、組織にとってリスクとは何か、それに対処するためのリスクマネジメントとは何か、そしてそれをどのように実行すべきかについて、とくに「リスクと保険」に焦点をあて、経営学、経済学、ファイナンスおよび統計数理など様々な視点から議論していく。
授業内容・方法	: リスクの種類・特徴・測定方法、リスクマネジメントの体系、ロスファイナンスの種類と機能、リスクコストと企業価値の関係といった「リスクと保険」を理解するうえで不可欠となる知識体系を、関連する書籍・論文の輪読をとおして身につけることから始める。そのうえで、具体的な事例を取り上げ、議論をとおして、論理的に課題を捉え、情報を収集・分析し、それに基づいて検討を行い、結論を導く力を培っていく。
授 業 計 画	: 第1回 導入 ーなぜリスクと保険を学ぶのかー 第2回 リスクの種類と測定 第3回 リスクマネジメントの目的と体系 第4回 リスク・プーリングとリスク分散 第5回 保険会社の所有、財務、業務の構造 第6回 保険規制 第7回 保険料率の構成と決定要素 第8回 個人・組織のリスク回避性とリスクマネジメント 第9回 リスクの保険可能性と法理 第10回 ロスコントロールまたはロスファイナンスの意思決定 第11回 リスク保有または移転の意思決定 第12回 保険またはヘッジの意思決定 第13回 リスクマネジメントと企業価値 第14回 企業のリスクマネジメントに影響を与える税、規制および会計に関する諸要素 第15回 企業リスクマネジメントの実際
評価方法・基準	: 授業における報告・取組み 50%、レポート 50%を合わせて総合的に評価する。
教 材 な ど	: 教科書：米山高生・箸方幹逸監訳（2005）『S・E・ハリントン & G・R・ニーハウス 保険とリスクマネジメント』, 東洋経済新報社 (Harrington, Scott E. and Gregory R. Niehaus (2003), <i>Risk Management and Insurance</i> , 2nd Edition, McGraw-Hill)。 参考書：森平爽一郎・米山高生監訳（2012）『ドハーティ著 統合リスクマネジメント』中央経済社 (Doherty, Neil A. (2000), <i>Integrated Risk Management: Techniques and Strategies for Reducing Risk</i> , McGraw-Hill)。Skipper, Harold D. and W. Jean Kwon (2007), <i>Risk Management and Insurance: Perspectives in a Global Economy</i> , Blackwell Publishing。 その他、講義中に指示する。
備 考	:

■ BB156

科 目 名	: 保険論特論演習 I
担 当 者	: 諏澤 吉彦
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 保険、リスクマネジメントおよびファイナンスに関する理論と実践を学ぶことをとおして、修士論文の研究テーマにつながる問題意識を深めることを目標とする。
授業内容・方法	: 関連する書籍・論文の内容を報告し、議論を行う。
授 業 計 画	: 第 1 回 リスクマネジメントと保険の基礎理論 第 2 回 不確実性のなかでの意思決定 第 3 回 リスクマネジメントと保険の経済分析 第 4 回 現代社会と組織が直面するリスク (1) 第 5 回 現代社会と組織が直面するリスク (2) 第 6 回 現代社会と組織のリスクマネジメント (1) 第 7 回 現代社会と組織のリスクマネジメント (2) 第 8 回 民間金融市場と公的規制 第 9 回 社会保障システムと保険 第 10 回 リスクマネジメントに関わる法的環境 第 11 回 リスクマネジメントに関わる社会的・文化的要素 第 12 回 エンタープライズ・リスクマネジメント 第 13 回 企業活動のグローバル化とリスクマネジメント 第 14 回 金融市場の統合 第 15 回 まとめと問題意識の明確化
評価方法・基準	: 研究への取り組み状況に基づいて評価する。
教 材 な ど	: 参考書: 米山高生・箸方幹逸監訳 (2005) 『S・E・ハリントン & G・R・ニーハウス 保険とリスクマネジメント』, 東洋経済新報社 (Harrington, Scott E. and Gregory R. Niehaus (2003), <i>Risk Management and Insurance</i> , 2nd Edition, McGraw-Hill)。森平爽一郎・米山高生監訳 (2012) 『ドハーティ著 統合リスクマネジメント』中央経済社 (Doherty, Neil A. (2000), <i>Integrated Risk Management: Techniques and Strategies for Reducing Risk</i> , McGraw-Hill)。Skipper, Harold D. and W. Jean Kwon (2007), <i>Risk Management and Insurance: Perspectives in a Global Economy</i> , Blackwell Publishing。 その他、講義中に指示する。
備 考	:

■ BB157

科 目 名	: 保険論特論演習Ⅱ
担 当 者	: 諏澤 吉彦
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅰにおいて深化させた問題意識に基づいて、修士論文の研究テーマとその重要性、分析手法、そして見込まれる成果を盛り込んだ研究計画を策定することを目標とする。
授業内容・方法	: 研究の構想と目的、学術的背景と問題意識、採用する可能性のある分析諸手法とそれにより得られるであろう成果に関して、先行研究を踏まえて記述し、報告し、議論を行う。あわせて、今後の研究スケジュールを決定する。
授 業 計 画	: - 第1回 問題意識の確認 - 第2回 研究テーマの検討 (1): 研究対象の明確化 - 第3回 研究テーマの検討 (2): 研究目的の明確化 - 第4回 先行研究レビュー (1): 関連する主要な学術研究の特定・文献リストの作成 - 第5回 先行研究レビュー (2): 関連する主要な学術研究の分析 - 第6回 先行研究レビュー (3): 従来の学術研究の到達点の分析 - 第7回 先行研究レビュー (4): 従来の学術研究に残された課題の分析 - 第8回 分析手法の検討 (1): 先行研究の採用した分析手法の特定 - 第9回 分析手法の検討 (2): 先行研究の分析手法の比較・分析 - 第10回 分析手法の検討 (3): 先行研究の使用したデータの特定・分析 - 第11回 分析手法の検討 (4): 入手可能なデータの検討 - 第12回 研究スケジュールの検討 (1): 研究スケジュールのアウトラインの検討 - 第13回 研究スケジュールの検討 (2): 研究スケジュールの具体化 - 第14回 研究計画書の作成 (1): 研究目的・分析手法の記述 - 第15回 研究計画書の作成 (2): 見込まれる分析結果と研究の貢献の記述
評価方法・基準	: 研究への取り組み状況に基づいて評価する。
教 材 な ど	: 参考書: 米山高生・箸方幹逸監訳 (2005) 『S・E・ハリントン & G・R・ニーハウス 保険とリスクマネジメント』, 東洋経済新報社 (Harrington, Scott E. and Gregory R. Niehaus (2003), <i>Risk Management and Insurance</i> , 2nd Edition, McGraw-Hill)。森平爽一郎・米山高生監訳 (2012) 『ドハーティ著 統合リスクマネジメント』中央経済社 (Doherty, Neil A. (2000), <i>Integrated Risk Management: Techniques and Strategies for Reducing Risk</i> , McGraw-Hill)。Skipper, Harold D. and W. Jean Kwon (2007), <i>Risk Management and Insurance: Perspectives in a Global Economy</i> , Blackwell Publishing. その他、講義中に指示する。
備 考	:

■ BB158

科 目 名	: 保険論特論演習Ⅲ
担 当 者	: 諏澤 吉彦
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅰ～Ⅱをとおして明確となった研究計画に基づいて、論文構成と各章の内容を決定し、必要なデータを収集し、分析モデルを構築することを目標とする。
授業内容・方法	: 毎回の演習においてこれまでの研究成果と今後の準備状況を報告し、議論を行い、取り組むべき課題を明らかにする。
授 業 計 画	第1回 研究計画の確認と具体化 第2回 論文構成の検討(1): 論文構成の概要の検討 第3回 論文構成の検討(2): 各章の内容の検討 第4回 論文構成の検討(3): 論文全体の論旨の一貫性の確認 第5回 データの収集と分析モデルの構築(1): 使用データの収集 第6回 データの収集と分析モデルの構築(2): データベースの構築 第7回 データの収集と分析モデルの構築(3): 分析モデルの検討 第8回 データの収集と分析モデルの構築(4): 分析モデルの構築 第9回 見込まれる結果とその解釈の検討(1): 予備分析の実行 第10回 見込まれる結果とその解釈の検討(2): 予備分析結果の整理 第11回 見込まれる結果とその解釈の検討(3): 予備分析結果の解釈の記述 第12回 見込まれる結果とその解釈の検討(4): 予備分析結果から得られた知見の整理 第13回 残された課題とその解決方法の検討(1): 予備分析における課題の特定 第14回 残された課題とその解決方法の検討(2): 予備分析の課題の解決方法の検討 第15回 残された課題とその解決方法の検討(3): 予備分析結果のまとめ
評価方法・基準	: 研究への取り組み状況に基づいて評価する。
教 材 な ど	参考書: 米山高生・箸方幹逸監訳(2005)『S・E・ハリントン & G・R・ニーハウス 保険とリスクマネジメント』, 東洋経済新報社(Harrington, Scott E. and Gregory R. Niehaus (2003), <i>Risk Management and Insurance</i> , 2nd Edition, McGraw-Hill)。森平爽一郎・米山高生監訳(2012)『ドハーティ著 統合リスクマネジメント』中央経済社(Doherty, Neil A. (2000), <i>Integrated Risk Management: Techniques and Strategies for Reducing Risk</i> , McGraw-Hill)。Skipper, Harold D. and W. Jean Kwon (2007), <i>Risk Management and Insurance: Perspectives in a Global Economy</i> , Blackwell Publishing。 その他、講義中に指示する。
備 考	:

■ BB159

科 目 名	: 保険論特論演習Ⅳ
担 当 者	: 諏澤 吉彦
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 特論演習Ⅲの論文構成にしたがって各章の執筆し、修士論文を完成させることを目標とする。
授業内容・方法	: 毎回の演習において各章の執筆内容を報告し、学術的な特色・独創性を深め、より有益な成果を上げるために必要な取り組みを明らかにする。
授 業 計 画	: 第1回 これまでの到達点と今後の取り組み内容の確認 第2回 各章の内容検討 (1): 研究対象と現状認識の記述 第3回 各章の内容検討 (2): 研究動機と研究目的の記述 第4回 各章の内容検討 (3): 先行研究レビューの内容検討 第5回 各章の内容検討 (4): 先行研究レビューの記述 第6回 各章の内容検討 (5): 従来の学術研究の到達点と残された課題の記述 第7回 各章の内容検討 (6): 従来の学術研究における本研究の位置づけと独自性の記述 第8回 各章の内容検討 (7): 分析手法の選択とその根拠の記述 第9回 各章の内容検討 (8): 分析の実施手順の記述 第10回 各章の内容検討 (9): 分析結果の記述 第11回 各章の内容検討 (10): 分析結果の解釈の記述 第12回 各章の内容検討 (11): 分析結果から得られた知見の記述 第13回 各章の内容検討 (12): 研究のまとめと残された課題の記述 第14回 論文内容の最終確認 第15回 完成論文の内容報告
評価方法・基準	: 研究への取り組み状況に基づいて評価する。
教 材 な ど	: 参考書: 米山高生・箸方幹逸監訳 (2005) 『S・E・ハリントン & G・R・ニーハウス 保険とリスクマネジメント』, 東洋経済新報社 (Harrington, Scott E. and Gregory R. Niehaus (2003), <i>Risk Management and Insurance</i> , 2nd Edition, McGraw-Hill)。森平爽一郎・米山高生監訳 (2012) 『ドハーティ著 統合リスクマネジメント』中央経済社 (Doherty, Neil A. (2000), <i>Integrated Risk Management: Techniques and Strategies for Reducing Risk</i> , McGraw-Hill)。Skipper, Harold D. and W. Jean Kwon (2007), <i>Risk Management and Insurance: Perspectives in a Global Economy</i> , Blackwell Publishing。 その他、講義中に指示する。
備 考	:

■ BB160

科 目 名	: 経営史特論
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 現在までの経営の歴史を把握する。
授業内容・方法	: 20 世紀の最後の 10 年から、企業を取り巻く状況は急速に変化しだした。その変化は、21 世紀に入った現在においても進行中である。とはいえ、一体何が変わろうとしているのか、企業はどのようなものになろうとしているのか、その点については今もって明確ではない。ただ、ひとつ確かなのは、19 世紀後半から構築されだした、いわゆる現代企業がもはや従来のままでは存続し得ないと言う点である。そこで、今、まさに変容しつつある現代企業とはどのようなものであったのか、それはどのような経路を経て形成されてきたのか、その社会に対する意味はなんであったのか、を明らかにすることで、変化の先を見いだす手がかりを与えていきたいと考えている。
授 業 計 画	: 第 1 回 経営史概観 第 2 回 市場経済とビジネスの発展 第 3 回 工場制度と労働のあり方の変化 第 4 回 アメリカにおける現代企業の出現 1 第 5 回 アメリカにおける現代企業の出現 2 第 6 回 ヨーロッパにおける現代企業の出現 1 第 7 回 ヨーロッパにおける現代企業の出現 2 第 8 回 日本における大企業の登場 1 第 9 回 日本における大企業の登場 2 第 10 回 大企業体制のビジネス 1 アメリカ 第 11 回 大企業体制のビジネス 2 ヨーロッパ 第 12 回 大企業体制のビジネス 3 日本 第 13 回 中小企業の存在性 第 14 回 グローバル化の進展とビジネス 第 15 回 将来への展望
評価方法・基準	: 講義時間中の報告内容と態度及びレポートによって評価を行う。平常点 50%、レポートの評価 50%。
教 材 な ど	: 教科書：鈴木良隆・武田晴人・大東祐著『ビジネスの歴史』、有斐閣、2004 年、2520 円（税込）
備 考	: テキストは講義開始後、出来るだけ早い内に一読しておいて下さい。

■ BB161

科 目 名	: 経営史特論演習 I
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 経営史の知識を深めることで長期的な意思決定の基盤を得ると共に、修士論文作成の基礎を作る。
授業内容・方法	: 近代企業組織がどのように展開してきたのかを、アメリカ、イギリス、ドイツについて比較史的に考察する。まず、近代企業組織の特徴点を明らかにした上で、各国の状況を順次検討していく。それと併行して、演習参加者の個別研究課題についての選択を行う。
授 業 計 画	: 第 1 回 概観 第 2 回 近代企業組織の特徴 第 3 回 近代企業組織出現の歴史的前提 第 4 回 イギリスにおける経済発展の特徴 第 5 回 イギリスにおける経済発展と企業組織 1 第 6 回 イギリスにおける経済発展と企業組織 2 第 7 回 アメリカにおける経済発展の特徴 第 8 回 アメリカにおける現代企業の出現 1 第 9 回 アメリカにおける現代企業の出現 2 第 10 回 アメリカにおける現代企業の出現 3 第 11 回 ドイツにおける経済発展の特徴 第 12 回 ドイツにおける企業の展開 第 13 回 ドイツにおける企業組織の特徴 第 14 回 西洋諸国の企業組織の比較 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 講義時間中の報告内容と態度及びレポートによって評価を行う。平常点 50%、レポートの評価 50%。
教 材 な ど	: 参考書：アルフレッド・D. チャンドラー Jr. 著，安部 悦生 他訳，『スケールアンドスコープ—経営力発展の国際比較』、有斐閣、2005 年。その他、適宜論文を使用。
備 考	:

■ BB162

科 目 名	: 経営史特論演習Ⅱ
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 経営史の知識を深めることで長期的な意思決定の基盤を得ると共に、修士論文作成の基礎を作る。
授業内容・方法	: 日本企業を中心として、個別企業の創設と展開がどのようになされたのかを各自研究し、討論を行っていく。併行して演習参加者の個別研究課題の研究を深化させる。
授 業 計 画	: 第1回 概観 第2回 日本のマネジメントの特徴点 第3回 日本における経済発展1 第4回 日本における経済発展2 第5回 日本における経済発展3 第6回 近代化以降の日本における企業のあり方1 第7回 近代化以降の日本における企業のあり方2 第8回 戦間期の日本企業 第9回 経済統制と日本企業の変質 第10回 敗戦後の経済復興と企業 第11回 高度経済成長期の日本企業 第12回 日本的経営論の問題 第13回 バブルと日本企業 第14回 西洋諸国の企業組織と日本の企業組織との比較 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義時間中の報告内容と態度及びレポートによって評価を行う。平常点 50%、レポートの評価 50%。
教 材 な ど	: 参考書：その他、適宜論文を使用。
備 考	:

■ BB163

科 目 名	: 経営史特論演習Ⅲ
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 経営史の知識を深めることで長期的な意思決定の基盤を得ると共に、修士論文作成の基礎を作る。
授業内容・方法	: 企業家の理念や経営思想が経営戦略の構築や展開にどのように関わってきたのか、そうして構築・展開された経営戦略が組織構造にどのような影響を与えたのかを検討していく。最初に理論的な概観を得るが、基本的には個別事例を収集して議論を行っていく。演習参加者の個別研究課題についてはこの段階で、初期稿が出来るように指導を行う。
授 業 計 画	: - 第1回 概観 - 第2回 企業家と経営理念 考え方 - 第3回 企業家論の系譜 - 第4回 事例研究 アメリカの企業家1 - 第5回 事例研究 アメリカの企業家2 - 第6回 研究テーマの報告1 - 第7回 事例研究 ヨーロッパの企業家1 - 第8回 事例研究 ヨーロッパの企業家2 - 第9回 研究テーマの報告2 - 第10回 事例研究 日本の企業家1 - 第11回 事例研究 日本の企業家2 - 第12回 研究テーマの報告3 - 第13回 企業家活動の比較 - 第14回 理論と実際 - 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義時間中の報告内容と態度及びレポートによって評価を行う。平常点 50%、レポートの評価 50%。
教 材 な ど	: 参考書：適宜テーマに即した文献を使用。
備 考	:

■ BB164

科 目 名	: 経営史特論演習Ⅳ
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 経営史の知識を深めることで長期的な意思決定の基盤を得ると共に、修士論文作成の基礎を作る。
授業内容・方法	: 演習参加者の個別研究課題の報告を中心として進行し、それらに関わるトピックについての文献を補足的に取り上げていく。
授 業 計 画	第1回 概観 第2回 論文指導 第3回 論文指導 第4回 論文指導 第5回 論文指導 第6回 論文指導 第7回 論文指導 第8回 論文指導 第9回 論文指導 第10回 論文指導 第11回 論文指導 第12回 論文指導 第13回 論文指導 第14回 論文指導 第15回 論文指導
評価方法・基準	: 修士論文の合格をもって評価を行う。
教 材 な ど	: 参考書：適宜テーマに即した文献を使用。
備 考	:

■ BB165

科 目 名	: アメリカ経営史特論
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: アメリカ経営史の主要テーマについて学ぶとともに、研究史の最前線について理解を深めます。
授業内容・方法	: テキストを著者のものの見方（論理に内在する思考プロセス）に即して丁寧に読み込んでいくことによって、論理的思考力と方法論を身につけるとともに、学術論文のまとめ方についても学びます。学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。
授 業 計 画	: 第1回 アメリカ経営史の主要テーマ 第2回 チャンドラー・モデル (1) 第3回 チャンドラー・モデル (2) 第4回 チャンドラー・モデル (3) 第5回 中小企業の役割の再認識 (1) 第6回 中小企業の役割の再認識 (2) 第7回 中小企業の役割の再認識 (3) 第8回 労働問題の分析視角 (1) 第9回 労働問題の分析視角 (2) 第10回 労働問題の分析視角 (3) 第11回 グローバル化と情報化 (1) 第12回 グローバル化と情報化 (2) 第13回 環境経営史 (1) 第14回 環境経営史 (2) 第15回 環境経営史 (3)
評価方法・基準	: 講義への参加度(ディスカッションやプレゼンテーションなど)を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	: 授業の進度に合わせて、適宜参考文献表を配付します。
備 考	:

■ BB166

科 目 名	: アメリカ経営史特論演習 I
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: アメリカ経営史の基本文献を輪読します。また、修士論文の作成に向けて、学生一人ひとりの研究テーマに合わせて論文指導をおこないます。論文作成や研究報告の際の基本的なマナーについても併せて学びます。下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の論文作法に習熟することも大切です。
授業内容・方法	: 毎週 30～60 ページほどの読書課題を課し、授業は学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。
授 業 計 画	: - 第 1 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 2 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 3 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 4 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 5 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 6 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 7 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 8 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 9 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 10 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 11 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 12 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 13 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 14 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 - 第 15 回 アメリカ経営史の基本文献の輪読
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに論文の作成）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	: 社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第 8 版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB167

科 目 名	: アメリカ経営史特論演習Ⅱ
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: アメリカ経営史の基本文献を輪読します。また、修士論文の作成に向けて、学生一人ひとりの研究テーマに合わせて論文指導をおこないます。論文作成や研究報告の際の基本的なマナーについても併せて学びます。下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の論文作法に習熟することも大切です。
授業内容・方法	: 毎週 30～60 ページほどの読書課題を課し、授業は学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。
授 業 計 画	: 第1回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第2回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第3回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第4回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第5回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第6回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第7回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第8回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第9回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第10回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第11回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第12回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第13回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第14回 アメリカ経営史の基本文献の輪読 第15回 アメリカ経営史の基本文献の輪読
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに論文の作成）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	: 社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第8版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB168

科 目 名	: アメリカ経営史特論演習Ⅲ
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 学生一人ひとりの研究テーマに合わせて論文指導をおこないます。論文作成や研究報告の際の基本的なマナーについても併せて学びます。下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の論文作法に習熟することも大切です。
授業内容・方法	: 学生の執筆した研究論文草稿の発表を中心に授業を進めます。
授 業 計 画	: 第1回 論文指導 第2回 論文指導 第3回 論文指導 第4回 論文指導 第5回 論文指導 第6回 論文指導 第7回 論文指導 第8回 論文指導 第9回 論文指導 第10回 論文指導 第11回 論文指導 第12回 論文指導 第13回 論文指導 第14回 論文指導 第15回 論文指導
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに論文の作成）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	: 社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第8版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB169

科 目 名	: アメリカ経営史特論演習Ⅳ
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 修士論文の完成に向けて、学生一人ひとりの研究テーマに合わせて論文指導をおこないます。論文作成や研究報告の際の基本的なマナーについても併せて学びます。下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の論文作法に習熟することも大切です。
授業内容・方法	: 学生の執筆した研究論文草稿の発表を中心に授業を進めます。
授 業 計 画	: 第1回 論文指導 第2回 論文指導 第3回 論文指導 第4回 論文指導 第5回 論文指導 第6回 論文指導 第7回 論文指導 第8回 論文指導 第9回 論文指導 第10回 論文指導 第11回 論文指導 第12回 論文指導 第13回 論文指導 第14回 論文指導 第15回 論文指導
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに論文の作成）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	: 社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第8版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB170

科 目 名	: 経営情報システム特論
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 経営のための情報およびシステムに関する基本的知識、そして、システム思考およびスキルを習得すること。
授業内容・方法	: 経営のための情報およびシステムに関する現状および問題点、そしてあるべき姿に関し、システムの視点にたって体系的に考察する。そして、システム思考の基本を学ぶ。
授 業 計 画	: 第1回 経営情報システム特論の全般概説 第2回 組織における経営情報の一般的な定義 第3回 経営の情報化、情報システムの発展段階 第4回 組織と情報システム 第5回 意思決定と情報 第6回 経営情報の分類、経営情報の役割 第7回 問題解決の道具としての情報システム 第8回 経営情報・コンピュータ／システムに関する問題点 第9回 経営情報システム／コンピュータの導入・運用に関する最近の現状、問題点 第10回 ケーススタディ 第11回 システムズ・アプローチ概説 第12回 システム・シンキング／システム思考の基礎 第13回 経営活動とシステム思考／論理思考 第14回 システム思考／論理思考の応用 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 課題に関するレポートを主に、適宜平常点を加味し総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜、プリント配付
備 考	: 授業内容は、受講生の基礎知識／専門知識のレベルを勘案し調整する。

■ BB171

科 目 名	: マネジメント日本語文献講読
担 当 者	: 李 為
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	文献講読の大切さは、単に言葉を読むことだけではなく、著者の立場に身を置き、その社会において通用している行為規準を知ることが重要である。そうすることによって、はじめて文献に使われている言葉を理解することが可能になる。すなわち、どういう社会的文脈の中で言葉が使われているかを説明しなければならない。しかし、社会的文脈まで網羅した辞書は存在していないため、文献講読の楽しさと知的冒険につながる可能性が出てくる。 この講義の前半は、文献講読を通して論理的な主張の構成を学び、論理的に話すための方法論を学ぶ。後半は、論理的に書くための方法論を学びながら、批判的に文献を読む力を習得する。最後に、文献の引用の仕方を練習しながら、文献を使って自分の主張を展開する面白さを学ぶ。
授業内容・方法	: 講義方式と受講生による報告の併用
授 業 計 画	第 1 回 知識創造とは何か 第 2 回 知識創造のプロセス 第 3 回 問題意識 第 4 回 概念とデータ 第 5 回 原因と結果 第 6 回 命題と仮説 第 7 回 記述と説明 第 8 回 因果法則 第 9 回 実験群と統制群 第 10 回 変数と概念操作 第 11 回 社会科学の方法論 第 12 回 理論研究と実証研究 第 13 回 理論構築の方法（1） 第 14 回 理論構築の方法（2） 第 15 回 創造の方法学を目指して
評価方法・基準	: 授業での担当箇所の発表(50%)、出席および授業における参加の積極性(20%)、定期試験レポート(30%)により総合評価する。
教 材 な ど	1. 高根正昭著『創造の方法学』講談社現代新書 1979 年 2. 野中郁次郎／紺野登『知識創造の方法論』東洋経済新報社 2003 年
備 考	: 事前に教材を熟読すること。

■ BB172

科 目 名	: マネジメント英語文献講読
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 経営学の基礎的な理論と実際のビジネス活動に関する英語文献の読解を通して、マネジメントに関わる研究を進めるために必要な英語能力を身に着けるとともに、英語による情報収集・分析能力を養うことを目標とする。
授業内容・方法	: マネジメントに関する幅広いテーマに関する英語文献を取り上げ、それを輪読しつつ、その内容を巡ってディスカッションを行う。また、関連する内容を扱った日本語文献も参考として利用する方法についても学ぶ。授業は、課題文献を受講者が翻訳、解釈および分析、そして討論を行う参加形式で行う。
授 業 計 画	第1回 はじめに一英語文献講読の意味と方法 第2回 マネジメントの基礎的な概念についての英語文献の輪読と討論1 第3回 マネジメントの基礎的な概念についての英語文献の輪読と討論2 第4回 マネジメントの基礎的な概念についての英語文献の輪読と討論3 第5回 マネジメント理論についての英語文献の輪読と討論1 第6回 マネジメント理論についての英語文献の輪読と討論2 第7回 欧米企業のマネジメントについてのケース分析1 第8回 欧米企業のマネジメントについてのケース分析2 第9回 マネジメントについての最近のトピックに関わる英語文献の輪読と討論1 第10回 マネジメントについての最近のトピックに関わる英語文献の輪読と討論2 第11回 マネジメントについての最近のトピックに関わる英語文献の輪読と討論3 第12回 日本企業に対する海外の見方についての英語文献の輪読と討論1 第13回 日本企業に対する海外の見方についての英語文献の輪読と討論2 第14回 日本企業に対する海外の見方についての英語文献の輪読と討論3 第15回 総括一英語文献講読を通して得たもの
評価方法・基準	: 各担当部分の発表内容（読解力、表現力）と小テストの内容・討論への参加度などをもとに総合的に評価する。
教 材 な ど	: 毎回の講義において指示する。また、必要に応じてレジュメを配付する。
備 考	:

■ BB173

科 目 名	: マネジメント特殊研究
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: より高次のマネジメント能力の涵養を狙いとする。
授業内容・方法	事前に割り当てた課題の報告をもとに進める。 本研究科では、マネジメント能力を戦略的マネジメント能力、ナレッジ・情報マネジメント能力、協働マネジメント能力の融合であると考えているが、後期課程においては、専門的研究により深く特化することによって、その能力をさらに高次のものとすることを目指している。 本講義では、そうした高次のマネジメント能力とはいかなるものであり、それをどのようにして身に付けていくべきなのかを、後期課程に設置されている諸科目に引きつけて多面的に考察していく。そのために、適宜、各科目の担当者の参加を得て、ディスカッションを中心に授業を進めていく。
授 業 計 画	第1回 マネジメント能力とその内容 1 第2回 マネジメント能力とその内容 2 第3回 マネジメント能力とその内容 3 第4回 戦略的マネジメント領域の考察 1 第5回 戦略的マネジメント領域の考察 2 第6回 戦略的マネジメント能力とその内容 1 第7回 戦略的マネジメント能力とその内容 2 第8回 ナレッジ・情報マネジメント領域の考察 1 第9回 ナレッジ・情報マネジメント領域の考察 2 第10回 ナレッジ・情報マネジメント能力とその内容 1 第11回 ナレッジ・情報マネジメント能力とその内容 2 第12回 協働マネジメント領域の考察 1 第13回 協働マネジメント領域の考察 2 第14回 協働マネジメント能力とその内容 1 第15回 協働マネジメント能力とその内容 2
評価方法・基準	: ディスカッション 30%とレポートの 70%として評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	:

■ BB174

科 目 名	: 組織論特殊研究
担 当 者	: 佐々木 利廣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 組織論の最近の展開の中で受講者の興味をもつテーマについて文献講読をおこないながら議論する。
授業内容・方法	: 欧米あるいは日本の先行研究のレビューと批判的検討
授 業 計 画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 資源依存パースペクティブの概要と展開 第3回 資源依存パースペクティブの概要と展開 第4回 資源依存パースペクティブの概要と展開 第5回 資源依存パースペクティブの本質 第6回 資源依存パースペクティブの本質 第7回 資源依存パースペクティブの本質 第8回 組織間学習 第9回 組織間学習 第10回 組織間学習 第11回 ネットワーク研究 第12回 ネットワーク研究 第13回 ネットワーク研究 第14回 各自の専門テーマからの批判的検討 第15回 各自の専門テーマからの批判的検討
評価方法・基準	: 各人の専門テーマに沿った文献講読についての報告と議論をもとに評価。
教 材 な ど	: 組織学会編『組織論レビューⅡ』白桃書房、2013 年
備 考	:

■ BB175

科 目 名	:	組織論特殊演習 I
担 当 者	:	佐々木 利廣
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期
授 業 目 標	:	自ら決めた専門テーマを深く掘り下げながら学会報告や学術論文にまとめることが目標である。
授業内容・方法	:	論文構成の検討と執筆論文のブラッシュアップ
授 業 計 画	:	第 1 回 報告と議論
	:	第 2 回 報告と議論
	:	第 3 回 報告と議論
	:	第 4 回 報告と議論
	:	第 5 回 報告と議論
	:	第 6 回 報告と議論
	:	第 7 回 報告と議論
	:	第 8 回 報告と議論
	:	第 9 回 報告と議論
	:	第 10 回 報告と議論
	:	第 11 回 報告と議論
	:	第 12 回 報告と議論
	:	第 13 回 報告と議論
	:	第 14 回 報告と議論
	:	第 15 回 報告と議論
評価方法・基準	:	専門テーマについての報告と議論をもとに評価。
教 材 な ど	:	Stanford Social Innovation Review のなかの文献
備 考	:	

■ BB176

科 目 名	: 組織論特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 佐々木 利廣
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 自ら決めた専門テーマを深く掘り下げながら学会報告や学術論文にまとめることが目標である。
授業内容・方法	: 論文構成の検討と執筆論文のブラッシュアップ
授 業 計 画	第1回 報告と議論 第2回 報告と議論 第3回 報告と議論 第4回 報告と議論 第5回 報告と議論 第6回 報告と議論 第7回 報告と議論 第8回 報告と議論 第9回 報告と議論 第10回 報告と議論 第11回 報告と議論 第12回 報告と議論 第13回 報告と議論 第14回 報告と議論 第15回 報告と議論
評価方法・基準	: 専門テーマについての報告と議論をもとに評価。
教 材 な ど	: Stanford Social Innovation Review のなかの文献
備 考	:

■ BB177

科 目 名	:	組織論特殊演習Ⅲ
担 当 者	:	佐々木 利廣
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	春学期
授 業 目 標	:	自ら決めた専門テーマを深く掘り下げながら学会報告や学術論文にまとめることが目標である。
授業内容・方法	:	論文構成の検討と執筆論文のブラッシュアップ
授 業 計 画	:	第1回 報告と議論
	:	第2回 報告と議論
	:	第3回 報告と議論
	:	第4回 報告と議論
	:	第5回 報告と議論
	:	第6回 報告と議論
	:	第7回 報告と議論
	:	第8回 報告と議論
	:	第9回 報告と議論
	:	第10回 報告と議論
	:	第11回 報告と議論
	:	第12回 報告と議論
	:	第13回 報告と議論
	:	第14回 報告と議論
	:	第15回 報告と議論
評価方法・基準	:	専門テーマについての報告と議論をもとに評価。
教 材 な ど	:	Stanford Social Innovation Review のなかの文献
備 考	:	

■ BB178

科 目 名	:	組織論特殊演習Ⅳ
担 当 者	:	佐々木 利廣
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	2年
開 講 期 間	:	秋学期
授 業 目 標	:	自ら決めた専門テーマを深く掘り下げながら学会報告や学術論文にまとめることが目標である。
授業内容・方法	:	論文構成の検討と執筆論文のブラッシュアップ
授 業 計 画	:	第1回 報告と議論
	:	第2回 報告と議論
	:	第3回 報告と議論
	:	第4回 報告と議論
	:	第5回 報告と議論
	:	第6回 報告と議論
	:	第7回 報告と議論
	:	第8回 報告と議論
	:	第9回 報告と議論
	:	第10回 報告と議論
	:	第11回 報告と議論
	:	第12回 報告と議論
	:	第13回 報告と議論
	:	第14回 報告と議論
	:	第15回 報告と議論
評価方法・基準	:	専門テーマについての報告と議論をもとに評価。
教 材 な ど	:	Stanford Social Innovation Review のなかの文献
備 考	:	

■ BB179

科 目 名	: 技術マネジメント特殊研究
担 当 者	: 具 承桓
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 本授業の目的は、博士論文のテーマ設定と論文執筆のための一連の作業のため、すなわちイノベーションマネジメント論の諸分野の研究アプローチ方法とテーマについて学習する。それによって研究テーマの設定と方法、対象を探索していくことを目的とする。
授業内容・方法	: 受講生の主体的な輪読と発表、それに基づく議論によって進めていく。よって、下記のようなスケジュールで進めていく。
授 業 計 画	: 本授業では以下の3つを設定するが、受講生の希望などを受け入れ、追加することもありうる。
	第1回 イントロダクション
	第2回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (1): 歴史研究
	第3回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (2): 戦略研究
	第4回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (3): 組織研究
	第5回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (4): 知識研究
	第6回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (5): 製品開発プロセス研究
	第7回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (6): 外部企業 A
	第8回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (7): 外部企業 B
	第9回 イノベーションマネジメント論の諸分野と研究方法 (8): 技術連携
	第10回 研究方法論 (1) 統計分析手法
	第11回 研究方法論 (2) アンケート作成と実施 A
	第12回 研究方法論 (3) アンケート作成と実施 B
	第13回 研究方法論 (4) ケーススタディ A
	第14回 研究方法論 (5) ケーススタディ B
	第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 50%、ディスカッション 30%、レポート 20%
教 材 な ど	: 以下の書籍や他の論文集から選定した論文を授業時間に配付する。場合によっては下記の書籍から選定し、進める。 ・バークマン・クリステンセン・ウィールラント (2007) 『技術とイノベーションの戦略的マネジメント (上) (下)』 翔泳社 (原著; Burgelman, Robert A., Christensen, Clayton and Steven C. Wheelwright, Strategic Management of Technology and Innovation. 2004 McGraw-Hill Irwin, New York)。 ・後藤晃・鈴木潤監訳 『イノベーションの経営学: 技術・市場・組織の統合的マネジメント』 NTT 出版, 2004 年. (原著; Tidd, Joe, John Bessant and Keith Pavitt (2001). Managing Innovation: Integrating Technological, Market and Organizational Change. Wiley, New York. ・Chesbrough, Henry (2003) Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology. Boston, MA: Harvard Business School (大前恵一朗訳『Open Innovation』産業能率大学出版部) ・円川 隆夫・安達 俊行 (1997) 『製品開発論』 日科技連。 ・ピーター・ボイアー (2004) 『技術価値評価—R&D が生み出す経済的価値を予測する』 日本経済新聞社。 ・原田保+多摩大学ルネッサンスセンター編 (2005) 『調達・物流統合戦略』 同友館。 ・その他、多数の論文や文献を適時に選定し、提供する。
備 考	: 積極的な問題意識を持って授業に参加して頂きたい。

■ BB180

科 目 名	:	マーケティング特殊研究
担 当 者	:	市川 貢
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期 秋学期
授 業 目 標	:	受講者の選んだテーマへのマーケティング研究の貢献
授業内容・方法	:	報告と質疑
授 業 計 画	:	論文作成に必要な文献研究
評価方法・基準	:	授業への参加と報告
教 材 な ど	:	BtoB 関連の論文を選定する。
備 考	:	

■ BB181

科 目 名	: マーケティング特殊演習 I
担 当 者	: 市川 貢
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 3 年間の研究計画の検討
授業内容・方法	: 報告と議論
授 業 計 画	: 第 1 回 インTRODakション
	: 第 2 回 図書館研修
	: 第 3 回 報告と議論
	: 第 4 回 報告と議論
	: 第 5 回 報告と議論
	: 第 6 回 報告と議論
	: 第 7 回 報告と議論
	: 第 8 回 報告と議論
	: 第 9 回 報告と議論
	: 第 10 回 報告と議論
	: 第 11 回 報告と議論
	: 第 12 回 報告と議論
	: 第 13 回 報告と議論
	: 第 14 回 報告と議論
	: 第 15 回 報告と議論
評価方法・基準	: 授業（報告と議論）への参加
教 材 な ど	: 関連する文献を選定
備 考	:

■ BB182

科 目 名	: マーケティング特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 市川 貢
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 論文の投稿を目指して
授業内容・方法	: 報告と議論
授 業 計 画	: 第1回 インTRODakション
	: 第2回 報告と議論
	: 第3回 報告と議論
	: 第4回 報告と議論
	: 第5回 報告と議論
	: 第6回 報告と議論
	: 第7回 報告と議論
	: 第8回 報告と議論
	: 第9回 報告と議論
	: 第10回 報告と議論
	: 第11回 報告と議論
	: 第12回 報告と議論
	: 第13回 報告と議論
	: 第14回 報告と議論
	: 第15回 報告と議論
評価方法・基準	: 授業（報告と議論）への参加
教 材 な ど	: 関連する文献を選定
備 考	:

■ BB183

科 目 名	: マーケティング特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 市川 貢
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 論文の投稿を目指して
授業内容・方法	: 報告と議論
授 業 計 画	: 第1回 インTRODakション
	: 第2回 報告と議論
	: 第3回 報告と議論
	: 第4回 報告と議論
	: 第5回 報告と議論
	: 第6回 報告と議論
	: 第7回 報告と議論
	: 第8回 報告と議論
	: 第9回 報告と議論
	: 第10回 報告と議論
	: 第11回 報告と議論
	: 第12回 報告と議論
	: 第13回 報告と議論
	: 第14回 報告と議論
	: 第15回 報告と議論
評価方法・基準	: 授業（報告と議論）への参加
教 材 な ど	: 関連する文献を選定
備 考	:

■ BB184

科 目 名	: マーケティング特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 市川 貢
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 論文の投稿を目指して
授業内容・方法	: 報告と議論
授 業 計 画	: 第1回 インTRODakション
	: 第2回 報告と議論
	: 第3回 報告と議論
	: 第4回 報告と議論
	: 第5回 報告と議論
	: 第6回 報告と議論
	: 第7回 報告と議論
	: 第8回 報告と議論
	: 第9回 報告と議論
	: 第10回 報告と議論
	: 第11回 報告と議論
	: 第12回 報告と議論
	: 第13回 報告と議論
	: 第14回 報告と議論
	: 第15回 報告と議論
評価方法・基準	: 授業（報告と議論）への参加
教 材 な ど	: 関連する文献を選定
備 考	:

■ BB185

科 目 名	:	マーケティング戦略史特殊研究
担 当 者	:	吉田 裕之
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期 秋学期
授 業 目 標	:	本講義では企業のマーケティング戦略行動の成果と課題を実証的に検討することを目的とする。その際に、分析手法として historical approach を採用し、企業のマーケティング戦略行動と市場、あるいは社会との相互関連性を動態的に検討し、これまでに導出されたマーケティング戦略に関する理論との整合性を検証することを学ぶ。
授業内容・方法	:	受講生の研究テーマに沿った文献・事例研究の口頭発表と議論により、授業を進める。
授 業 計 画	:	講義の前半はマーケティング戦略理論の一層の理解を促すために文献を講読し、後半では受講生自らがあげた企業の事例を検討し、適宜解説と説明を加えることによって授業を進める。
評価方法・基準	:	1. 文献講読時における発言・発表内容 : 50% 2. 受講生自らがあげた企業の事例研究の内容 : 50%
教 材 な ど	:	文献・資料は適宜指示する。
備 考	:	マーケティング戦略理論に関する文献は、受講生の研究テーマに沿ったものを選択・指示する。 事例研究に取り上げる企業についても、受講生の研究テーマに沿ったものを選択されたい。

■ BB186

科 目 名	: マーケティング戦略史特殊演習 I
担 当 者	: 吉田 裕之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 受講者の研究テーマにしたがい、マーケティング理論および隣接諸科学の理論を基礎に研究指導を行う。また、研究成果の発表を、逐次行うことが必要であるため、博士論文の内容にそって、口頭発表・論文発表を経て、年次毎の研究成果報告につなげていく。本演習では、博士論文の構成（目次）を議論することによって、論文の全体枠組みを構築する。
授業内容・方法	: 博士論文のテーマに沿った内容のレポートをもとに、議論を行う。
授 業 計 画	: 第1回 口頭発表とディスカッション 第2回 口頭発表とディスカッション 第3回 口頭発表とディスカッション 第4回 口頭発表とディスカッション 第5回 口頭発表とディスカッション 第6回 口頭発表とディスカッション 第7回 口頭発表とディスカッション 第8回 口頭発表とディスカッション 第9回 口頭発表とディスカッション 第10回 口頭発表とディスカッション 第11回 口頭発表とディスカッション 第12回 口頭発表とディスカッション 第13回 口頭発表とディスカッション 第14回 口頭発表とディスカッション 第15回 口頭発表とディスカッション
評価方法・基準	: 各演習での、受講生の研究成果の完成度を総合的に判断する。
教 材 な ど	: 文献、資料は適宜指示する。
備 考	:

■ BB187

科 目 名	: マーケティング戦略史特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 吉田 裕之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 受講者の研究テーマにしたがい、マーケティング理論および隣接諸科学の理論を基礎に研究指導を行う。また、研究成果の発表を、逐次行うことが必要であるため、博士論文の内容にそって、口頭発表・論文発表を経て、年次毎の研究成果報告につなげていく。本演習では、演習Ⅰでの成果を踏まえ、論文各章で必要とされる文献・資料の摘出とその妥当性について議論し、第1回目の研究成果報告につなげてゆく。
授業内容・方法	: 博士論文各章で必要となる文献・資料の概要のレポートをもとに、議論を行う。
授 業 計 画	: 第1回 口頭発表とディスカッション 第2回 口頭発表とディスカッション 第3回 口頭発表とディスカッション 第4回 口頭発表とディスカッション 第5回 口頭発表とディスカッション 第6回 口頭発表とディスカッション 第7回 口頭発表とディスカッション 第8回 口頭発表とディスカッション 第9回 口頭発表とディスカッション 第10回 口頭発表とディスカッション 第11回 口頭発表とディスカッション 第12回 口頭発表とディスカッション 第13回 口頭発表とディスカッション 第14回 口頭発表とディスカッション 第15回 口頭発表とディスカッション
評価方法・基準	: 各演習での、受講生の研究成果の完成度を総合的に判断する。
教 材 な ど	: 文献、資料は適宜指示する。
備 考	:

■ BB188

科 目 名	: マーケティング戦略史特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 吉田 裕之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 受講者の研究テーマにしたがい、マーケティング理論および隣接諸科学の理論を基礎に研究指導を行う。また、研究成果の発表を、逐次行うことが必要であるため、博士論文の内容にそって、口頭発表・論文発表を経て、年次毎の研究成果報告につなげていく。本演習では、演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ、論文各章のアブストラクトの作成とその妥当性について議論をする。
授業内容・方法	: 博士論文各章のアブストラクトに関するレポートをもとに、議論を行う。
授 業 計 画	: 第1回 口頭発表とディスカッション 第2回 口頭発表とディスカッション 第3回 口頭発表とディスカッション 第4回 口頭発表とディスカッション 第5回 口頭発表とディスカッション 第6回 口頭発表とディスカッション 第7回 口頭発表とディスカッション 第8回 口頭発表とディスカッション 第9回 口頭発表とディスカッション 第10回 口頭発表とディスカッション 第11回 口頭発表とディスカッション 第12回 口頭発表とディスカッション 第13回 口頭発表とディスカッション 第14回 口頭発表とディスカッション 第15回 口頭発表とディスカッション
評価方法・基準	: 各演習での、受講生の研究成果の完成度を総合的に判断する。
教 材 な ど	: 文献、資料は適宜指示する。
備 考	:

■ BB189

科 目 名	: マーケティング戦略史特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 吉田 裕之
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 受講者の研究テーマにしたがい、マーケティング理論および隣接諸科学の理論を基礎に研究指導を行う。また、研究成果の発表を、逐次行うことが必要であるため、博士論文の内容にそって、口頭発表・論文発表を経て、年次毎の研究成果報告につなげていく。本演習では、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの成果を踏まえ、論文各章のアブストラクトにしたがい、論文における独創性を醸成し、第2回の研究成果報告会と論文執筆の準備作業を行う。
授業内容・方法	: 博士論文の独創性に関するレポートをもとに、議論を行う。
授 業 計 画	: 第1回 口頭発表とディスカッション 第2回 口頭発表とディスカッション 第3回 口頭発表とディスカッション 第4回 口頭発表とディスカッション 第5回 口頭発表とディスカッション 第6回 口頭発表とディスカッション 第7回 口頭発表とディスカッション 第8回 口頭発表とディスカッション 第9回 口頭発表とディスカッション 第10回 口頭発表とディスカッション 第11回 口頭発表とディスカッション 第12回 口頭発表とディスカッション 第13回 口頭発表とディスカッション 第14回 口頭発表とディスカッション 第15回 口頭発表とディスカッション
評価方法・基準	: 各演習での、受講生の研究成果の完成度を総合的に判断する。
教 材 な ど	: 文献、資料は適宜指示する。
備 考	:

■ BB190

科 目 名	: 経営史特殊研究
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 日本を中心として、いかなる企業者活動が展開されてきたのかを跡付けるとともに、それらの活動が組織形成にどのような影響を与えたのか、また、その結果として形作られた組織文化が企業者活動に逆にどのような影響をもたらしたのかを考察する。それと同時に個々の企業家が戦略を策定していく上で、経営理念が与えた影響を歴史的に分析していく。こうした作業を通じて、長期的な視点から、戦略の策定や組織の構築に臨む姿勢を身に付けることが出来るようにする。
授業内容・方法	: 文献の講読とそれを踏まえたディスカッションを行う。
授 業 計 画	: 第1回 授業の概要説明と受講者の研究方針についてのディスカッション 第2回 企業者史学の生成についての文献講読とディスカッション 第3回 企業者史学の展開についての文献講読とディスカッション 第4回 企業者活動と組織形成との関係についての文献講読とディスカッション 第5回 企業者活動と組織文化との関係についての文献講読とディスカッション 第6回 経営理念論についての文献講読とディスカッション 第7回 経営理念と戦略形成との関係についての文献講読とディスカッション 第8回 企業者活動の事例研究1 第9回 企業者活動の事例研究2 第10回 企業者活動の事例研究3 第11回 組織と戦略についての文献講読とディスカッション 第12回 経営戦略の事例研究1 第13回 経営戦略の事例研究2 第14回 経営戦略の失敗事例 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業内での報告とレポートを併せて評価する。その配分は共に50%である。評価基準は、年次進行ごとに、逐次研究レベルを設定し、それを基準として評価する。
教 材 な ど	: 授業内で適宜指示する。
備 考	:

■ BB191

科 目 名	: 経営史特殊演習 I
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 社会には、企業をはじめ NPO、公共団体や自治体等さまざまな組織が存在する。それらの組織は、絶えず変革を行わなければ継続的に存在し続けることは出来ない。現在、相当な歴史を有する組織は、そうした変革を繰り返すことによって、存続し続けてきた。言い換えれば、そうした変革が出来なかった、もしくは成功しなかった組織は衰退していったということでもある。この演習では、さまざまな組織のそうした変革について、歴史的視点を踏まえつつ、明らかにしていくことを目的とする。
授業内容・方法	: 当初は基本文献講読を中心とし、その後、個々のテーマに即した文献の講読へと進む。同時に資料の収集を行い、その分析を行っていく。
授 業 計 画	: 第 1 回 概観 第 2 回 組織を歴史的に考察することの意味についての文献講読とディスカッション 1 第 3 回 組織を歴史的に考察することの意味についての文献講読とディスカッション 2 第 4 回 組織を歴史的に考察することの意味についての文献講読とディスカッション 3 第 5 回 演習参加者の研究テーマについての報告 1 第 6 回 演習参加者の研究テーマについての報告 2 第 7 回 資料収集の方法についてのレクチュア 第 8 回 事例研究 歴史の中での組織 1 第 9 回 事例研究 歴史の中での組織 2 第 10 回 演習参加者の研究の進捗状況についての報告 1 第 11 回 演習参加者の研究の進捗状況についての報告 2 第 12 回 論文指導 1 第 13 回 論文指導 2 第 14 回 論文指導 3 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 授業内での報告とレポートを併せて評価する。その配分は共に 50%である。評価基準は、年次進行ごとに、逐次研究レベルを設定し、それを基準として評価する。
教 材 な ど	: 授業内で適宜指示する。
備 考	:

■ BB192

科 目 名	: 経営史特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 社会には、企業をはじめ NPO、公共団体や自治体等さまざまな組織が存在する。それらの組織は、絶えず変革を行わなければ継続的に存在し続けることは出来ない。現在、相当な歴史を有する組織は、そうした変革を繰り返すことによって、存続し続けてきた。言い換えれば、そうした変革が出来なかった、もしくは成功しなかった組織は衰退していったということでもある。この演習では、さまざまな組織のそうした変革について、歴史的視点を踏まえつつ、明らかにしていくとともに、個々のテーマについての研究を進め、論文を執筆することを目的とする。
授業内容・方法	: 演習Ⅰに引き続いて、組織の歴史的考察に関する文献を講読しつつ、研究テーマについての調査を進め、論文にまとめる。
授 業 計 画	: 第1回 概観 第2回 研究の進捗状況に関する報告とディスカッション1 第3回 研究の進捗状況に関する報告とディスカッション2 第4回 組織の歴史的考察に関する文献講読とディスカッション1 第5回 組織の歴史的考察に関する文献講読とディスカッション2 第6回 研究の進捗状況に関する報告とディスカッション3 第7回 研究の進捗状況に関する報告とディスカッション4 第8回 論文指導1 第9回 論文指導2 第10回 論文指導3 第11回 論文指導4 第12回 論文指導5 第13回 論文指導6 第14回 論文指導7 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業内での報告と論文を併せて評価する。その配分は共に 50%である。
教 材 な ど	: 授業内で適宜指示する。
備 考	:

■ BB193

科 目 名	: 経営史特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 個々のテーマについての研究を進める。
授業内容・方法	: 演習Ⅱに引き続いて、研究テーマについての調査と資料収集を進め、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	第1回 概観 第2回 研究の進捗状況に関する報告とディスカッション1 第3回 研究の進捗状況に関する報告とディスカッション2 第4回 文献講読とディスカッション1 第5回 論文指導1 第6回 文献講読とディスカッション2 第7回 論文指導2 第8回 文献講読とディスカッション3 第9回 論文指導3 第10回 論文指導4 第11回 論文指導5 第12回 論文指導6 第13回 論文指導7 第14回 論文指導8 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業内での報告とレポートを併せて評価する。その配分は共に50%である。
教 材 な ど	: 授業内で適宜指示する。
備 考	:

■ BB194

科 目 名	: 経営史特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 柴 孝夫
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 個々のテーマについての研究を進め、論文の執筆を行う。
授業内容・方法	: 演習Ⅲに引き続いて、研究テーマについての調査と資料収集を進め、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	第1回 概観 第2回 文献講読とディスカッション1 第3回 論文指導1 第4回 文献講読とディスカッション2 第5回 論文指導2 第6回 文献講読とディスカッション3 第7回 論文指導3 第8回 文献講読とディスカッション4 第9回 論文指導4 第10回 論文指導5 第11回 論文指導6 第12回 論文指導7 第13回 論文指導8 第14回 論文指導9 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業内での報告と論文を併せて評価する。その配分は共に 50%である。
教 材 な ど	: 授業内で適宜指示する。
備 考	:

■ BB195

科 目 名	: アメリカ経営史特殊研究
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: テキストを著者のものの見方（論理に内在する思考プロセス）に即して丁寧に読み込んでいくことによって、論理的思考力と方法論を身につけるとともに、学術論文のまとめ方についても学びます。
授業内容・方法	: 1990 年代の後半に米国で提唱された新しい研究プロジェクト環境経営史 (environmental business history) について学びます。学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。
授 業 計 画	: 環境経営史の主要テーマにかかわる論文を輪読します。とくに今年度は、産業衛生ならびに産業医学領域の研究を中心に検討してみましよう。
評価方法・基準	: 講義への参加度(ディスカッションやプレゼンテーションなど)を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	: 上野継義「環境経営史——経営史・環境史・産業エコロジーへの問いかけ——」『アメリカ経済史の新潮流』岡田泰男, 須藤功編, 第 7 章. 慶應義塾大学出版会, 2003. 上野継義「環境経営史によるアスベスト問題再考——『作られた環境』の中の労働災害——」『豊かさと環境 (シリーズ・アメリカ研究の越境 第 3 巻)』秋元英一, 小塩和人編, 第 11 章. ミネルヴァ書房, 2006.
備 考	:

■ BB196

科 目 名	: アメリカ経営史特殊演習 I
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 博士論文の作成に向けて、学生一人ひとりのテーマに合わせて論文指導をおこないます。
授業内容・方法	: 学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。併せて、下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の読み方を教授します。
授 業 計 画	第 1 回 論文指導 第 2 回 論文指導 第 3 回 論文指導 第 4 回 論文指導 第 5 回 論文指導 第 6 回 論文指導 第 7 回 論文指導 第 8 回 論文指導 第 9 回 論文指導 第 10 回 論文指導 第 11 回 論文指導 第 12 回 論文指導 第 13 回 論文指導 第 14 回 論文指導 第 15 回 論文指導
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに学術雑誌への投稿）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第8版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB197

科 目 名	: アメリカ経営史特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 博士論文の作成に向けて、学生一人ひとりのテーマに合わせて論文指導をおこないます。
授業内容・方法	: 学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。併せて、下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の読み方を教授します。
授 業 計 画	第1回 論文指導 第2回 論文指導 第3回 論文指導 第4回 論文指導 第5回 論文指導 第6回 論文指導 第7回 論文指導 第8回 論文指導 第9回 論文指導 第10回 論文指導 第11回 論文指導 第12回 論文指導 第13回 論文指導 第14回 論文指導 第15回 論文指導
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに学術雑誌への投稿）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第8版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB198

科 目 名	: アメリカ経営史特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 博士論文の作成に向けて、学生一人ひとりのテーマに合わせて論文指導をおこないます。
授業内容・方法	: 学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。併せて、下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の読み方を教授します。
授 業 計 画	第1回 論文指導 第2回 論文指導 第3回 論文指導 第4回 論文指導 第5回 論文指導 第6回 論文指導 第7回 論文指導 第8回 論文指導 第9回 論文指導 第10回 論文指導 第11回 論文指導 第12回 論文指導 第13回 論文指導 第14回 論文指導 第15回 論文指導
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに学術雑誌への投稿）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第8版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB199

科 目 名	: アメリカ経営史特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 上野 継義
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 博士論文の作成に向けて、学生一人ひとりのテーマに合わせて論文指導をおこないます。
授業内容・方法	: 学生によるプレゼンテーションとクラス・ディスカッションを中心にすすめます。併せて、下の教材欄に記した『シカゴ・マニュアル』の読み方を教授します。
授 業 計 画	第1回 論文指導 第2回 論文指導 第3回 論文指導 第4回 論文指導 第5回 論文指導 第6回 論文指導 第7回 論文指導 第8回 論文指導 第9回 論文指導 第10回 論文指導 第11回 論文指導 第12回 論文指導 第13回 論文指導 第14回 論文指導 第15回 論文指導
評価方法・基準	: 授業への参加度（ディスカッションやプレゼンテーションなど）と研究成果（研究報告ならびに学術雑誌への投稿）を勘案して、総合的に評価します。
教 材 な ど	社会科学系の学術論文の書式『シカゴ・マニュアル』第8版を用意してください。 Kate L. Turabian, <i>A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing)</i> , 8th ed., revised by Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams, and the University of Chicago Press Editorial Staff (Chicago: University of Chicago Press, 2013).
備 考	:

■ BB200

科 目 名	: 生産経営情報特殊研究
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 高度情報化社会のグローバル競争激化の環境下では、マネジメント活動の効率化および創造性、柔軟性向上等の質的向上そして戦略的展開が企業存続・発展のための鍵となっている。 この基本認識に立って、物的生産のみならず知的生産に関するマネジメント活動を情報的経営資源面を中心に組織的視点およびシステムの視点から論じる。具体的には、方針決定、戦略立案から実施計画までの各種業務活動の業務遂行者を、いかに知的・ナレッジ・ノウハウ的側面から支援するかに関するシステム・アプローチを中心課題として研究を進める。
授業内容・方法	: 研究テーマに関する文献講読、プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に授業を進める。適宜カレントトピックに関するディスカッションを行うことにより、最新の知識の習得および思考の深耕を図る。
授 業 計 画	: 研究テーマに関する先行研究および関連研究についての課題を課し、授業は院生のプレゼンテーションおよびディスカッションを中心に進める。常に、高度の論理思考能力、システム思考能力を要求し、授業の場をいわば、思考鍛錬の道場となるようにする。
評価方法・基準	: ディスカッション、プレゼンテーションの内容等を勘案して、総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜、指示。あるいは、プリント配付。
備 考	:

■ BB201

科 目 名	: 生産経営情報特殊演習 I
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 本演習では、生産経営情報特論・特論演習および生産経営情報特殊研究での習得成果などを基礎にして、生産経営（知的生産・物的生産におけるマネジメント）に関する専門領域の特定テーマをさらに深耕する。本演習では生産活動の物流面・情報面の中の情報面、とりわけノウハウ／ナレッジ面に重点を置き、理論研究・実証研究を深めていく。特に、マネジメント活動における知的・ノウハウ的・ナレッジ側面からのシステム支援に焦点を合わせ、本研究領域でのオリジナリティを追求したい。
授業内容・方法	: 受講生の研究テーマについて、随時研究目標を設定し、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して研究指導を行う。適宜、適切な学会において発表を行わせ、客観的評価を取り入れる。最終的には、オリジナリティを追求した博士論文の完成を目指す。生産経営情報特殊演習 I では基礎的研究文献のレビューと討論に重点を置く。
授 業 計 画	: まずは、研究の位置づけを明確にした上で研究テーマを確定する。そして、研究テーマに関し、先行研究、関連研究のサーベイを広範囲に亘って行い、分析を進める。取り組むテーマの中心課題に関し、問題の構造化を行った上で、研究の焦点を絞り、本研究のオリジナリティを追求する。 第 1 回 問題発見・問題解決技法に関する基本的文献レビューと討論（1） 第 2 回 問題発見・問題解決技法に関する基本的文献レビューと討論（2） 第 3 回 問題発見・問題解決技法に関する基本的文献レビューと討論（3） 第 4 回 システム論に関する基本的文献レビューと討論（1） 第 5 回 システム論に関する基本的文献レビューと討論（2） 第 6 回 システム論に関する基本的文献レビューと討論（3） 第 7 回 研究テーマに関するシステム論的視点の検討（1） 第 8 回 経営情報に関する基本的文献レビューと討論（1） 第 9 回 経営情報に関する基本的文献レビューと討論（2） 第 10 回 研究テーマに関するシステム論的視点の検討（2） 第 11 回 フィールドスタディに関する基本的文献レビュー（1） 第 12 回 フィールドスタディに関する基本的文献レビュー（2） 第 13 回 研究の基本に関する討論 第 14 回 研究テーマに関するシステムアプローチ視点の検討（1） 第 15 回 研究テーマに関するシステムアプローチ視点の検討（2）
評価方法・基準	: 演習時のディスカッション、プレゼンテーションの内容等を勘案して、総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜、指示。あるいは、プリント配付。
備 考	:

■ BB202

科 目 名	: 生産経営情報特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 本演習では、生産経営情報特論・特論演習および生産経営情報特殊研究での習得成果などを基礎にして、生産経営（知的生産・物的生産におけるマネジメント）に関する専門領域の特定テーマをさらに深耕する。本演習では生産活動の物流面・情報面の中の情報面、とりわけノウハウ／ナレッジ面に重点を置き、理論研究・実証研究を深めていく。特に、マネジメント活動における知的・ノウハウ的・ナレッジ側面からのシステム支援に焦点を合わせ、本研究領域でのオリジナリティを追求したい。
授業内容・方法	: 受講生の研究テーマについて、随時研究目標を設定し、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して研究指導を行う。適宜、適切な学会において発表を行わせ、客観的評価を取り入れる。最終的には、オリジナリティを追求した博士論文を完成させる。生産経営情報特殊演習Ⅱでは文献レビューおよび事例を基に研究課題についての討論に重点を置く。
授 業 計 画	: まずは、研究の位置づけを明確にした上で研究テーマを確定する。そして、研究テーマに関し、先行研究、関連研究のサーベイを広範囲に亘って行い、分析を進める。取り組むテーマの中心課題に関し、問題の構造化を行った上で、研究の焦点を絞り、本研究のオリジナリティを追求する。 第1回 経営情報およびシステム論の動向に関する討論（1） 第2回 経営情報およびシステム論の動向に関する討論（2） 第3回 経営情報およびシステム論の動向に関する討論（3） 第4回 経営情報およびシステム論の動向に関する討論（4） 第5回 研究テーマに関するシステム視点の有効性検討（1） 第6回 研究テーマに関するシステム視点の有効性検討（2） 第7回 研究テーマに関するシステム視点の有効性検討（3） 第8回 研究テーマに関するシステム視点の有効性検討（4） 第9回 研究テーマに関する先行研究・最新研究動向の検討（1） 第10回 研究テーマに関する先行研究・最新研究動向の検討（2） 第11回 研究テーマに関する先行研究・最新研究動向の検討（3） 第12回 研究テーマに関する先行研究・最新研究動向の検討（4） 第13回 研究のテーマ報告および討論（1） 第14回 研究のテーマ報告および討論（2） 第15回 研究のテーマ報告および討論（3）
評価方法・基準	: 演習時のディスカッション、プレゼンテーションの内容等を勘案して、総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜、指示。あるいは、プリント配付。
備 考	:

■ BB203

科 目 名	: 生産経営情報特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 本演習では、生産経営情報特論・特論演習および生産経営情報特殊研究での習得成果などを基礎にして、生産経営（知的生産・物的生産におけるマネジメント）に関する専門領域の特定テーマをさらに深耕する。本演習では生産活動の物流面・情報面の中の情報面、とりわけノウハウ／ナレッジ面に重点を置き、理論研究・実証研究を深めていく。特に、マネジメント活動における知的・ノウハウ的・ナレッジ側面からのシステム支援に焦点を合わせ、本研究領域でのオリジナリティを追求したい。
授業内容・方法	: 受講生の研究テーマについて、随時研究目標を設定し、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して研究指導を行う。適宜、適切な学会において発表を行わせ、客観的評価を取り入れる。最終的には、オリジナリティを追求した博士論文を完成させる。生産経営情報特殊演習Ⅲでは、博士論文のオリジナリティの設定およびロジックフローの検討、さらに目次の決定と各章の課題についての討論に重点を置く。
授 業 計 画	: まずは、研究の位置づけを明確にした上で研究テーマを確定する。そして、研究テーマに関し、先行研究、関連研究のサーベイを広範囲に亘って行い、分析を進める。取り組むテーマの中心課題に関し、問題の構造化を行った上で、研究の焦点を絞り、本研究のオリジナリティを追求する。 第1回 博士論文の全体構成の検討（1） 第2回 博士論文の全体構成の検討（2） 第3回 博士論文の全体構成の検討（3） 第4回 博士論文の全体構成の検討（4） 第5回 博士論文の全体構成の検討（5） 第6回 博士論文の目次案の検討および文献検討（1） 第7回 博士論文の目次案の検討および文献検討（2） 第8回 博士論文の目次案の検討および文献検討（3） 第9回 博士論文の目次案の検討および文献検討（4） 第10回 論文の位置づけの検討（1） 第11回 論文の位置づけの検討（2） 第12回 問題意識とオリジナリティの再検討（1） 第13回 問題意識とオリジナリティの再検討（2） 第14回 博士論文のオリジナリティとロジックフローの再検討 第15回 博士論文のオリジナリティとロジックフローの再検討
評価方法・基準	: 演習時のディスカッション、プレゼンテーションの内容等を勘案して、総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜、指示。あるいは、プリント配付。
備 考	:

■ BB204

科 目 名	: 生産経営情報特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 井上 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 本年度休講
授 業 目 標	: 本演習では、生産経営情報特論・特論演習および生産経営情報特殊研究での習得成果などを基礎にして、生産経営（知的生産・物的生産におけるマネジメント）に関する専門領域の特定テーマをさらに深耕する。本演習では生産活動の物流面・情報面の中の情報面、とりわけノウハウ／ナレッジ面に重点を置き、理論研究・実証研究を深めていく。特に、マネジメント活動における知的・ノウハウ的・ナレッジ側面からのシステム支援に焦点を合わせ、本研究領域でのオリジナリティを追求したい。
授業内容・方法	: 受講生の研究テーマについて、随時研究目標を設定し、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して研究指導を行う。適宜、適切な学会において発表を行わせ、客観的評価を取り入れる。最終的には、オリジナリティを追求した博士論文の完成を目指す。生産経営情報特殊演習Ⅳでは博士論文の目次の検討と各章の記述内容検討を深め、オリジナリティに関する討論に重点を置く。
授 業 計 画	: まずは、研究の位置づけを明確にした上で研究テーマを確定する。そして、研究テーマに関し、先行研究、関連研究のサーベイを広範囲に亘って行い、分析を進める。取り組むテーマの中心課題に関し、問題の構造化を行った上で、研究の焦点を絞り、本研究のオリジナリティを追求する。 第1回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（1） 第2回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（2） 第3回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（3） 第4回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（4） 第5回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（5） 第6回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（6） 第7回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（7） 第8回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（8） 第9回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（9） 第10回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（10） 第11回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（11） 第12回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（12） 第13回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（13） 第14回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（14） 第15回 研究テーマに関する議論および博士論文各章の検討（15）
評価方法・基準	: 演習時のディスカッション、プレゼンテーションの内容等を勘案して、総合的に評価する。
教 材 な ど	: 適宜、指示。あるいは、プリント配付。
備 考	:

■ BB205

科 目 名	:	NPOマネジメント特殊研究
担 当 者	:	大木 裕子
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期 秋学期
授 業 目 標	:	アートマネジメントについての専門的な問題意識、視点、構造化の構築
授業内容・方法	:	自立のかつ創造的な研究
授 業 計 画	:	芸術・文化のマネジメントに関連する内容から、各自の興味に従いテーマを選定し、自立のかつ創造的な研究によりレポートを作成する。
評価方法・基準	:	最終レポート
教 材 な ど	:	授業で指示する。
備 考	:	

■ BB206

科 目 名	:	雇用関係論特殊研究
担 当 者	:	篠原 健一
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期 秋学期
授 業 目 標	:	雇用関係論の考え方を学び、学生が関心をもつテーマを選び、議論する。
授業内容・方法	:	講義、履修者による報告、ディスカッション
授 業 計 画	:	雇用関係論のなかで最新のテーマを選択し、そのテーマに関する日本語、英語の文献を講読する。
評価方法・基準	:	事前・事後学習の勉強量、報告内容、発言により評価する。
教 材 な ど	:	都度指示する。
備 考	:	

■ BB207

科 目 名	:	会計特殊研究
担 当 者	:	橋本 武久
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期 秋学期
授 業 目 標	:	簿記および財務会計領域を研究する博士後期課程生として必要かつ十分な、これらの領域に関するより深遠な知識の習得と理解に努める。
授業内容・方法	:	簿記・財務会計領域のうち、理論的・歴史的アプローチにより執筆された重要・必読文献について輪読し、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	:	邦文献は1回に1編、欧文献は3回に1編のペースで輪読を行う。担当に当たった受講生は、要点と論点について前もってレジュメにまとめ、それをもとにディスカッションを行う。
評価方法・基準	:	受講態度、発表内容、提出課題を総合的に評価する。
教 材 な ど	:	教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第7版）、中央経済社、2014年。 その他必要な資料については適宜コピーを配付する。
備 考	:	

■ BB208

科 目 名	: 会計特殊演習 I
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 博士論文執筆に向けて、受講生の問題意識を指導教員との議論の中で明らかにし、論文の方向性について確認する。
授業内容・方法	: 受講生による発表と議論を中心に行う。
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 修士論文との継続性の確認① 第 3 回 修士論文との継続性の確認② 第 4 回 修士論文との継続性の確認③ 第 5 回 問題意識の確認① 第 6 回 問題意識の確認② 第 7 回 問題意識の確認③ 第 8 回 想定されるコントリビューションと当該分野における先行研究の確認① 第 9 回 想定されるコントリビューションと当該分野における先行研究の確認② 第 10 回 想定されるコントリビューションと当該分野における先行研究の確認③ 第 11 回 論文構成の確認① 第 12 回 論文構成の確認② 第 13 回 論文構成の確認③ 第 14 回 研究方法論の確認① 第 15 回 研究方法論の確認②
評価方法・基準	: 演習内における発表・議論等 50%、レポート 50%
教 材 な ど	: 教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第 7 版）、中央経済社、2014 年。 その他必要な資料については適宜コピーを配付する。
備 考	:

■ BB209

科 目 名	: 会計特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: I で議論した結果をもとに、当該分野における先行研究を徹底的にレビューし、博士論文の執筆の意義とコントリビューションを明らかにする。
授業内容・方法	: 受講生による発表と議論を中心に行う。
授 業 計 画	第 1 回 先行研究レビュー① 第 2 回 先行研究レビュー② 第 3 回 先行研究レビュー③ 第 4 回 先行研究レビュー④ 第 5 回 先行研究レビュー⑤ 第 6 回 先行研究レビュー⑥ 第 7 回 先行研究レビュー⑦ 第 8 回 先行研究レビュー⑧ 第 9 回 先行研究レビュー⑨ 第 10 回 先行研究レビュー⑩ 第 11 回 先行研究レビュー⑪ 第 12 回 先行研究レビュー⑫ 第 13 回 先行研究レビュー⑬ 第 14 回 先行研究レビュー⑭ 第 15 回 先行研究レビュー⑮
評価方法・基準	: 演習内における発表・議論等 50%、レポート 50%
教 材 な ど	: 教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第 7 版）、中央経済社、2014 年。 その他必要な資料については適宜コピーを配付する。
備 考	:

■ BB210

科 目 名	: 会計特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: Ⅱで行った当該分野の先行研究のレビューを継続し、それらをもとに、博士論文のコントリビューションと論文の構成について、その適否を検討して確定する。また、論文の問題意識と構成を明示する「序論」の執筆とその報告を行う。
授業内容・方法	: 受講生による発表と議論を中心に行う。
授 業 計 画	: 第1回 先行研究レビュー⑩ 第2回 先行研究レビュー⑪ 第3回 先行研究レビュー⑫ 第4回 先行研究レビュー⑬ 第5回 先行研究レビュー⑭ 第6回 コントリビューションと論文構成の確定① 第7回 コントリビューションと論文構成の確定② 第8回 コントリビューションと論文構成の確定③ 第9回 コントリビューションと論文構成の確定④ 第10回 コントリビューションと論文構成の確定⑤ 第11回 「序論」執筆内容報告① 第12回 「序論」執筆内容報告② 第13回 「序論」執筆内容報告③ 第14回 「序論」執筆内容報告④ 第15回 「序論」執筆内容報告⑤
評価方法・基準	: 演習内における発表・議論等 50%、レポート 50%
教 材 な ど	: 教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第7版）、中央経済社、2014年。 その他必要な資料については適宜コピーを配付する。
備 考	:

■ BB211

科 目 名	: 会計特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 橋本 武久
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: I、II、IIIの検討踏まえて、博士論文の「本論」の執筆を開始するとともに、その内容について報告し議論を行う。そして、この議論を通して、論文の完成度を高め、また、当該分野の学会において発表を行なって、その質に關しての客觀的評価を得るとともに、博士論文の完成を目指す。
授業内容・方法	: 受講生による発表と議論を中心に行う。
授 業 計 画	: 第1回 「本論」執筆内容報告① 第2回 「本論」執筆内容報告② 第3回 「本論」執筆内容報告③ 第4回 「本論」執筆内容報告④ 第5回 「本論」執筆内容報告⑤ 第6回 「本論」執筆内容報告⑥ 第7回 「本論」執筆内容報告⑦ 第8回 「本論」執筆内容報告⑧ 第9回 「本論」執筆内容報告⑨ 第10回 「本論」執筆内容報告⑩ 第11回 「本論」執筆内容報告⑪ 第12回 「本論」執筆内容報告⑫ 第13回 「本論」執筆内容報告⑬ 第14回 「本論」執筆内容報告⑭ 第15回 「本論」執筆内容報告⑮
評価方法・基準	: 演習内における発表・議論等 50%、レポート 50%。または、完成した博士論文の内容によって、これらと代替する。
教 材 な ど	: 教科書：中央経済社編『新版会計法規集』（第7版）、中央経済社、2014年。 その他必要な資料については適宜コピーを配付する。
備 考	: 学会発表については、論文の進捗度に応じて判断し適当な時期を選んで行う。

■ BB212

科 目 名	: 会計監査特殊研究
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 監査論の最近の動向の中で、受講者が興味をもつテーマについて文献講読をおこないながら議論し、学生が感じる課題に関するレポートを作成する。
授業内容・方法	: 受講者が興味をもつテーマについて事前面談を行い、それに関連する先行研究を指示し、その内容について学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理論と実務に配慮しつつ指導することにより、学生諸君が財務諸表監査をより深く理解する手助けとする。
授 業 計 画	: 第 1 回 先行研究解読と理解 1 第 2 回 先行研究解読と理解 2 第 3 回 先行研究解読と理解 3 第 4 回 先行研究解読と理解 4 第 5 回 先行研究解読と理解 5 第 6 回 先行研究解読と理解 6 第 7 回 先行研究解読と理解 7 第 8 回 先行研究解読と理解 8 第 9 回 先行研究解読と理解 9 第 10 回 先行研究解読と理解 1 0 第 11 回 課題レポート作成準備(進捗状況報告と指導) 1 第 12 回 課題レポート作成準備(進捗状況報告と指導) 2 第 13 回 課題レポート作成準備(進捗状況報告と指導) 3 第 14 回 課題レポート作成準備(進捗状況報告と指導) 4 第 15 回 課題レポート発表
評価方法・基準	: 授業時における発言・発表内容 30%、レポート 70%として評価する。
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	:

■ BB213

科 目 名	: 会計監査特殊演習 I
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 博士論文で取り扱う研究テーマを決定し、論文の内容・構成について検討する。
授業内容・方法	: 研究テーマを決定するために講読する文献の指示を行い、その内容について学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深める。
授 業 計 画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 基本文献の講読 1 第 3 回 基本文献の講読 2 第 4 回 基本文献の講読 3 第 5 回 基本文献の講読 4 第 6 回 基本文献の講読 5 第 7 回 参考文献の講読 1 第 8 回 参考文献の講読 2 第 9 回 参考文献の講読 3 第 10 回 参考文献の講読 4 第 11 回 参考文献の講読 5 第 12 回 参考文献の講読 6 第 13 回 参考文献の講読 7 第 14 回 参考文献の講読 8 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	1. 授業時における発言・発表内容 : 50% 2. 博士論文作成準備進捗状況 : 50%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	: 毎年少なくとも 1 本の論文を発表すること。

■ BB214

科 目 名	: 会計監査特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 博士論文で取り扱う研究テーマについて先行研究を丹念にサーベイし、博士論文のオリジナリティに配慮し、研究発表の準備を行う。
授業内容・方法	: サーベイすべき先行研究文献を指示し、学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深める。
授 業 計 画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 先行研究文献の講読 1 第 3 回 先行研究文献の講読 2 第 4 回 先行研究文献の講読 3 第 5 回 先行研究文献の講読 4 第 6 回 先行研究文献の講読 5 第 7 回 先行研究文献の講読 6 第 8 回 先行研究文献の講読 7 第 9 回 先行研究文献の講読 8 第 10 回 先行研究文献の講読 9 第 11 回 先行研究文献の講読 1 0 第 12 回 先行研究文献の講読 1 1 第 13 回 先行研究文献の講読 1 2 第 14 回 先行研究文献の講読 1 3 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	1. 授業時における発言・発表内容 : 50% 2. 博士論文作成準備進捗状況 : 50%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	: 毎年少なくとも 1 本の論文を発表すること。

■ BB215

科 目 名	: 会計監査特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 博士論文に関連する先行研究を丹念にサーベイし、博士論文のオリジナリティに配慮し、博士論文執筆準備を行う。
授業内容・方法	: 会計監査特殊演習Ⅱに引き続き、サーベイすべき先行研究を指示し、その内容について学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深める。 また論文執筆に向けた準備・発表の場としての中間報告も行う。
授 業 計 画	: 第1回 先行研究文献の講読1 第2回 先行研究文献の講読2 第3回 先行研究文献の講読3 第4回 先行研究文献の講読4 第5回 先行研究文献の講読5 第6回 先行研究文献の講読6 第7回 先行研究文献の講読7 第8回 中間報告1 第9回 先行研究文献の講読8 第10回 先行研究文献の講読9 第11回 先行研究文献の講読10 第12回 先行研究文献の講読11 第13回 先行研究文献の講読12 第14回 先行研究文献の講読13 第15回 中間報告2
評価方法・基準	: 1. 授業時における発言・発表内容: 50% 2. 中間報告の内容 50%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	: 毎年少なくとも1本の論文を発表すること。

■ BB216

科 目 名	: 会計監査特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 吉岡 一郎
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 博士論文に関連する先行研究を丹念にサーベイし、博士論文のオリジナリティに配慮し、博士論文執筆準備を行う。
授業内容・方法	: 会計監査特殊演習Ⅲに引き続き、サーベイすべき先行研究を指示し、その内容について学生が作成してきた資料をもとにディスカッションを行い、理解・考察を深める。また中間報告を積極的に行い、論文執筆に向けた準備の促進を図る。
授 業 計 画	第1回 先行研究文献の講読1 第2回 先行研究文献の講読2 第3回 先行研究文献の講読3 第4回 中間報告1 第5回 先行研究文献の講読4 第6回 先行研究文献の講読5 第7回 先行研究文献の講読6 第8回 中間報告2 第9回 先行研究文献の講読7 第10回 先行研究文献の講読8 第11回 中間報告3 第12回 先行研究文献の講読9 第13回 先行研究文献の講読10 第14回 先行研究文献の講読11 第15回 最終報告
評価方法・基準	1. 授業時における発言・発表内容：50% 2. 中間報告の内容 20% 3. 最終報告の内容 30%
教 材 な ど	: 適宜指示を行う。
備 考	: 毎年少なくとも1本の論文を発表すること。

■ BB217

科 目 名	: 管理会計特殊研究
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期 秋学期
授 業 目 標	: 利益管理、収益管理、コスト・マネジメント等について研究する。
授業内容・方法	: 経営の大競争下において、利益管理、収益管理、コスト・マネジメント等が重要な経営課題になっている。経営のグローバル化、多角化、情報化を前提として、戦略的な視点ないし企業に対する貢献意欲といった視点から上記の課題に関して研究する。
授 業 計 画	: 第1回 イントロダクション 第2回 新製品開発と原価企画1 第3回 新製品開発と原価企画2 第4回 バランスト・スコアカード 第5回 セグメント管理会計1 第6回 セグメント管理会計2 第7回 組織成員の業績管理と管理会計1 第8回 組織成員の業績管理と管理会計2 第9回 原価低減1 第10回 原価低減2 第11回 ライフサイクル・コストイング 第12回 ABC(Activity-Based Costing) 第13回 グループ経営と管理会計 第14回 事業部制・カンパニー制と管理会計 第15回 レポートによる報告
評価方法・基準	: 講義への参加度合い 30%、講義における発言・理解度 40%、小レポート(各自・課題についてまとめたもの)の報告・質疑応答 30%
教 材 な ど	: 教材を配付する。
備 考	:

■ BB218

科 目 名	: 管理会計特殊演習 I
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマの諸問題について深く理解し、学修し習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 受講生が選んだ研究テーマに関する文献と最新の論文を講読し、要点を整理し、発表する。そして、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	: 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 研究課題文献の講読 1 第 3 回 研究課題文献の講読 2 第 4 回 研究課題文献の講読 3 第 5 回 研究課題文献の講読 4 第 6 回 研究課題文献の講読 5 第 7 回 研究課題文献の講読 6 第 8 回 中間報告 第 9 回 最新の課題文献の研究 1 第 10 回 最新の課題文献の研究 2 第 11 回 最新の課題文献の研究 3 第 12 回 最新の課題文献の研究 4 第 13 回 最新の課題文献の研究 5 第 14 回 最新の課題文献の研究 6 第 15 回 最終報告 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマに沿って、プレゼンテーション、ディスカッションを通して研究指導を行う。
評価方法・基準	: 発言・理解度・考察力 40%、レポート 60%
教 材 な ど	: 受講生の研究内容の進捗に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB219

科 目 名	: 管理会計特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマの諸問題について深く理解し、学修し習得し学内報告会への準備を行う。レポートを作成し提出することを目標とする。
授業内容・方法	: 受講生が選んだ研究テーマに関する文献と最新の論文を講読し、要点を整理し、発表する。そして、ディスカッションを行う。
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 研究課題の報告 1 第 3 回 研究課題の報告 2 第 4 回 研究課題の報告 3 第 5 回 研究指導と報告 1 第 6 回 研究指導と報告 2 第 7 回 研究指導と報告 3 第 8 回 中間報告 1 第 9 回 中間報告 2 第 10 回 レポート作成準備 1 第 11 回 レポート作成準備 2 第 12 回 レポート作成準備 3 第 13 回 レポート作成と報告 1 第 14 回 レポート作成と報告 2 第 15 回 レポート作成と報告 3 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマに沿って、プレゼンテーション、ディスカッションを通して研究指導を行う。そして、レポートを作成し提出する。
評価方法・基準	: 発言・理解度・考察力 40%、レポート 60%
教 材 な ど	: 受講生の研究内容の進捗に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB220

科 目 名	： 管理会計特殊演習Ⅲ
担 当 者	： 伊藤 進
週 時 間 数	： 2
単 位 数	： 2
配 当 年 次	： 2年
開 講 期 間	： 春学期
授 業 目 標	： 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマについて深く研究し、博士論文の完成に向けて研究する。論文を作成し、学内報告会で報告する。
授業内容・方法	： 受講生が選んだ研究テーマに関する論文の講読、要点整理、ディスカッション、論文提出等を行う。オリジナルな内容の研究成果が求められる。
授 業 計 画	： 第1回 イントロダクション 第2回 研究課題の報告1 第3回 研究課題の報告2 第4回 研究課題の報告3 第5回 研究指導と報告1 第6回 研究指導と報告2 第7回 研究指導と報告3 第8回 中間報告1 第9回 中間報告2 第10回 論文作成準備1 第11回 論文作成準備2 第12回 論文作成準備3 第13回 論文作成と報告1 第14回 論文作成と報告2 第15回 論文作成と報告3 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマに沿って研究指導を行いながらプレゼンテーション、ディスカッション、論文作成を行う。本研究領域でのオリジナリティを追求した論文の提出を求める。
評価方法・基準	： 発言・理解度・考察力 40%、レポート 60%
教 材 な ど	： 受講生の研究内容の進捗に応じて適宜指示する。
備 考	：

■ BB221

科 目 名	: 管理会計特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 伊藤 進
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマについて深く研究し、論文を作成し、博士論文の完成に向けて研究する。
授業内容・方法	: 受講生が選んだ研究テーマに関する論文の講読、要点整理、ディスカッション、論文提出等を行う。オリジナルな内容の研究成果が求められる。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション 第2回 研究課題の報告1 第3回 研究課題の報告2 第4回 研究課題の報告3 第5回 研究指導と報告1 第6回 研究指導と報告2 第7回 研究指導と報告3 第8回 中間報告1 第9回 中間報告2 第10回 論文作成準備1 第11回 論文作成準備2 第12回 論文作成準備3 第13回 論文作成と報告1 第14回 論文作成と報告2 第15回 論文作成と報告3 管理会計に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマに沿って研究指導を行いながらプレゼンテーション、ディスカッション、論文作成を行う。本研究領域でのオリジナリティを追求した論文の提出を求める。第6セメスターの終了時点で本研究領域でのオリジナリティを追求した博士論文の提出を求める。
評価方法・基準	: 発言・理解度・考察力 40%、レポート 60%
教 材 な ど	: 受講生の研究内容の進捗に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB222

科 目 名	:	金融工学特殊研究
担 当 者	:	岩城 秀樹
週 時 間 数	:	2
単 位 数	:	2
配 当 年 次	:	1 年
開 講 期 間	:	春学期 秋学期
授 業 目 標	:	金融工学分野での博士論文執筆に必要な数理解析能力を涵養する。
授業内容・方法	:	下記テキストの輪読
授 業 計 画	:	下記教科書を次の予定で輪読していく。 第 1 回 確率過程とBrown運動の定義 第 2 回 Gauss過程としてのBrown運動、Brown運動の見本路の性質 第 3 回 Brown運動のマルチンゲール性 第 4 回 Brown運動のMarkov性 第 5 回 一様可積分性 第 6 回 離散時間マルチンゲール 第 7 回 連続時間マルチンゲール 第 8 回 最適停止問題 第 9 回 単純過程の伊藤積分 第 10 回 発展的可測過程の伊藤積分 第 11 回 伊藤公式、伊藤過程 第 12 回 確率微分方程式と解の定義、解の存在と一意性 第 13 回 強解のMarkov性 第 14 回 拡散過程 第 15 回 Dyinkin公式とFeyman-Kac公式
評価方法・基準	:	輪読での発表態度および口頭試問
教 材 な ど	:	岩城秀樹『確率解析とファイナンス』共立出版 2008年
備 考	:	測度論・積分論を理解していることが受講前提となる。

■ BB223

科 目 名	金融工学特殊演習 I
担 当 者	岩城 秀樹
週 時 間 数	2
単 位 数	2
配 当 年 次	1 年
開 講 期 間	春学期
授 業 目 標	大学院博士後期課程レベルの金融工学の基礎知識を習得すること。
授業内容・方法	大学院博士後期課程レベルの金融工学のテキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表し、教員の試問に答えることが求められる。
授 業 計 画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 無裁定価格評価法 1 第 3 回 無裁定価格評価法 2 第 4 回 1 期間 2 項モデル 1 第 5 回 1 期間 2 項モデル 2 第 6 回 リスク中立化法 1 第 7 回 リスク中立化法 2 第 8 回 多期間 2 項モデル 1 第 9 回 多期間 2 項モデル 2 第 10 回 確率と確率過程 1 第 11 回 確率と確率過程 2 第 12 回 確率積分 1 第 13 回 確率積分 2 第 14 回 確率微分方程式 1 第 15 回 確率微分方程式 2
評価方法・基準	発表の内容および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	岩城秀樹『確率解析とファイナンス』 共立出版 2008 年
備 考	

■ BB224

科 目 名	: 金融工学特殊演習Ⅱ
担 当 者	: 岩城 秀樹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 1 年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 大学院博士後期課程レベルの金融工学の基礎知識を習得すること。
授業内容・方法	: 金融工学特殊演習Ⅰに引き続き大学院博士後期課程レベルの金融工学のテキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表し、教員の試問に答えることが求められる。
授 業 計 画	: - 第1回 イン트로ダクション - 第2回 ブラック・ショールズ・モデル1 - 第3回 ブラック・ショールズ・モデル2 - 第4回 ブラック・ショールズ式1 - 第5回 ブラック・ショールズ式2 - 第6回 アメリカン・オプション1 - 第7回 アメリカン・オプション2 - 第8回 先渡しと先物1 - 第9回 先渡しと先物2 - 第10回 リスク・ヘッジ1 - 第11回 リスク・ヘッジ2 - 第12回 スポット・レートとフォワード・レート1 - 第13回 スポット・レートとフォワード・レート2 - 第14回 金利派生資産1 - 第15回 金利派生資産2
評価方法・基準	: 発表の内容および口頭試問で評価する。
教 材 な ど	: 岩城秀樹『確率解析とファイナンス』 共立出版 2008 年
備 考	:

■ BB225

科 目 名	: 金融工学特殊演習Ⅲ
担 当 者	: 岩城 秀樹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 春学期
授 業 目 標	: 金融工学の修士論文テーマを決定し、論文を作成する上で必要な文献のサーベイを行なうことを目標とする。
授業内容・方法	: 受講者の研究テーマに関する、基本文献と最新の研究論文を読み、その要点を理解し発表することが求められる。
授 業 計 画	: - 第1回 ガイダンス - 第2回 基本文献の講読1 - 第3回 基本文献の講読2 - 第4回 基本文献の講読3 - 第5回 基本文献の講読4 - 第6回 基本文献の講読5 - 第7回 基本文献の講読6 - 第8回 中間報告 - 第9回 最新論文の研究1 - 第10回 最新論文の研究2 - 第11回 最新論文の研究3 - 第12回 最新論文の研究4 - 第13回 最新論文の研究5 - 第14回 最新論文の研究6 - 第15回 最終報告
評価方法・基準	: 発表の内容および口頭試問で評価する
教 材 な ど	: 受講者の研究テーマおよび進展状況に応じて適宜指示する。
備 考	:

■ BB226

科 目 名	: 金融工学特殊演習Ⅳ
担 当 者	: 岩城 秀樹
週 時 間 数	: 2
単 位 数	: 2
配 当 年 次	: 2年
開 講 期 間	: 秋学期
授 業 目 標	: 金融工学に関する研究領域のなかから受講生が選んだ研究テーマについて深く研究し、博士論文に取り組む。
授業内容・方法	: 受講者の研究テーマに関する、基本文献と最新の研究論文を読み、その要点を理解し発表することが求められる。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 第2回 基本方針に関する報告1 第3回 基本方針に関する報告2 第4回 研究指導1 第5回 研究指導2 第6回 研究指導3 第7回 中間報告1 第8回 中間報告2 第9回 研究指導4 第10回 研究指導5 第11回 研究指導6 第12回 論文準備1 第13回 論文準備2 第14回 最終報告1 第15回 最終報告2
評価方法・基準	: ディスカッション、プレゼンテーションの内容等を勘案して、総合的に評価する。
教 材 な ど	: 受講者の研究の進捗状況に応じて適宜指示する。
備 考	: